

平成 27 年 度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

「平成27年度群馬大学 大学教育・学生支援機構」報告書 発刊にあたって

大学教育・学生支援機構長

窪 田 健 二

群馬大学の大学教育・学生支援機構は、平成22年度から、主に教養教育の企画・運営を担当する教育基盤センター（平成28年度に、全学の教育実施・運営を担うことを明確にすべく大学教育センターに改名）、学生の大学生活全般を支援する学生支援センター、入試業務と入試広報を担当する学生受入センター、学生及び大学構成員の健康支援を主務とする健康支援総合センターの4センター体制で構成されています。また、これまでの教育企画室を改編し、大学教育全般にわたっての改革に向けた企画・立案を進めるものとして本機構の下に教育改革推進室を設置しました。さらに、総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際教育・研究センターも修学に必須の組織として、本機構と連携して活動しております。これら全ての組織は、群馬大学の教育業務を基幹的に担う重要な組織です。

平成27年は第2期中期目標の最終年度であり、第3期に向けて大学改革、とりわけ教育改革が強く叫ばれる年でした。また、高大接続改革実行プラン（平成27年1月）に基づき、「大学の個別選抜入試の改革」、「新テストの実施」、「高等学校教育の改革」、「大学教育の改革」の一体的推進方針が出され、学力の3要素の育成、学士力の育成が高校・大学に求められています。さらには、大学教育、人材育成の充実に向けた教学マネジメント体制の構築、大学教育の質保証のPDCAサイクルの確立に向けた3つのポリシー（DP、CP、AP）の策定が求められてきました。

本学では、大学評価・学位授与機構（現、大学改革支援・学位授与機構）による大学機関別認証評価を27年に受審し、多くの提言を受けてきました。従来より課題となっていた大学教育のグランドデザイン、教育の実施体制について専門的に検討企画していく組織の設置も、この提言からも強く求められるものでした。既に18歳人口の減少が始まりつつある現在、先の見通せない時代にあって我が国の将来を担い、世界に羽ばたくことのできる人材を育成していくためには、本学の教育・研究の質を更に一層高め、地域社会とも連携し社会ニーズに応えられる大学であることを示していくことが何よりも必要です。

そのため、本機構の各センターでの27年度の取り組みをここにまとめ、その総括と課題の摘出を進めていくものとして、本報告書を作成するものです。いわゆる評価疲れというものは大切なデータが散在していることによるものです。報告書をまとめ、評価と企画のための基礎となるデータの系統的整理を行っていくことは、教学のPDCAサイクルを実行する基本となる作業です。昨今、IRという言葉で重要視されている作業も、基礎データの整備があつてこそうまく進むものです。今後とも、各センターは他組織とも連携をとりながら、学生及び社会のニーズに合った教育と支援を提供してまいりたいと思います。

最後になりますが、本報告書の作成に当たり、各センターの業務遂行している中でご協力を頂いた教職員の皆様、また執筆して頂いた方々に深く感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

1 教育基盤センター	1
1.1 教育企画室	1
1.2 教養教育部会	2
1.2.1 はじめに	2
1.2.2 平成27年度活動概要	2
1.2.3 平成27年度活動内容	2
1.3 外国語教育部会	4
1.3.1 はじめに	4
1.3.2 英語習熟度別クラス編成，及び英語アチーブメントテスト	4
1.3.3 TOEIC IP	5
1.3.4 TOEFL ITP	5
1.3.5 TOEIC・TOEFL説明会	5
1.3.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験	5
1.3.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト	6
1.3.8 理工学部の英語教育カリキュラムについて	7
1.3.9 教育学部の英語教育カリキュラムについて	7
1.4 教育推進部会	8
1.4.1 はじめに	8
1.4.2 ベストティーチャー賞	8
1.4.3 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」	8
1.4.4 教養教育授業評価	8
2 学生支援センター	53
2.1 入学料免除及び徴収猶予	53
2.1.1 免除申請者数，免除者数	53
2.1.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	53
2.2 授業料免除及び徴収猶予	53
2.2.1 免除申請者数，免除者数	53
2.2.2 徴収猶予申請者数，徴収猶予者数	53
2.3 寄宿料免除	54
2.3.1 免除申請者数，免除者数	54
2.4 奨学金	54

2.4.1	日本学生支援機構奨学生数（平成27年10月1日現在）	54
2.4.2	日本学生支援機構以外の奨学生数（平成27年10月1日現在）	54
2.5	学生相談体制及び学生相談	54
2.5.1	学生相談体制	54
2.5.2	主な相談事項	54
2.5.3	学生相談アンケートの実施及び活用	54
2.6	授業欠席状況調査	55
2.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	55
2.6.2	実施方法，時期	55
2.7	障害学生への支援	55
2.7.1	障害学生数	55
2.7.2	支援内容	56
2.8	学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険	56
2.8.1	加入者数	56
2.8.2	請求種別保険金請求件数	56
2.9	通学証明書，旅客運賃割引証	56
2.9.1	発行枚数及び主な発行理由	56
2.10	学生寮	56
2.10.1	養心寮入寮者数	57
2.10.2	啓真寮入寮者数	57
2.11	生活支援施設	57
2.11.1	食堂	57
2.11.2	売店	57
2.12	課外活動施設	57
2.12.1	体育施設	57
2.12.2	文化施設	59
2.12.3	課外活動共用施設	60
2.12.4	合宿所	60
2.13	学生団体及び主な活動	60
2.13.1	学生団体	60
2.13.2	大学祭	60
2.13.3	関東甲信越大学体育大会	61
2.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	61
2.14	研修施設	61
2.14.1	北軽井沢研修所	61

2.14.2	草津セミナーハウス	62
2.15	学生の就職支援	62
2.15.1	進路状況及び主な就職先	62
2.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	62
2.15.3	キャリアカウンセリングの充実	63
2.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	63
2.15.5	就職支援の体制強化の充実	63
2.15.6	就職支援BOOKの作成・配付	63
2.16	就業力育成支援	63
2.17	学生生活実態調査	64
2.18	キャンパスニュース群の発行	64
2.19	事件・事故	64
2.20	学生支援センター資料集	64
3	学生受入センター	82
3.1	はじめに	82
3.2	オープンキャンパス	82
3.2.1	群馬大学オープンキャンパス	82
3.2.2	学部等オープンキャンパス	82
3.3	学生募集に係わる広報活動	82
3.3.1	大学案内，大学紹介動画の作成	82
3.3.2	出前説明会，出張模擬授業及び大学見学	82
3.3.3	進学相談会	83
3.3.4	ホームページ広報	83
3.3.5	高等学校等の教員を対象とした説明会	83
3.4	広報戦略の立案	83
3.5	入学者の追跡調査	83
3.6	その他	83
4	健康支援総合センター	88
4.1	はじめに	88
4.2	平成27年度年実施事業	88
4.2.1	学生定期健康診断の実施	88
4.2.2	精神保健調査の実施	88
4.2.3	学生特殊健康診断の実施	89
4.2.4	外国人留学生健康診断の実施	89
4.3	健康支援総合センター利用状況	89

4.3.1	利用人数及び件数	89
4.3.2	健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告	89
4.3.3	疾病領域別利用者数	90
4.3.4	診療科別医療機関紹介件数	90
4.3.5	薬剤別処方日数	90
4.3.6	キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動	90
4.4	教育関連活動	90
4.5	健康管理に関する調査研究活動	91
4.6	健康支援総合センター主催の委員会等	91
4.7	健康支援総合センターの全国会議等出席	91
4.8	学内行事実施に伴う救護業務	91
4.9	出版・広報活動	92
4.10	社会貢献活動	92
4.11	産業保健活動	92
4.11.1	安全衛生委員会	92
4.11.2	産業医部会	93
4.11.3	職員の定期健康診断	93
4.12	健康支援総合センターの現状及び今後の方向性	93
4.13	健康支援総合センター資料集	93

1 教育基盤センター

1.1 教育企画室

平成23年度から、教養教育及びこれに関連した教育体制のあり方を検討するために、教育基盤センターに教育企画室を設置し、センター長と連携して、教養教育に関する企画立案等を行っている。平成27年5月27日以降は、教育企画室と教育基盤センター運営委員会とで重複している委員が多いことから、合同で会議を開催することとした。

平成27年度の議題内容は、次のとおりである。（議題は、教育企画室関連を抜粋）

回	年 月 日	議 題
1	平成27年5月15日	1 平成27年度の体制について 2 教育基盤センター運営委員会への引き継ぎ事項について 3 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の公募について 4 今年度の予定について 5 その他
2	平成27年5月27日	1 教育企画室会議について 2 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の公募について
3	平成27年6月24日	1 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の公募について
4	平成27年7月22日	1 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の公募について 2 GPA制度の成績不振学生への活用について
5	平成27年9月30日	1 平成25年度の大学における教育内容等の改革状況について 2 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の応募協力の結果について 3 平成28年度概算要求文部科学省高等教育局主要事項について 4 GPA制度の成績不振学生への活用について
9	平成28年1月25日	1 文部科学省高等教育局主要事項 平成28年度予算（案）について

1.2 教養教育部会

1.2.1 はじめに

平成23年度に発足した教養教育部会は、教養教育を実施・運営するための調整をはじめとする実務的側面を担う組織である。部会長、副部会長、教育基盤センター副センター長、外国語教育部会部会長、科目委員会（学びのリテラシー、総合科目、情報、スポーツ・健康、人文・社会科学、自然科学）の各委員長、就業力育成支援室、国際教育・研究センター、生体調節研究所から各1名、及び、各学部教務委員（教育学部、社会情報学部、理工学部からは各1名、医学部からは医学科、保健学科より各1名の計2名）の構成員からなる。平成27年度は兼担者がおり総計17名のメンバーで活動した。また平成27年度は、1年任期の3号委員である各学部教務委員とともに、2年任期である1, 2, 4, 5号委員も交代の時期であったため、大半の構成員が交代して多くの新たなメンバーとともに活動を開始した。

1.2.2 平成27年度活動概要

教養教育部会は、毎月1回（原則として第3月曜日）に定例部会を開催し、教養教育実施に関する諸問題について討議した。平成27年度は、5月に第1回の部会を開催し、8月の休会及び1月の大雪による会議の中止を除いて、平成28年3月まで計9回の定例会議をもった。それに加えて、メールによる持ち回り会議を3回実施した。平成27年度における重要事項は、28年度にはウォークラリーを実施しないと決定したこと、大学の費用負担で日本語検定（3級）団体特別試験を、1年生全員に受験させる必要はないとの意見をまとめたことである。教養教育を巡る状況としては、各学部において転出・退職した専任教員の後任補充が十分に行われず、例年以上に、非常勤講師で対応することが外国語科目をはじめとして多くなった1年であった。

1.2.3 平成27年度活動内容

平成27年度教養教育部会の主な業務は例年と大きな変化はなく下記のとおりであった。

- 1) 次年度教養教育科目開講コマ数の確定
- 2) 次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）についての承認
- 3) 次年度教養教育科目等の時間割の確定
- 4) 次年度学年暦の作成・承認
- 5) 非常勤講師（ゲスト講師を含む）採用のための審査
- 6) 教養教育科目の授業にかかわる経費などの承認
- 7) 合宿研修費要求に関する審査
- 8) TAの採用に関する審査
- 9) 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
- 10) 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 11) 協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
- 12) 交換留学生の教養教育科目履修についての報告

これらの主要業務、及びそれに関連する事項について、月別に示すと以下のとおりとなる。

- 4月 新入生のオリエンテーションの実施
- 5月 交換留学生の前期教養教育科目履修届についての報告
教養教育関係予算案の承認
- 6月 平成28年度学年暦案の提示
- 7月 文化講演会の開催

前期期末試験の実施

平成28年度学部別担当コマ数に関する基本方針の承認

英国キール大学英語研修プログラムを「選択英語」の単位化についての外国語教育部会の承認

平成28年度学年暦案についての継続審議

学生と学長の懇談会実施

9月 平成28年度学年暦案の承認（ウォークラリー不実施の決定を含む）

10月 平成28年度教養教育実施体制案の提示

11月 放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
学びのリテラシー（2）の授業題目の追加

12月 平成28年度教養教育実施体制及び開講科目についての承認

1月 協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告

2月 平成28年度教養教育開講科目（一部変更）についての承認
他大学等で修得した単位認定に関して履修手引記載事項の変更
後期期末試験の実施

3月 平成28年度新入生オリエンテーション計画の作成
平成28年度TAの採用計画案についての承認

1) 日本語検定（3級）団体特別試験について

例年、5月のウォークラリー実施日の午後に行われていた日本語検定試験を4月のオリエンテーションの日程内で行った。結果、不合格者が2パーセントという好成績であった。この試験を1年生全員に受験させることは、「学びのリテラシー（1）」の授業を行うのにあたり、学生自身の日本語力のレベルを確認して授業担当教員の指導に役立たせてもらうのが当初の目的であった。しかしながら、その成績結果を有効に活用できていない現状がある。このような状況を踏まえ、議論を行った。意見としては、①ほとんどの学生が3級に合格するので、大卒程度の2級に変えてはどうか。②その場合、4月ではなく就職活動開始の時期に合わせてもう少し遅い時期に実施し、学生自身の意識向上に活用できるのでは。③日本人学生を2級にした場合、外国人留学生は2級または3級にするか。④外国人留学生も、日本人と同様に研究活動を行う前提で入学している以上、日本人学生と区別する必要はないのではないか。等があった。しかしながら、「学びのリテラシー」委員会から、2級、3級に関わらず、その成績を授業のなかで活用する予定はないとの見解が示されたことから、教養教育部会としては、日本語検定を大学の費用負担で1年生全員に受験させることは必要ないと判断し、来年度以降日本語検定団体特別試験を実施しない方針を決め、センター運営委員会に諮ることとした。

2) ウォークラリーの実施について

ウォークラリーは、旧教養部時代から続く20年以上の伝統を持つ行事で、これまで、スポーツ・健康委員会委員長を中心に、教育学部保健体育講座の協力を得て実施されてきた。しかしながら、平成26年度の議論では、教育基盤センターとしての実施運営体制の責任の所在が曖昧な状態にあり、加えて、世代交代によって教員が入れ替わり、教養部時代からの経緯を知らない教員が増え、なかなか協力が得にくい状況にあることから、平成27年度は一回実施を見送り、様子をみて改めて審議するとの結論であった。

この結論に基づき、本年度改めて議論を行った。近年は教育学部保健体育講座が全て運営しているのが実情であり、責任の所在の観点から問題があるとの点で意見が一致し、平成28年度については、ウォークラリーを実施しないと決定した。

3) 学びのリテラシー（2）の授業題目追加

平成26年度において「学びのリテラシー（２）」合計57コマの内、教育基盤センターと国際教育・研究センター、学生支援センターの教員が併せて8コマ担当している現状に関連して、提供されている授業が学生のニーズに合っていない可能性があり、授業のバランスが悪いのではないかと意見が出た。さらに、学生と学長との懇談会でも多様な授業を提供して欲しいという意見があったことを踏まえ、各学部等に「学びのリテラシー（２）」の開講コマ数増加の要請を行った。それを受け、男女共同参画推進室所属の教員が、新たに「学びのリテラシー（２）」のカテゴリーで、男女共同参画関連の講義を1コマ開講する運びとなった。

4) 平成27年度文化講演会について

今年度の文化講演会を以下のとおり実施した。なお、一般にも公開した。

○開催日時：平成27年7月28日（火）16：00～17：30

○会場：荒牧地区 大学会館ミューズホール

○講師：宮地由高氏〔NPO桐生市ボランティア協議会会長〕

○演題：「喜ばれる悦び―被災者支援活動を通して学んだこと―」

参加者は95名で、成功裡に終了した。参加者の内訳は以下のとおりであった。

総合科目群「ぐんま未来学」受講学生	79名
授業以外の本学学生	4名
教職員	11名
一般参加者	1名

1.3 外国語教育部会

1.3.1 はじめに

平成27年度、外国語教育部会は、前年度同様、全学の外国語教育の改善に取り組んだ。4月には全学部で新入生を対象に英語プレイスメントテストを実施し、その結果にもとづき、英語習熟度別クラス編成を行った。1年生のクラス規模については、全学部において、単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を34名以下とした。

今年度より、全学部1年生を対象に、英語統一テスト（TOEIC IP）の受験を義務付けた。理工学部においては、その結果を「英語1年」後期の成績に算入している。社会情報学部においては、その結果をもとに、「英語2年」の習熟度別クラス編成を行っている。ちなみに、理工学部においては、前期終了時にもTOEICをアチーブメントテストとして実施し、その結果を前期の英語授業の成績に算入している。また例年同様、希望者対象のTOEFL ITPの実施、eラーニングの推進を行った。さらに、ドイツ語及びフランス語の技能検定試験ならびに年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測した。

1.3.2 英語習熟度別クラス編成、及び英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は、平成19年度に行ったアンケート調査によって確認された、教員側のきわめて高い期待と受講生の一定の希望に基づき、平成20年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施され始めたもので、最終的には学部・学年を問わず全学のクラスに導入されることが望まれる。

平成21年度より、社会情報学部1年・2年、保健学科看護学専攻1年（保健A・Bクラス）、工学部応用化学・生物化学科1年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平成22年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画され、そのため22年度末には、社会情報学部及び工学部の全一年次生に対して、アチーブメントテストを

実施した。このデータをもとに、平成23年度の4月には両学部の全新生に対して、プレイスメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行った。平成25年度には、医学部（医学科・保健学科）の新入生に対して、翌26年度には、教育学部の新入生に対してもプレイスメントテストを実施した。今年度も、昨年度同様、1年次生については1クラス40名以下の習熟度別クラスを全学部で編成し、単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を1クラス34名以下とした。

プレイスメントテスト 平成27年4月1日（水）

14：00～15：30	受験者	医学部医学科	108名
14：40～16：10	受験者	社会情報学部	106名
16：30～18：00	受験者	医学部保健学科	160名
16：30～18：00	受験者	理工学部	539名*
14：40～16：10	受験者	教育学部	229名

監督：理工学部より8名、社会情報学部より2名、医学部より3名、教育学部より3名

* 追試者を含めると543名。

1.3.3 TOEIC IP

群馬大学では平成15年度からTOEIC IPを、「選択英語AI」「選択英語AII」と連動させながら継続的に実施しており、外国語教育部会が中心となって、多くの学生のTOEIC受験を促している。

実施は年2回（7月／1月）で、平成21年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。平成27年度の実施日時、受験者数は以下のとおりである。

1回目：平成27年7月22日（水；17：40～20：10）	実施：受験者	660名
2回目：平成28年1月28日（木；9：40～12：10）	実施：受験者	1,057名

1.3.4 TOEFL ITP

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため、群馬大学では平成20年度から、TOEFL ITPを荒牧キャンパスで年2回（6月もしくは7月と、12月もしくは1月）実施することとした。平成27年度の日程と受験者数は以下のとおりであった。

1回目：平成27年7月29日（水；17：40～20：05）	実施：受験者	61名
2回目：平成27年12月16日（水；17：40～20：05）	実施：受験者	34名

TOEFL ITPは、10名以上が参加しないと実施できないため、今後も外国語教育部会が中心となって、広報に努力を払い、各部局の協力を得ながら、参加者の拡充を目指していくこととした。

1.3.5 TOEIC・TOEFL説明会

TOEICならびにTOEFLについて、1年生を対象に英語学習説明会（4月15日）を荒牧キャンパス開催した（学生参加者 135名）。

1.3.6 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では、外国語教育部会が実施主体となって、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、群馬大学を会場にして、周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験、フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており、平成26年度もドイツ語技能

検定試験（５級～１級）及びフランス語技能検定試験（５級～１級）を、荒牧キャンパスにおいて実施した。実施日時と受験者数は以下のとおりである。

ドイツ語技能検定試験

実施日時：秋季試験：平成27年12月6日（日）全級（５・４・３・２・準１・１級）

学内外の総受験者数：46名（複数級併願者含む）

群馬大学生受験者数：５名（但し、このうち１名は獨協大学にて受験。なお書類に学校名を記入していない本学学生の受験者はこの数値に含まれない。）

フランス語技能検定試験

実施日時：春季試験：平成27年6月21日（日）５，４，３，準２，２，１級

学内外の総申込者数：53名（複数級併願者含む）

実施日時：秋季試験：平成27年11月15日（日）５，４，３，準２，２，準１級

学内外の総申込者数：78名（複数級併願者含む）

1.3.7 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

外国語教養科目のうち、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は、中学での英語授業時間の短縮、高校での英文法授業の簡略化に伴い、同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきた。また、英語以外の外国語学習は、その言語のみならず、英語や母語を含んだ総合的な言語能力を高め、学習者のコミュニケーション能力全体の向上に寄与することも期待される。したがって学習の達成度を客観的に測ることが望ましい。

外国語教養科目のうち、専任教員が在籍しているドイツ語及びフランス語については、学生たちの学習意欲を向上させるために、またその学習の進捗を図るために、平成21年度以来実施している共通のアチーブメントテストを今年度も実施した。（週２回１年間４単位（学習時間年間120時間*）履修可能な学部学科のうち、週１回分を専任教員が担当するクラスで年度末最終授業時に共通問題で実施（試験時間：ドイツ語45分、フランス語30分**））

ドイツ語共通アチーブメントテスト

実施日 平成28年１月26日（火）教育学部EB3・EB4クラス11名受験

実施日 平成28年１月29日（金）医学部医学科30名受験

実施日 平成28年１月27日（水）社会情報学部Aクラス４名受験

実施日 平成28年２月３日（水）社会情報学部Bクラス11名受験

フランス語共通アチーブメントテスト

実施日 平成28年１月25日（月）教育学部EA1～EA4クラス42名受験

実施日 平成28年１月26日（火）医学部医学科30名受験

実施日 平成28年２月３日（水）社会情報学部13名受験

平成21年度以来今年度に至るまでの実施結果からおおむね以下のことが得られている。

- * ４単位（120時間）を履修する学生の平均得点は、どの学部でも全国のドイツ語技能検定３級ないしフランス語技能検定３級合格者の最低得点とほぼ同等である。
- * 医学科の２単位履修者の得点は４単位履修者に比べて例年約20点低い。
- * クラスサイズが30名を超えると得点さが下がり始める傾向がある。

教室では、学生の興味やモチベーションは十分高いのに、学力・学習能力のみが少しずつ低下している印象を受ける。学生たちの興味を保ちながら、外国語の学習能力を高める指導の工夫が、今後の課題であろう。外国語の学習能力の全般的な向上は、学生たちの英語

力の向上にも寄与すると思われる。

1.3.8 理工学部英語教育カリキュラムについて

理工学部においては、学生の大学院進学率が高く、その進学の可否判定にはTOEICの得点利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率が高いため、高い学部・研究科であり、職に就いた後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部会は平成22年度に、群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部（現、理工学部）学生の英語力を増強するために、大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果23年度には、教育基盤センター「外国語教育部会」がこれを実行に移した。おもな変更点は以下のとおりであるが、24年度以降もこの方策を継承し、さらに、1クラスの受講者数を削減するために、全体のクラス増を実現した。平成27年度現在、計20クラスを開講し、引き続き、少人数クラスでの授業を実施している。

- 1) 週2回（90分×2回）の英語授業を履修させる。
- 2) 前期2単位、後期2単位で、1年次に4単位を取得させる。
- 3) 週2回のうち、1回は文法・読解力の養成、1回は聴解・会話等、コミュニケーション能力の育成を目指した授業とする。
- 4) 4月入学時にプレイスメントテストを行い、達成度別クラスを実現する。
- 5) 7月の前期終了時にアチーブメントテストを行い、その結果をもって、後期からのクラス編成を行う。
- 6) 1月に後期用のアチーブメントテストを行い、達成度を計測する。

本学では全学的に、卒業要件となる英語の単位は4単位となっているが、基本的な英語力の低い学生については、一年次に4単位を履修させることが望ましい。そのため、週2回の英語の授業で4単位を取得させるカリキュラムに変更した。また授業形態も、「読解型」と「コミュニケーション型」の2種類とした。

こうした改変の結果は、平成25年度末に行われたアチーブメントテストに明確に現れた。また、平成27年7月に実施したTOEIC-IPテストは過去最高の平均点となった。この原因としては、理工学部における統一カリキュラムの効果に加え、平成27年度より、理工学部の入試に英語試験が導入されたことに起因すると考えられる。なお、1年次修了時におけるTOEIC-IP（1月実施）の得点は平成21年以降、概ね順調に向上している。

1.3.9 教育学部英語教育カリキュラムについて

平成23年度より小学校第5・第6学年の外国語（英語）活動が必修化され、平成32年度には教科化全面実施が計画されている現在、教育現場では、小学校教員にも英語を指導する能力だけでなく、ALTとのチーム・ティーチングを行うための英語コミュニケーション能力が求められている。群馬大学教育学部では、大多数の学生が小学校の免許を取得しており、英語教育の重要性が増している。

平成27年度、外国語教育部会では、教育学部の要請を受け、平成29年度入学生以降の新カリキュラム実施を目指し、2年間で4技能を総合的に鍛えるための共通のシラバスの考案、適切な教科書・教材を選定、成績の付け方の統一、ないしは、不公平のない成績の付け方、2年次の習熟度別クラス編成等について、検討した。

1.4 教育推進部会

1.4.1 はじめに

前年度と同様、ベストティーチャー賞選考、教養教育授業評価及び教養教育アンケートを行った。また、前年度教養教育でのベストティーチャー賞受賞者による公開授業を実施した。

1.4.2 ベストティーチャー賞

平成18年度に創設された「ベストティーチャー賞」を継続実施した。

平成27年に実施した平成26年度ベストティーチャー賞最優秀賞候補者による公開模擬授業の結果、審査委員より一人あたりの発表時間が短い旨の意見が出され、平成28年度の公開模擬授業より、一人あたりの発表時間を延長することとなった。対応として、各部局より推薦された受賞候補者の中から、審査委員会委員による書面審査により概ね3～4名の最優秀賞候補者を選出し、最終審査である公開模擬授業を実施することとなった。平成27年度ベストティーチャー賞受賞候補者の書面審査により、教育学部保健体育講座 鬼澤陽子准教授、保健学研究科看護学講座 恩幣宏美准教授、理工学府電子情報部門 弓仲康史准教授が最優秀賞候補者に選ばれた。平成28年7月26日に、3名の最優秀賞候補者による公開模擬授業、及び、学長・理事・学部長等による審査委員会を開催し、最優秀賞・優秀賞受賞者を決定した。最優秀賞受賞者は、理工学府から選出された弓仲康史准教授で、他の受賞候補者は全員が優秀賞を受賞した。今年度も、公開模擬授業を荒牧地区で実施し、桐生地区にも同時中継することで、FDの一環とした効果の波及を図った。また、今年度は教養教育科目の「ぐんま未来学」の一貫としても行い、多数の学生が参加した。

昨年度と同様に教養教育から選出された3名の受賞者の後期担当授業を、公開授業として指定し、教員、学生に公開した。

1.4.3 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」

平成21年度から実施している全学FD連続講演会を開催した。

平成27年12月7日に、一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター 松塚ゆかり教授により「大学教育国際化の課題、工程、意義」をテーマに開催した。大学教育の国際化について「チューニング」の概念を用いて、日本における実践の可能性と事例を紹介いただき、出席者は40名であった。

1.4.4 教養教育授業評価

各授業題目に対する授業評価アンケートを平成25年度から新たに全学として教養教育科目に導入された「学びのリテラシー（１）」及び「学びのリテラシー（２）」で実施するとともに、1年生全員を対象に、教養教育全体に対するアンケートを教務システムを用いて実施した。

学びのリテラシー（１）は、全学共通の講義として開始し、試行年度を含めて4年目を迎えた。学びのリテラシー（１）の目的は「日本語能力の涵養」ならびに「プレゼン能力の涵養」である。今年度のアンケートでは、部局間の差が顕著に表れている。教育学部では、全ての質問項目で、1「あてはまる」を選んだ学生が5割近くに達した。一方、全体的には、学びのリテラシー（１）の目標である日本語能力の向上（質問3）及び、大学での学習方法の修得（質問6）では2割近い学生が3「あてはまらない」・4「あまりあてはまらない」を選択したのに対し、報告の仕方やレポートの書き方（質問4）、及び、情報収集や引用の方法（質問5）では、概ね目的は達成されていると判断できる。また、本講義の実施には、アクティブラーニングを取り入れることを推奨しているが、いくつかの部局で、教室での討論（質問8）及びコミュニケーションをとる機会（質問9）では、3「あまりあてはまらない」・4「あてはまらない」を、質問15では2「あてはまらない」を選んだ学生が2割を超えた。

「学びのリテラシー（２）」では、授業内容（質問1）及び授業の進行（質問2）では、9

割を超える学生が1「あてはまる」・2「ややあてはまる」と答えている。しかしながら、アクティブラーニングに関する内容の質問3「教室での討論は活発であった」・質問4「教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった」に関しては、2割を超える学生が3「あまりあてはまらない」・4「あてはまらない」と回答した。授業のマネジメントに関する質問6・8・9に関しては、9割以上の学生が1「あてはまる」・2「ややあてはまる」と答えている。全体を通して、学びのリテラシー（2）では、満足のいく教育効果が得られているものと判断される。

教養教育アンケートでは、「教養教育のカリキュラム」（設問2）、「教員の授業の教え方」（設問3）、「事務窓口の対応」（設問4・5）、「学生支援体制」（設問7）、「全学オリエンテーション」（設問8）、「シラバス」（設問9）、「教養教育の授業案内・履修手引き」（設問10）に関しては「あまり役に立たなかった・役に立たなかった」と否定的に答えた学生は1割程度にとどまっている。しかしながら、学生の講義以外の学習時間に関する設問（設問12・13）では、1日当たりの予習・復習時間が1時間未満と答えた学生が概ね6割で、9割を超える学生が2時間未満であった。科目群別にみると、「あまり役に立たなかった・役に立たなかった」と回答した学生は、「学びのリテラシー（1）」10.8%、「学びのリテラシー（2）」9.5%、「情報」7.7%、「就業力」9.5%、「人文科学科目群」10.7%、「社会科学科目群」8.2%、「自然科学科目群」7.9%、「健康科学科目群」6.4%、「外国語教養科目群」6.4%、「総合科目群」5.3%、「学部別科目」5.1%であった。一方、「大変役に立った・少し役に立った」と回答した学生は、「学びのリテラシー（1）」77.5%、「学びのリテラシー（2）」74.6%、「情報」77.3%、「就業力」64.9%、「人文科学科目群」67.5%、「社会科学科目群」71.3%、「自然科学科目群」60.6%、「健康科学科目群」68.3%、「外国語教養科目群」67.8%、「総合科目群」66.5%、「学部別科目」86.3%であった。全体的に、全ての科目群で3人に2人近くの学生が役に立ったと判断しており、また、役に立たなかったと感じた学生が1割程度であったことから、教養教育科目は概ね問題なく進行していると判断できる。

資料

1. 平成27年度ベストティーチャー賞行事予定
2. 平成27年度ベストティーチャー賞優秀者及び最優秀賞候補者一覧
3. 平成27年度ベストティーチャー賞受賞候補者プロフィール及び授業・教育方法の紹介
4. 平成27年度教養教育ベストティーチャーによる公開授業開催について
5. 第7回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」の開催について
6. 平成27年度前期授業評価（学びのリテラシー）集計表
7. 平成27年度後期授業評価（学びのリテラシー）集計表
8. 平成27年度教養教育アンケート集計表（教務システム利用）

資料 1

平成27年度ベストティーチャー賞行事予定

主 催：教育基盤センター

1. 日 時：平成28年7月26日（火）16：00～19：00
2. 場 所：大学会館ミューズホール（荒牧キャンパス）
3. 日 程
 - (1) 公開模擬授業（16：00～17：35）
 - 場所：ミューズホール
 - 司会：（教育基盤センター教育推進部会長）
 - 1－1 開会
 - 1－2 挨拶・趣旨説明 （教育・企画・国際交流担当理事）
 - 1－3 模擬授業 最優秀賞候補者3人
 - 16：05－16：35 鬼澤 陽子（教育学部 保健体育講座 准教授）
 - 16：35－17：05 恩幣 宏美（保健学研究科 看護学講座 准教授）
 - 17：05－17：35 弓仲 康史（理工学府 電子情報部門 准教授）
 - 1－4 閉会
 - (2) 審査委員会の開催（17：40～18：00）
 - 場所：大学会館3階会議室
 - 議長：平塚浩士 学長（審査委員会委員長）
 - 2－1 審議 （審査委員会／学長・理事・学部長等）
 - (3) ベストティーチャー賞授与式（18：05～18：20）
 - 場所：ミューズホール
 - 進行：（教育・企画・国際交流担当理事）
 - 3－1 開式
 - 3－2 審査結果・学長挨拶
 - 3－3 表彰状・副賞授与
 - 3－4 受賞者代表挨拶
 - 3－5 閉式
 - 3－6 記念撮影
 - (4) 学長・受賞者を囲んでの茶話会（18：30～19：00）
 - 場所：大学会館1階レストラン「あらまき」
 - 進行：（副機構長）
 - 4－1 開会
 - 4－2 受賞の感想
 - 4－3 懇談
 - 4－4 閉会
 - (5) その他
新採用教員は、FDの一環として公開模擬授業へ参加するものとする。

資料2

平成27年度ベストティーチャー賞優秀者及び最優秀賞候補者一覧

H28.6.7

区 分 (推薦母体)	優 秀 賞 候 補 者		最優秀賞候補者 ※印の者
大学教育・ 学生支援機構	藤本 宗利	教育学部 国語教育講座 教授	
	網井 秀樹	理工学府 分子科学部門 教授	
	岩瀧 大樹	教育学部 附属学校教育臨床総合センター 准教授	
教育学部	鬼澤 陽子	教育学部 保健体育講座 准教授	※
	川上 晃	教育学部 音楽教育講座 教授	
社会情報学部	平田 知久	社会情報学部 社会情報学講座 講師	
医学部医学科	佐野 利恵	医学系研究科 生体防御機構学講座 講師	
医学部保健学科	恩幣 宏美	保健学研究科 看護学講座 准教授	※
理工学部	弓仲 康史	理工学府 電子情報部門 准教授	※
	中沢 信明	理工学府 知能機械創製部門 准教授	
	堀内 宏明	理工学府 分子科学部門 准教授	

平成27年度ベストティーチャー賞受賞候補者

プロフィール及び授業・教育方法の紹介

最優秀賞候補者

【教育学部 推薦】

(1) プロフィール

氏 名（ふりがな）：**鬼澤 陽子（おにざわ ようこ）**

所属・職名：教育学部 保健体育講座・准教授

出身：茨城県

最終学歴：筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科体育学専攻 修了

簡単な職歴：平成20年4月～平成22年9月 日本女子体育大学体育学部 講師

平成22年10月～平成25年6月 群馬大学教育学部 講師

平成25年7月（～現在に至る） 群馬大学教育学部 准教授

専門内容：体育科教育学

主な著書：

- ・鬼澤陽子（2010）第Ⅳ部 practice10. ゴール型ゲームの教材づくり・授業づくり．（187-196頁），高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編 『新版 体育科教育学入門』大修館書店，全296頁．
- ・鬼澤陽子（2013）教師用指導資料 小学校におけるボール運動領域の体育授業プログラム—ボールゲーム・鬼遊び，ネット型（ゲーム）・ベースボール型（ゲーム）—．群馬大学・群馬県教育委員会編，デジタル教材作成協力者．
- ・鬼澤陽子（2014）教師用指導資料 小学校体育（運動領域）デジタル教材 低学年．文部科学省編，デジタル教材作成協力者．

(2) 受賞授業名

「保健体育科指導法Ⅰ」「体育科指導法（一）（二）（三）」「球技実習A」

(3) 授業の概要

□「保健体育科指導法Ⅰ」

体育授業の指導＝運動部活動の指導ではないことを十分に理解させた上で，体育科教育学の基礎知識を習得するとともに，①すぐれた体育授業の映像を視聴して，その特徴の「討議」や，②指定された図書を読み，レジュメを作成した上で「プレゼンテーション」，また③課題に応じて技能のポイントや指導計画を立て，学習指導の準備をした上での「マイクロティーチング」も行っています。

□「体育科指導法（一）（二）（三）」

受講生には，体育の指導にはノウハウがあり，そこに学ぶべき内容があるということをしっかり教えています。このことをしっかり学ばないと，どうしても自分の子ども時代の経験に基づいた指導に偏る傾向があります。子ども時代の「教わる側」から，教師として「教える側」に変わることを認識させ，目の前の子どもたちを「どのように伸ばしていくのか，伸ばせるのか」は，教師にかかっているということをしっかりと自覚させるように，実技・講義を通して指導しています。

□「球技実習A」

実技を通してボール運動における教材づくり・授業づくりについて理解を深めることをねらいとし、ボール運動のなかでも「ネット型」「ゴール型」を取り上げています。例えば、①フラッグフットボールは、現行の学習指導要領で初めて例示された種目であり、1プレーずつみんなで集まって作戦を考えた上でプレーすることから、戦術学習に適していると注目されています。そこで、「作戦の立案→実行→検証・修正」のサイクルを取り入れた1授業の展開のしかたや単元の組み立て方についても取り上げ、実践しています。この他、②教育改革・群馬プロジェクトの第一分科会(地域貢献事業)として群馬県教育委員会と連携して「体育指導が得意でない先生のもとでも、子どもたちが運動を好きになる」ことをコンセプトに開発した小学校体育授業プログラムを活用しながら、模擬授業形式での実技も行っています。

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

学生には「穏やか」に接しています(つもりです)。ただ、学生の持っている力のある程度の水準まで引き上げられるように、「高い」水準の要求をすることもあります。難しそうな課題に出会ったときに、「自分はできない」とはじめてあきらめるのではなく、「どうすればできるのか?」と課題解決に向けたアプローチが重要であり、課題をクリアしたときの達成感を味わわせることも大切なことだと考えています。そのため、学生の成長を楽しみに、要求水準をコントロールしながら教育活動に取り組んでいます。

(5) 授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

例えば、「保健体育科指導法Ⅰ」では、1回目の授業で1人1枚の台紙(画用紙)を配布し、授業内(あるいは、授業外)での課題シートに対して、その台紙に貼って提出させています。そして、1人1人の学生がどのような学びをしたのかを確認し(必要に応じてコメントを記入)、翌週の授業で返却します。学生の理解度のレベルによっては、こちら(教師)側の授業計画を変更することもあります。また、本講義を通してどのような学びをしたのか、学生自身の振り返りにも役立っています。

「球技実習A」では、実技を中心とした授業ですが、授業で取り扱った内容を毎時間ノートにまとめて、授業後4日以内に提出させています。具体的には、①技能のポイント、②練習の意図とその方法、③子どものつまずきとそれに応じた指導、④チームの話合いでの内容・作戦の動き・ゲーム記録、そして、⑤自分が指導するときに気をつけたいこと、なども合わせて記載させています。このノートを使って、学生がどのような学びをしたのかを確認し、コメントを記入した上で翌週の授業で返却しています。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

学生には、子ども時代の「教わる側」から、教師として「教える側」に変わることを認識させ、目の前の子どもたちを「どのように伸ばしていくのか、伸ばせるのか」に目を向けられるように、学校現場と連携しながら教育活動を行っています。また、学生には、自身が試行錯誤しながら問題を解決し、できるようになっていく過程(自分の成長)を再認識させ、「できるようになることの喜びや達成感」を経験させたいと思っています。そのために、必要な仕掛けや手だてを取り入れています。

教員養成段階において、このような経験を積み重ねることによって、学ぶ意義や本質を理解するとともに、子ども1人1人の成長を認められる教師になってもらいたいと思いながら、教育活動をしています。

【医学部保健学科 推薦】

(1) プロフィール

氏 名 (ふりがな) : **恩幣 宏美 (おんべ ひろみ)**

所属・職名 : 保健学研究科・准教授

出身 : 京都府

最終学歴 : 群馬大学大学院保健学研究科保健学専攻 博士後期課程 修了

簡単な職歴 : 臨床歴 13年

京都橘大学看護学部 : 助手

群馬大学医学部保健学科 : 助教

群馬大学大学院保健学研究科 : 講師

専門内容 : 成人看護学

主な著書 :

1. Hiromi Onbe, Kiyoko Kanda (2014) . Notable Cultural Aspects that Affect Hemodialysis Patient's Attitudes toward Dietary Therapy. Studies in Comparative Culture, Noll0, 105-113.
2. Hiromi Onbe, Michiyo Oka, et al (2013). Defining the culture and attitude towards dietary management actions in people undergoing haemodialysis. Journal of Renal Care, 39 (2) . 90-95.

(2) 受賞授業名

生涯人間発達学, 成人看護学方法論Ⅰ, 成人看護学方法論Ⅱ, 成人看護学方法論演習Ⅰ, 成人看護学方法論演習Ⅱ, 成人看護学実習Ⅰ, 成人看護学実習Ⅱ, 看護学総合実習, チームワーク実習, クリティカルケア論, 卒業研究, 学びのリテラシーⅡ

(3) 授業の概要

学部1年生 (生涯人間発達学, 学びのリテラシーⅡ) : 大学教育入門としての基礎的内容

学部2年生 (成人看護学方法論Ⅰ, 成人看護学方法論Ⅱ) : 専門教育としての基礎的内容

学部3年生 (成人看護学方法論演習Ⅰ, 成人看護学方法論演習Ⅱ, 成人看護学実習Ⅰ, 成人看護学実習Ⅱ, チームワーク実習) : 既習の知識を活かし, 臨地に即した実践を行うために必要な内容

学部4年生 (看護学総合実習, クリティカルケア論, 卒業研究) : 既習の知識を統合し, 実践を行う内容

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

教員の伝えたい内容のみを一方的に伝えるだけの授業とならないように, ①語りかけるように伝える, ②学生のそばに向いて伝える, ③授業の途中で, 学生の考えや思いを確認し, 授業に反映させる, ④前回の授業のレスポンスデータに触れ, フィードバックする, ⑤教員自身もグループワークの議論に参加し, 共同して学生の学びを深めること, を心がけている。

(5) 授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

私の研究テーマは患者の態度変容である。具体的には, 人間の態度を構成している2つの要因 (感情と認知) に働きかけることで態度変容を促すものである。授業では, この考え方に加えて, 私のこれまでの臨床経験を取り入れている。このことにより, 授業で得た知識を通して学生の認知に働きかけ, ポジティブに授業内容を捉えられる工夫によって学生の感情に働きかけ, 知識を記憶にとどめようとするものである。

その一例として以下に紹介するのは, 青年期から向老期の理解にむけた授業 (生涯人間発達学) における取り組みである。

「人間の壮年期の認知機能，すなわち，結晶性知能，総体的知能，流動性知能のうち，流動性知能は年齢と共に低下するとされる」。この知識を学生が仮に，“過去に有していた機能の低下”に偏って着目した場合には，年を重ねることをネガティブに捉えてしまうかもしれない。そのため，先の知識提供に引き続いて「…，その一方で，結晶性知能は様々な経験を通して年齢と共に向上する能力とされる」ことを添える。ここで学生に期待するのは，年齢を重ねることで流動性知能の低下は避けられないが，様々な人生経験を通して結晶性知能はいつまでも向上することが出来るという理解である。さらに「それゆえに，結晶性知能が向上できるように，様々な経験を大切にしながら楽しく生活することが重要である」と続け，学生のポジティブな感情に働きかける。このような取り組みによって，学生は結晶性知能，総体的知能，流動性知能という3つの知能を記憶する率が上がると考え，実践している。

次に紹介するのは，手術を受ける患者の看護を学ぶ成人看護学方法論Ⅱの授業において，Japan coma scaleなどの尺度を利用した意識レベルの確認の必要性を伝えた際の工夫である。ここでは教科書的な知識の提供に加えて，脳外科術後に急に意識レベルが低下した患者に遭遇した際の経験談を添えた。

このようなリアルな情景を交えることにより，学生は“なぜ看護師はJapan coma scaleでの意識レベルの確認が必要なのか，なぜ国家試験で問われるのか”を理解できると考える。すなわち，学生は「今後，看護師になるためには…」という文脈の中で，与えられた知識を記憶にとどめることができる。

このように，私はリアルな情景を伝えつつ，感情に働きかける授業を通して，知識を詰め込むだけでなく，なぜこの学習が必要かという部分にも働きかけつつ，授業を展開するように工夫している。

（6）意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

学生自身が看護学を学ぶだけではなく，高度専門職になることを見据えて学生自身の価値観を磨き，人間として成長できる教育活動を目指している。また，看護とは臨地で活かされる学問であることから，講義だけではなく，演習や臨地実習での学びを，学生の個性に応じて効果的になるように教育活動に取り組んでいる。例えば，実習中に患者との関係に悩み，病棟実習に行けなくなってしまった学生のケースでは，面談に十分な時間を充て，実習先に行けなくなった理由を聞き，その学生の思いに寄り添うようにした。そして，適宜，私自身が看護師としてのロールモデルとなり，学生の目前で患者への看護を実践することで，看護の醍醐味を学生が体感できるように工夫し，実習を完遂した。前述のケースはあくまでも一例ではあるが，教育活動のいずれの場面でも大切となるのは，コミュニケーションだと考えている。加えて，学生は様々な感情や認知を持った一人の人間という対等な関係で向き合うことを心がけている。

【理工学部 推薦】

（1）プロフィール

氏 名（ふりがな）：**弓仲 康史（ゆみなか やすし）**

所属・職名：理工学府 電子情報部門・准教授

出身：茨城県

最終学歴：東北大学 博士後期課程修了

簡単な職歴：平成5年4月 日本学術振興会特別研究員（～平成7年3月）

平成7年4月 群馬大学工学部 助手

平成10年8月 トロント大学訪問研究員（～平成10年11月）

平成12年7月 群馬大学工学部 講師

平成15年12月 群馬大学工学部 助教授

平成19年4月 群馬大学大学院工学研究科 准教授

平成25年4月 群馬大学理工学府電子情報部門 准教授（現在に至る）

専 門 内 容：信号処理・通信技術を用いたチップ内/間高速インタフェース技術
多値情報処理，アナログ・デジタル信号処理・集積回路技術
モーションキャプチャデバイスを用いた動画像処理とその医療福祉応用

主 な 著 書：なし

（2）受賞授業名

学生が履修した全ての科目（学生実験，卒業研究を含む）が対象授業である。

主な担当科目として、「計算機工学（3年前期）」、「プログラミング基礎（2年前期）」など。

（3）授業の概要

専門分野に関連し，特に講義内容を工夫している「計算機工学」では，情報通信技術を支える基盤技術であるデジタル回路及び計算機アーキテクチャの基礎に関する授業を行っている。特に，「講義の到達目標の明確化」，「基礎知識の定着」，「講義内容と実製品との関連」を意識した講義展開により，学生の自発的学習意欲の醸成及び教員の自発的授業改善の意識改革を心がけている。

（4）授業で学生に接する場合に留意している点

【学生の自発的学習意欲の醸成】

多様化する学生の「質保証」を担保するカリキュラムポリシーとして，全ての学生に基盤となる基礎知識を修得・定着させると共に，学生の自発的学習意欲の醸成に留意している。さらに，社会人マナー及び技術者倫理なども講義し，社会が要請する「就業力」，「社会人基礎力」を学生に付与させることを目標として学生に接している。学生が「大学は学ぶことを学ぶ場所」であることの重要性に自ら気づき，知的好奇心を刺激するような講義展開を心がけている。

（5）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

講義においては，到達目標を明確にすると共に，基盤となる基礎知識を確実に定着させつつ，その技術がどのような製品に実際に活用され役立っているかという具体的な事例を示すなど，学生の勉学へのモチベーションを向上させるきっかけ作りを常に意識した以下のような講義構成を工夫している。

【講義の到達目標の明確化】

講義の冒頭で，当日の講義の概要及び講義により修得可能なスキルを到達目標として明確に提示し，講義の最後に小テスト等で各自に達成度を確認させている。これにより，講義への集中度を高めると共に，講義終了後に「講義前は出来なかったことが出来るようになった」という充実感と次回の講義への期待感を持たせることが可能となる。

【基礎知識の定着】

人は自分で気がついて理解した内容は忘れにくい。「自分で気がついた，理解した」と思わせる講義展開を心がけると共に，暗記・記憶が必要な事項はテキストに載っていない独自の「覚え方」を覚えさせ，他の講義科目との関連を示すことにより系統的な基礎知識の定着をアシストしている。

【講義内容と実製品との関連】

例えば，身近な製品であるSuicaカードを見せながら，「ICカードには電池が入っていないのに，なぜ，カード内に情報を記憶し運賃等のデータのやりとりができるのだろうか？」と問いかけ，興味を持たせた後に，電磁誘導による発電の原理，通信方式等の関連技術の解説を行い，講義内容と実製品との関係を紹介するなどして，知識の理解・深化を図っている。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

【教員の自発的授業改善の意識改革】

学生100人全員の意識改革より、教員1人の意識改革のほうが容易である。学生を育てる教員本来の責務を「ノブレス・オブリージュ」として再認識し、意欲的かつ継続的な授業改善を行うべきである。授業評価結果を見ると、①講義内容と実製品との関連、講義の到達目標の明確化を常に意識し、身近な製品に関連する技術内容と講義により修得したいという興味を持続させつつ、関連問題を多数解かせながら各自の達成度を確認させている点、②講義アンケートを的確にフィードバックさせ、講義改善に反映させている点、③より深化させた知識・技術を知りたいという知的好奇心・学習意欲を自発的に醸成させている点等、教育活動の「情熱」が学生にも伝わったものと思われる。

優秀賞候補者

【大学教育・学生支援機構 推薦】

(1) プロフィール

氏 名 (ふりがな): **藤本 宗利 (ふじもと むねとし)**

所属・職名: 教育学部・教授

出身: 群馬県

最終学歴: 東京大学大学院 人文科学研究科

(博士課程 平成元年満期退学)

簡単な職歴: 平成元年～平成5年 常葉学園短期大学 講師

平成5年～平成15年 群馬大学教育学部 助教授

平成15年～現在 同 教授

専門内容: 日本古典文学 (中古文学)

主な著書: 1. 平成12年 『感性のきらめき 清少納言』 新典社

2. 平成14年 『枕草子研究』 風間書房

3. 平成23年 『枕草子をどうぞ一定子後宮への招待』 新典社

(2) 受賞授業名: 平安時代の文学

(3) 授業の概要: 蜻蛉日記, 和泉式部日記, 枕草子, 紫式部日記等, 平安朝女流日記文学を中心に, 古今和歌集, 源氏物語, 栄花物語などを参照させながら, 平安時代の生活のありようや, 当時の思潮・美意識などを考察する。

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

自身が教育学部教員であることから, 以下の点に常日ごろから留意している。

・授業の開始時間, 終了時間には留意している。特に当該授業においては, 毎回の終了時にリアクションペーパーの提出を求めているが, その記載のための時間的余裕をもって終了するよう心掛けている。

・対象が一年生であることを考慮して, つねに「社会人としての心得」として, 教室内的の学生の行動についても注意するよう意識している。具体的には, ①遅刻や (不可避の理由からの) 途中退席の場合には, 後部ドアから速やかに入退室すること, ②教室内を清潔に保つこと, ③聴講中の机の上に, 不要な物 (飲料やバッグ等) を置かないこと, など。以上をガイダンスの折に, 「講師からのお願い」という形で指示している。

・教育学部学生の有志 (主に藤本の研究生) に依頼して, 講義用プリント・リアクションペーパーの配布と回収や, 黒板の始末などをしてもらっている。彼らにとっては教職に就いた際の学級経営の練習の意味合いがあるが, 同時に後輩への指導を兼ねていて, たとえば黒

板の始末などは、ある時点から一年生が代わって務めるようになっている。

(5) 授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

講義形式であることから、一方向的な授業にならないよう、なるべく学生に質問を投げかけたり、話題を振ったり、また授業内容のふりかえりのためのリアクションペーパーを書かせたりするなど、学生自身の「考える機会」を増やすよう心掛けている。

また、学生が興味をもって講義に臨めるよう、平安時代の社会情勢や当時の生活様式など、作品の背景を説明したり、なるべく学生の身近な問題になぞらえて話題を提示したりして、講義するようつとめている。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

自身が教育学部教員であることから、「古文嫌い」をなくすための古典教育の実践を目指している。

当該授業は、平安時代の文章の読解という内容であるため、「難解で堅苦しい」という先入観を持っている学生が多い。受講者の中には、高校生の時に受けた古文の授業のことを想起して、ある種の嫌悪感を持って授業に臨む者もいる。そういう「古文嫌い」の学生に対し、古典文学のおもしろさに気付かせることを目標に講義を組み立てている。特に当該授業では、平安女流日記文学を扱うことから、自分とは無縁の、遠い存在としてしか見ていない受講者も多いので、作品内の事件や人物の心理的葛藤などを読み解くことを通して、自分自身にも起こり得る身近で今日的な問題として、個々の学生が考えていけるような話題の提示を心がけている。

1) プロフィール

氏 名 (ふりがな): **網井 秀樹 (あみい ひでき)**

所属・職名: 理工学部 分子科学部門・教授

出身: 兵庫県

最終学歴: 京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻 博士後期課程

簡単な職歴: 岡山大学工学部・助手 (1996-2003), ポール サバティエ大学 (フランス)・在外研究員 (2000-2001), 神戸大学理学部・助教授 (准教授) (2003-2010) を経て, 2010年より現職

専門内容: 有機化学

主な著書: 第5版実験化学講座 第13巻「有機化合物の合成 I 炭化水素・ハロゲン化物」(分担執筆, 丸善 2003年), フッ素化学入門2010 - 基礎と応用の最前線 - (分担執筆, 日本学術振興会第155委員会編, 三協出版), フッ素化学入門2015-フッ素化合物の合成法- (分担執筆, 日本学術振興会第155委員会編, 三協出版)

(2) 受賞授業名

化学概論

(3) 授業の概要

「化学概論」は、学部1年生向けの一般化学の講義である。後続の化学の専門科目の講義(無機化学, 物理化学, 有機化学)を学ぶための基礎と位置づけられる。扱う内容は、分子の構造(電子と原子核, 電子軌道)と物質の性質, 化学熱力学などが含まれる。

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

- ・丸暗記からの脱却を意識させたこと: 網井教授は、化学を専門としており、理工学部の学生に化学の基礎を教えている。平成25年に当該講義を担当する直前に、まず、研究室

所属の学生数名（数年前に学部科目を受講した学生）に、群馬大の様々な講義を受講した時の感想をインタビューした。その結果、学生は講義内容が少し難しくなると、理解できなかった箇所を丸暗記して試験に臨む傾向が強いことがわかった。当該科目を講義する際には、学生には、丸暗記を避けて論理的に物事を考えること、ヤマをはらずに全体をまんべんなく勉強することを明言した。

- ・ 講義で扱う内容を厳選したこと：「化学概論」は、化学・生物化学科、及び総合理工学科の学生（約180名）が履修している。これを3クラスに分けて、3名の教員が1つのクラス（約60名）を受け持って講義している。前述の「丸暗記からの脱却」を図るべく、他クラスの担当教員（久新莊一郎教授、奥津哲夫教授）と事前に綿密に打ち合わせを行い、講義で扱う内容を厳選した。開講後も、学生の反応を見て、適宜、久新教授、奥津教授と情報交換を行い、様々な問題点を克服すべく努力した。特に、化学熱力学の章については、高校で物理を深く学んでいない学生を意識しながら、エントロピーや自由エネルギーなどの概念を、様々な例え話をして印象づけて教えた。

（5）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

- ・ 講義全体（15回）の組み立ての工夫：網井教授は2010年3月中旬に（群馬大に着任する直前、神戸大在職時）、米国ワシントン大学に渡航して約1週間の教育研修に参加した。ワシントン大学化学科の講義を実際に聴講し、いかに教員が学生を退屈させず、はつらつと講義をしているかを目の当たりにした。さらにワシントン大のほとんどの講義では、期末試験の直前の週に「全体のおさらい」をするシステムがあり（レビュー・ウィークと呼ぶ）、学生が途中でつまづくことなく、全体を効率良く学習できるよう配慮されている。網井教授は、このシステムを自らの講義に取り入れ、試験対象範囲を14回目の講義までに必ず終わらせ、15回目の講義を「全体のおさらい」に充てて、学生の講義内容に対する理解を高めた。
- ・ 1回の講義全体（90分）の時間配分の工夫：網井教授は毎回の講義の最後の10分間を使って、「当日に実施した講義内容を短時間で復習できる問題」を課して、出席レポートとしている。出席レポートを通じて、学生が理解できなかったところを把握し、可能な限り、双方向的なコミュニケーションが取れるよう努力している。

（6）意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

- ・ 初年次教育に尽力している点：網井教授は、平成22年4月に群馬大学工学部（現 理工学部）に着任した。平成22年度から、応用化学・生物化学科（現 化学・生物化学科）の2年生を対象として「有機化学II（現 有機化学I）」を担当している。平成23年度から1年生後期専門科目「有機化学I（現 化学・生物化学基礎III）」を受け持ち、学部1年生に有機化学の基礎を教えている。さらに、平成25年度から1年生前期科目の「化学概論」、及び「化学・生物化学原論II」を担当しており、学部1年前期から2年前期まで連続して、学生教育に注力している。
- ・ 高校教諭との交流（理科教育談話会）：網井教授は、平成26年度、及び27年度に、日本化学会関東支部幹事を担当しており、群馬地区の各行事の世話を行なった。特に、毎年7月に開催されている理科教育談話会（高校の理科教諭との交流会）の世話人代表を2年連続で務めた。理科教育談話会では、高校と理科教育の現状、問題点や、“理科離れの時代”における理科教育の工夫点について高校教諭と大学教員との意見交換を行ない、お互いの教育に対する意識を深める場を設けた。

（1）プロフィール

氏 名（ふりがな）： **岩瀧 大樹（いわたき だいじゅ）**
所属・職名：教育学部 附属学校教育臨床総合センター・准教授

出身：群馬県

最終学歴：昭和女子大学大学院生活機構研究科生活機構学専攻博士後期課程（単位取得満期退学）

簡単な職歴：国公立中学校での教職経験、公立小中学校や東京都清瀬市教育相談センターなどでのカウンセラーとしての実務を経て、現在に至る。臨床心理士。

専門内容：臨床心理学、キャリアカウンセリング、認知行動療法

主な著書：

- ・『教育臨床と心理学－支える・学ぶ・教えるを科学する－』学文社 2012 単著
- ・「心理アセスメントと女性と家族:こころの援助を通じて－スクールカウンセリングにおける母親への支援から考えられること－」『昭和女子大学女性文化研究叢書 第九集 女性と家族』御茶の水書房 2014 分担執筆 共著

（２）受賞授業名

「教育臨床心理学（前期）」、「カウンセリング心理学（後期）」

（３）授業の概要

「教育臨床心理学」では、受講者の大学生としての「自己理解」、それに伴う「人間理解」を中核に据え、基礎心理学とされる「学習」・「認知」・「発達」・「社会」・「パーソナリティ」の５つの要素から「心」を考察している。「カウンセリング心理学」では、他者を支え、援助する観点に加え、セルフケアや、自己のキャリアデザインに関する開発的な内容も取り上げている。

（４）授業で学生に接する場合に留意している点

講義開始時刻以上に、終了時刻を厳守している。適宜質疑の機会を設定し、個別あるいは全体に対し、フィードバックするとともに、受講者の発言・音読等に関しては、その都度感謝の意を伝えている。

（５）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

教員の話聴く、黙って映像資料を見る、という受動的なスタイルに偏らぬよう、積極的に受講生同士で理解を深める、意見交換をするなどの場面を導入している。

（６）意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

受講者と教員とで講義を造り上げるスタンスを重視し、この点については、オリエンテーションで十分な説明を行うとともに、受講者からの合意を得られるようにしている。そのため、受講者より全面的な協力を頂きつつ、講義を進めることが可能であった。受講者の皆さんに、心より感謝申し上げます。

【教育学部 推薦】

（１）プロフィール

氏名（ふりがな）：**川上 晃（かわかみ あきら）**

所属・職名：教育学部 音楽教育講座・教授

出身：群馬県

最終学歴：東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程（音楽学専攻）修了

簡単な職歴：東京音楽大学非常勤講師、群馬大学非常勤講師、宇都宮大学非常勤講師、群馬大学講師、群馬大学助教授、群馬大学教授

専門内容：音楽理論・音楽史

主な著書：「演奏家大事典」、「シューベルト」

(2) 受賞授業名

「初等科音楽（一）」、「音楽史概説」、「西洋音楽の歴史」、
「日本の古典芸能の音楽」、「楽式論」、「楽書講読」

(3) 授業の概要

「初等科音楽」：小学校教材の演奏と分析
「音楽史概説」：西洋音楽の歴史，日本音楽史，諸民族の音楽についての概説
「西洋音楽の歴史」：中世から現代までの西洋音楽の歴史の概説
「日本の古典芸能の音楽」：雅楽，声明，平家，能，人形浄瑠璃，歌舞伎の音楽の概説
「楽式論」：2部形式，3部形式，ロンド形式，ソナタ形式の分析
「楽書講読」：英語の音楽書の講読

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

学生の長所をみること。

(5) 授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

譜例を用い，受講生が実際に音を見て聴きながら，授業に参加できるようにしていること。
また，授業のための最適な楽曲と楽曲部分を選ぶようにしていること。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点。

同じ授業科目でも，授業内容や方法を，毎年，更新していること。
学生からの提出物をていねいに読み，コメントを書いて，翌週返却すること。

【社会情報学部 推薦】

(1) プロフィール

氏 名（ふりがな）： 平田 知久（ひらた ともひさ）

所属・職名：社会情報学部・講師

出身：和歌山県

最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位認定退学

簡単な職歴：京都大学文学研究科研究員（グローバルCOE）（2008年12月から2013年3月）

日本学術振興会特別研究員（PD）（2013年4月から2015年2月）

専門内容：社会情報学・社会学・メディア史

主な著書："The Double Digital Divide and Social Inequality in Asia: Comparative Research on Internet Cafes in Taiwan, Singapore, Thailand, and the Philippines." in Massimo Ragnedda & Glenn W. Muschert (eds.), *The Digital Divide: Social Inequality and the Internet in International Perspective*, Routledge, pp. 285-296.

(2) 受賞授業名

情報社会基礎論，ソーシャルメディア論

(3) 授業の概要

○情報社会基礎論

シンガポールにおけるインターネットカフェの集中地区とそこに集うシンガポールへの移民労働者たちの生活実態との関係を，シンガポールの政治経済的背景を踏まえた比較社会的見地から考察したもの

○ソーシャルメディア論

現代日本において普及している様々なソーシャルメディアについて、その前史と言えるHP（テキストサイト）とそれを媒介とした人々の「つながり」のあり方を起点として、それぞれのソーシャルメディアにおけるつながりのあり方との差異を明らかにし、さらに国際比較の観点からアジア各国で利用されているソーシャルメディアがもたらす人々の関係性について考察したもの

（４）授業で学生に接する場合に留意している点

大人数での授業では、その土地・その場所でしか得ることができないメディア利用の「風景」を映像や写真を元にしながら示し、そのような風景が我々にとってどのような共通点や差異を持つのかを論じることを主眼に置いている。

比較的少人数の授業では、学生との間のコメントやフィードバックを重視した授業を行っている。総じて、「雰囲気は軽い。だが、授業で扱われた内容／授業の中で考えた内容は重い」と学生に思ってもらえるような関係を持つことには注意を払っている。

（５）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

授業に対する学生の理解が捗っていない、ないしは授業計画の段階で学生が共有しているであろうと想定していた経験や知にむらがあることが判明した場合には、学生と協議の上で授業全体の進行のあり方を変更している（そのような場合のための授業進行の方法を２パターン程度は用意している）。

（６）意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

授業で扱った問題の背景となる知識を提供してくれる書籍や情報ソースを積極的に公開し、そのような書籍や情報ソースへの学生主体のアクセスを促している。

また、授業の最終試験であるレポート課題では、①授業の復習となるような問いかけ、②その復習を基礎においた自らの興味関心の展開、③その展開をなす上で必要な書籍や情報ソースの収集と読解、を満たすような課題設定を行っている。

以上のような課題設定によって、「図書館やネットで色々探したのですが、自分の設定した〇〇という主題の本や情報が見つかりません」という学生からの相談が来れば、既存の学術知の導入と紹介が可能となることから、（当人のレポートとしての成否は措くとしても）教育実践としては成功と見なしうるものを学生に提供できているのではないかと考えている。

【医学部医学科 推薦】

（１）プロフィール

氏 名（ふりがな）：**佐野 利恵（さの りえ）**

所属・職名：医学系研究科 法医学分野・講師

出身：群馬県

最終学歴：平成23年3月群馬大学医学系研究科博士課程 修了

簡単な職歴：平成17年4月 群馬大学医学部附属病院医員（研修医）

平成19年4月 群馬大学医学系研究科法医学分野 助教

平成27年1月 同 講師

専門内容：法医学、法医遺伝学（ABO式血液型遺伝子の転写調節）

主な著書：Autopsy imaging 症例集. ベクトル・コア社. 2012.

（２）受賞授業名

生命医学講義Ⅳ「法医学」

(3) 授業の概要

法医学は、法律上の問題解決に医学及び自然科学の知識を応用する学問である。死亡は、自然死である病死とそれ以外の死である異状死に分けられ、法医学は後者である異状死を主たる対象とする分野である。一方、一般臨床医は異状死を扱う機会があり、死後診察（検案）や死亡診断書（検案書）の発行を求められる。医学教育モデル・コア・カリキュラムには死亡診断書（検案書）の作成が最終到達目標として記載されている。群馬大学医学部3年生に行われる法医学の授業はこのモデルカリキュラムに沿って展開される。法医学ユニットの最終的なアウトカムは死体検案書の作成である。法医学ユニットの終盤に死体検案書の作成に関する授業を一時間設けている。この授業では、学生自身が、それまでに体得した法医学の知識を活用して、死因、死因の種類及び死後経過時間等を判断し、実際の書類に記載するアクティブラーニングの形式を取っている。

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

法医学を履修するのは3年生であるが、学生をあくまでも学生としてとらえるのではなく、将来の医師としてとらえ、支持的に接している。

(5) 授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

法医学ユニットとしての小さな到達目標から最終到達目標への経緯を提示し、個々の授業においても「最重点点」を明示して授業を行っている。なるべく実際の症例を多く提示し、問題提起を行い、学生と共に考える授業、印象に残る授業を目指している。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

法医学は臨床医全般の生涯教育に必要な学問である。学部教育はその端緒であることから、長期的な視野に立った指導を心掛けていきたいと考えている。

【理工学部 推薦】

(1) プロフィール

氏 名（ふりがな）：**中沢 信明（なかざわ のぶあき）**

所属・職名：理工学府 知能機械創製部門・准教授

出身：長野県

最終学歴：平成10年3月 東北大学大学院情報科学研究科 博士後期課程修了

平成10年3月 博士（情報科学）

簡単な職歴：平成10年4月 日本学術振興会特別研究員

平成11年4月 群馬大学大学院工学研究科 生産基盤工学講座 助手

平成18年10月 群馬大学大学院工学研究科 生産基盤工学講座 助教授

平成19年4月 群馬大学大学院工学研究科 生産システム工学科 准教授

平成25年4月 群馬大学大学院理工学研究院 知能機械創製部門 准教授

平成26年4月 群馬大学大学院理工学府 知能機械創製部門 准教授（現在に至る）

専門内容：人間機械系、ヒューマンインタフェース、メカトロニクス

主な著書：「センサの基本と実用回路」（中沢信明・松井利一・山田功共著 コロナ社）

(2) 受賞授業名

学生が履修した全ての科目（学生実験、工作実習、卒業研究を含む）が対象授業である。主な担当科目は、「メカトロインタフェース（3年前期）」、「ヒューマンインタフェース（3年後期）」などがある。

(3) 授業の概要

上記の科目のうち、「メカトロインタフェース」では、家電製品や自動車、そして産業機器やロボットに至るまで、機器の操作と制御に必要なインタフェースについての講義を行っている。インタフェースには様々なセンシング技術が利用されており、その種類ならびに用途について解説し、実際にインタフェースに利用されているセンサを触れさせることで、理解を深めるようになっている。さらに、インタフェースに利用されているセンサの動作原理を取り上げ、動作に用いられているニュートン力学や材料力学、電磁気学などの項目を明確化するとともに、「他の科目との関連性」を意識した講義を展開している。

(4) 授業で学生に接する場合に留意している点

学生の努力や頑張りに対して、“誉めること”と“認めること”に留意しています。講義が終わった後、質問に来てくれる熱心な学生がいますが、その際、質問に対して答える前に「いい着眼点ですね」「よく勉強していますね」など、“誉めること”を忘れないように心がけています。また、質問内容がよい場合や熱心な姿勢が見られる場合には、プラス評価として、学籍番号を聞いてメモ書きし、“認めること”を行うようにしました。なお、講義中に学生とコミュニケーションを取る場合には、強い口調にならないように、丁寧な言葉を使うように心がけています。

(5) 授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

講義では、予め用意したプリントを配布し、話をした内容ならびにスクリーンに映し出した内容を記入させ、終了時に回収して、学生の理解度をチェックしています。プリントにはいくつかの問いが記載されていて、例えば「〇〇効果と何か」など、漠然としたものとなっています。これは、話を聞きながら頭の中で整理して、まとめることに慣れてもらう狙いがあります。同時に、講義への集中力を高める効果もあると思われます。また、講義を進めるにあたっては、学生の反応を見ながら行うことを意識しています。私自身、学生時代、板書の早い先生の講義は、ノートをとるのに手一杯で、理解もままならなかった経験があります。その一方で、余裕を持ってノートをとることができた講義については、授業中に内容をよく理解できたように記憶しています。この経験を活かし、学生のメモ書きの様子や理解の様子を見ながら、授業を進めるように心がけています。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

自分が学部学生だった頃、黒板用の直定規を授業の際に必ず持参し、きれいな図を黒板に丁寧に描かれてご説明される先生がいました。講義の内容が大変わかりやすく、この科目に興味を持つことができたことを今でも記憶しています。このような経験から、黒板やスクリーンに示す場合には、わかりやすく、きれいな図を描くことが大切であると考え、これまで講義資料の作成に力を注ぎ、取り組んできました。また、講義内容を自主的に学習できるようにするため、講義資料に詳細な説明の文章を付け加えて、教科書の執筆を行いました。なお、担当の講義がいずれも学部3年生で研究室配属を控えているため、少しでも自分の経験が参考になればと思い、学生だった頃の指導教員とのやり取りや研究室での出来事、そして、学部、修士、博士時代の研究内容、学会発表でのことなどについて、講義の合間に話をするように努めています。

(1) プロフィール

氏 名 (ふりがな) : **堀内 宏明 (ほりうち ひろあき)**

所属・職名 : 理工学府 分子科学部門・准教授

出身 : 群馬県

最終学歴 : 群馬大学大学院工学研究科 博士後期課程修了 (博士 (工学))

簡単な職歴：2000年 3 月 群馬大学大学院工学研究科 博士後期課程修了 博士（工学）
2000年 4 月 物質工学工業技術研究所 COE特別研究員
2001年 4 月 産業技術総合研究所 光反応制御センター 博士研究員
2001年 6 月 群馬大学工学部応用化学科 助手
2007年 4 月 群馬大学大学院工学研究科応用化学・生物化学専攻 助教
2013年 4 月 群馬大学理工学研究院分子科学部門 准教授（現在に至る）
（2008年に仏国Université de la Méditerranée客員研究員）

専門内容：

- ・物理化学に基づく光機能性物質の開発
- ・がんの光化学的治療に用いる光感受性薬剤の開発

主な著書：

- ・光化学の事典（2014年）堀内 宏明*（分担, p. 260-261）, 朝倉書店.
- ・光機能性高分子材料の新たな潮流－最新技術とその展望－, 堀内宏明, 平塚浩士（分担, p. 9-24）シーエムシー出版（2008年）.
- ・21世紀の有機ケイ素化学－機能性物質科学の宝庫－, 堀内宏明, 平塚浩士（分担, p. 126-131）シーエムシー出版（2004年）.

（2）受賞授業名

学生が履修した全ての科目(卒業研究を含む)が対象授業である。主な担当科目として,「物理化学Ⅰ（2年前期）」,「化学・生物化学演習Ⅳ（3年後期）」, などがある。

（3）授業の概要

「物理化学Ⅰ」では化学反応速度論について,「化学・生物化学演習Ⅳ」では物理化学系の講義科目全般について演習している。

（4）授業で学生に接する場合に留意している点

1. 学生からの質問

頻繁に「ここまでの内容で質問はあるか?」と問いかけることによって, 質問の機会を与えると共に, 授業の双方向性の向上を試みている。

2. 授業進行速度

主にスライドを用いた授業を行っているが, 前半分に着席している学生の板書が終わるまでは話を進めないよう留意している。

3. 繰り返しの説明

学生が一度の説明で理解が追いつかないことや, 板書中に説明を聞き漏らすことが多いため, 重要な内容は, 板書前, 板書後, 次回の授業の冒頭の復習時間など, 複数回にわたって繰り返し説明している。

4. 毎回行っている小テストに, 授業でわかりにくかった点や要望を書く欄を用意し, 学生がいつでも質問や要望を言える環境作りを心がけている。

（5）授業の方法として特に工夫又は改善に取り組んでいる点

1. 論理的なストーリー性：

カリキュラムにおける担当授業の位置づけ, 全15回の講義全体のストーリー, その中での各回の位置づけなどを, 必然性が伝わるように努力しながら毎回の授業の冒頭で解説している。特に研究発表におけるイントロと同様に, 背景（前の講義で学習したこと）, 問題点（前に学習したことだけでは不十分な点）, 問題解決に必要なこと（これから学習すること）な

どの授業の意義が伝わる様に意識している。

2. 授業形式：

視覚的な理解を促すために図を多用したスライドを主に使用した授業を行っているが、一般にスライドによる授業はペースが速くなりがちな欠点がある。しかしスライド資料を全て配布すると、学生の努力を引き出すことが難しくなる。そこで虫食い状態のスライド内容を配布している。資料中には図などは残されているが、解説などの文字は極力削除したものを配布し、重要事項や解説事項は学生に板書させている。これにより板書形式とスライド形式の中間的な形式を目指している。

3. 授業後の小テスト：

毎回、授業の最後に復習の小テストを行い、出欠確認を兼ねて提出させている。また、次の授業の開始時に小テストを返却し、前回の授業の復習と合わせて小テストを解説している。

4. 他の講義との関連性：

担当科目である物理化学は、化学系科目の基盤となる科目である。この講義で学んだことが他科目である有機化学・無機化学・生物化学などにおける現象を理解・予測するために不可欠であることを、可能な限り例を挙げて紹介することを意識している。

(6) 意欲的な情熱をもって教育活動に取り組んでいる点

受賞候補者は当学科の卒業生であり、担当科目である物理化学に対して当学科の学生が抱えやすい問題点を身近に感じている。特に当学科には高校時代に物理が苦手だった学生、あるいは履修していない学生の割合が多いため、多くの受講者にとって物理化学は苦手意識が高い科目であると言える。この様な学生でも物理化学の必要性・有用性・面白さなどを感じ、まずは苦手意識を克服することが出来るよう取り組んでいる。そのために化学の教育を受けた人間として最低限身につけて欲しい内容を厳選し、要点を出来る限り簡潔に伝え、基本をしっかりと定着させる努力をしている。この取り組みによって、授業評価アンケートでは「難しいと感じていた物理化学の概要を分かりやすく説明してくれたため、理解しやすかった」などのコメントも寄せられた。

一方、最低限の内容だけでは学習意欲の高い学生を満足させることは難しいため、発展的な内容も扱っている。その場合は「上級者向け」であることを伝えた上で講義しているが、初級者が上級者にステップアップすることを促すために、内容は難しくても努力に見合う価値があることを伝えられる様に努力をしている。

平成 27 年度教養教育ベストティーチャー による公開授業開催について

平成 27 年度教養教育ベストティーチャー優秀賞を受賞された先生方の公開授業を下記のとおり実施します。

教職員・学生の皆さんの参加をお待ちしています。

記

教 員 名	授 業 題 目	日 時	教 室
藤本 宗利 (教育学部・教授)	平安時代の文学	10月13日(木)3・4限 10月27日(木)3・4限	教養教育棟 GA302
網井 秀樹 (理工学府・教授)	化学・生物化学 基礎Ⅲ	10月14日(金)1・2限 10月28日(金)1・2限	教養教育棟 GC309
岩瀧 大樹 (教育学部・准教授)	カウンセリング 心理学	10月 5日(水)3・4限 10月12日(水)3・4限	教養教育棟 GB155

※ 教室の入口に受付を用意しますので、受付名簿に記載の上、入室してください。

主催：大学教育センター

第7回全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」の開催について

平成21年度から実施しています全学FD連続講演会の第7回として、一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター教授 松塚ゆかり氏をお招きして、大学教育の国際化について「チューニング」という概念を用いて、日本における実践の可能性と事例を紹介いただきます。

全学FDの一環として開催いたしますので是非、参加いただきますようお願いいたします。

記

日 時 平成27年12月7日（月）16時00分～17時30分

場 所 群馬大学事務局棟5階 大会議室（荒牧キャンパス）

テーマ 「大学教育国際化の課題、意義、行程」

講 師 一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター教授 松塚ゆかり氏

日 程 司会：教育基盤センター教育推進部会員 鯉淵典之

16:00～ 開 会 群馬大学理事・副学長 窪田健二

16:10～17:20 講 演 一橋大学
森有礼高等教育国際流動化センター
松塚ゆかり 教授

17:20～17:30 質疑応答

17:30 閉会 教育基盤センター教育推進部会長
興石一郎

主催：教育基盤センター

平成27年度前期授業評価（学びのリテラシー）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	232	152	65.5
社会情報学部	106	94	88.7
医学部医学科	110	58	52.7
医学部保健学科	161	111	68.9
理工学部	553	470	85.0
合 計	1,162	885	76.2

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

質問 1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	99	65.1	52	34.2	1	0.7	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	23	24.5	52	55.3	18	19.1	1	1.1	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	24	41.4	30	51.7	4	6.9	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	27	24.3	65	58.6	19	17.1	0	0.0	111	100.0
理工学部	0	0.0	108	23.0	290	61.7	60	12.8	12	2.6	470	100.0
全 体	0	0.0	281	31.8	489	55.3	102	11.5	13	1.5	885	100.0

質問 2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	73	48.0	68	44.7	10	6.6	1	0.7	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	12	12.8	48	51.1	31	33.0	3	3.2	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	31.0	28	48.3	9	15.5	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	26	23.4	63	56.8	20	18.0	2	1.8	111	100.0
理工学部	0	0.0	113	24.0	255	54.3	86	18.3	16	3.4	470	100.0
全 体	0	0.0	242	27.3	462	52.2	156	17.6	25	2.8	885	100.0

質問 3. この授業によって日本語の能力を高めることができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	66	43.4	79	52.0	7	4.6	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	17	18.1	51	54.3	23	24.5	3	3.2	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	27.6	34	58.6	7	12.1	1	1.7	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	21	18.9	65	58.6	25	22.5	0	0.0	111	100.0
理工学部	0	0.0	100	21.3	256	54.5	86	18.3	28	6.0	470	100.0
全 体	0	0.0	220	24.9	485	54.8	148	16.7	32	3.6	885	100.0

質問 4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	104	68.4	46	30.3	0	0.0	2	1.3	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	35	37.2	49	52.1	9	9.6	1	1.1	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	37	63.8	21	36.2	0	0.0	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	47	42.3	59	53.2	4	3.6	1	0.9	111	100.0
理工学部	0	0.0	169	36.0	252	53.6	43	9.1	6	1.3	470	100.0
全 体	0	0.0	392	44.3	427	48.2	56	6.3	10	1.1	885	100.0

質問 5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	101	66.4	50	32.9	1	0.7	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	34	36.2	46	48.9	10	10.6	4	4.3	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	37	63.8	20	34.5	1	1.7	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	50	45.0	59	53.2	2	1.8	0	0.0	111	100.0
理工学部	0	0.0	154	32.8	253	53.8	54	11.5	9	1.9	470	100.0
全 体	0	0.0	376	42.5	428	48.4	68	7.7	13	1.5	885	100.0

質問 6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	67	44.1	77	50.7	8	5.3	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	19	20.2	48	51.1	24	25.5	3	3.2	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	22.4	29	50.0	14	24.1	2	3.4	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	19	17.1	59	53.2	28	25.2	5	4.5	111	100.0
理工学部	0	0.0	82	17.4	236	50.2	131	27.9	21	4.5	470	100.0
全 体	0	0.0	200	22.6	449	50.7	205	23.2	31	3.5	885	100.0

質問 7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	76	50.0	69	45.4	7	4.6	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	18	19.1	45	47.9	25	26.6	6	6.4	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	22.4	38	65.5	4	6.9	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	31	27.9	63	56.8	15	13.5	2	1.8	111	100.0
理工学部	0	0.0	85	18.1	264	56.2	96	20.4	25	5.3	470	100.0
全 体	0	0.0	223	25.2	479	54.1	147	16.6	36	4.1	885	100.0

質問 8. 教室での討論は活発であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	77	50.7	58	38.2	16	10.5	1	0.7	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	10	10.6	38	40.4	39	41.5	7	7.4	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	22.4	27	46.6	15	25.9	3	5.2	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	29	26.1	59	53.2	21	18.9	2	1.8	111	100.0
理工学部	0	0.0	85	18.1	209	44.5	143	30.4	33	7.0	470	100.0
全 体	0	0.0	214	24.2	391	44.2	234	26.4	46	5.2	885	100.0

質問 9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	102	67.1	44	28.9	4	2.6	2	1.3	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	12	12.8	52	55.3	27	28.7	3	3.2	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	21	36.2	26	44.8	11	19.0	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	43	38.7	52	46.8	15	13.5	1	0.9	111	100.0
理工学部	0	0.0	116	24.7	228	48.5	102	21.7	24	5.1	470	100.0
全 体	0	0.0	294	33.2	402	45.4	159	18.0	30	3.4	885	100.0

質問10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	71	46.7	62	40.8	16	10.5	3	2.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	35	37.2	35	37.2	17	18.1	7	7.4	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	22.4	22	37.9	19	32.8	4	6.9	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	32	28.8	59	53.2	18	16.2	2	1.8	111	100.0
理工学部	0	0.0	147	31.3	225	47.9	75	16.0	23	4.9	470	100.0
全 体	0	0.0	298	33.7	403	45.5	145	16.4	39	4.4	885	100.0

質問11. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	115	75.7	32	21.1	5	3.3	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	49	52.1	41	43.6	3	3.2	1	1.1	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	30	51.7	26	44.8	2	3.4	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	71	64.0	37	33.3	2	1.8	1	0.9	111	100.0
理工学部	0	0.0	254	54.0	159	33.8	45	9.6	12	2.6	470	100.0
全 体	0	0.0	519	58.6	295	33.3	57	6.4	14	1.6	885	100.0

質問12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	102	67.1	47	30.9	2	1.3	1	0.7	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	14	14.9	54	57.4	23	24.5	3	3.2	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	25	43.1	28	48.3	4	6.9	1	1.7	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	24	21.6	58	52.3	26	23.4	3	2.7	111	100.0
理工学部	0	0.0	140	29.8	242	51.5	67	14.3	21	4.5	470	100.0
全 体	0	0.0	305	34.5	429	48.5	122	13.8	29	3.3	885	100.0

質問13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	97	63.8	49	32.2	6	3.9	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	30	31.9	53	56.4	8	8.5	3	3.2	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	29	50.0	27	46.6	2	3.4	0	0.0	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	42	37.8	60	54.1	7	6.3	2	1.8	111	100.0
理工学部	0	0.0	166	35.3	245	52.1	51	10.9	8	1.7	470	100.0
全 体	0	0.0	364	41.1	434	49.0	74	8.4	13	1.5	885	100.0

質問14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	83	54.6	66	43.4	3	2.0	0	0.0	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	32	34.0	52	55.3	10	10.6	0	0.0	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	23	39.7	32	55.2	2	3.4	1	1.7	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	47	42.3	61	55.0	1	0.9	2	1.8	111	100.0
理工学部	0	0.0	165	35.1	283	60.2	17	3.6	5	1.1	470	100.0
全 体	0	0.0	350	39.5	494	55.8	33	3.7	8	0.9	885	100.0

質問15. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	150	98.7	2	1.3	152	100.0
社会情報学部	0	0.0	74	78.7	20	21.3	94	100.0
医学部医学科	0	0.0	56	96.6	2	3.4	58	100.0
医学部保健学科	0	0.0	110	99.1	1	0.9	111	100.0
理工学部	0	0.0	434	92.3	36	7.7	470	100.0
全 体	0	0.0	824	93.1	61	6.9	885	100.0

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

平成27年度後期授業評価（学びのリテラシー）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率（％）
教育学部	243	91	37.4
社会情報学部	109	96	88.1
医学部医学科	109	57	52.3
医学部保健学科	160	92	57.5
理工学部	550	452	82.2
合 計	1,171	788	67.3

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

質問 1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	53	58.2	26	28.6	6	6.6	6	6.6	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	43	44.8	42	43.8	8	8.3	3	3.1	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	32	56.1	24	42.1	0	0.0	1	1.8	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	30	32.6	49	53.3	11	12.0	2	2.2	92	100.0
理工学部	0	0.0	231	51.1	193	42.7	23	5.1	5	1.1	452	100.0
全 体	0	0.0	389	49.4	334	42.4	48	6.1	17	2.2	788	100.0

質問 2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	59	64.8	25	27.5	4	4.4	3	3.3	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	51	53.1	37	38.5	6	6.3	2	2.1	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	30	52.6	22	38.6	4	7.0	1	1.8	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	41	44.6	43	46.7	8	8.7	0	0.0	92	100.0
理工学部	0	0.0	253	56.0	174	38.5	19	4.2	6	1.3	452	100.0
全 体	0	0.0	434	55.1	301	38.2	41	5.2	12	1.5	788	100.0

質問 3. 教室での討論は活発であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	40	44.0	27	29.7	16	17.6	8	8.8	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	29	30.2	36	37.5	25	26.0	6	6.3	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	14	24.6	27	47.4	12	21.1	4	7.0	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	26	28.3	39	42.4	19	20.7	8	8.7	92	100.0
理工学部	0	0.0	142	31.4	181	40.0	100	22.1	29	6.4	452	100.0
全 体	0	0.0	251	31.9	310	39.3	172	21.8	55	7.0	788	100.0

質問 4. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	49	53.8	25	27.5	12	13.2	5	5.5	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	48	50.0	29	30.2	16	16.7	3	3.1	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	26	45.6	18	31.6	12	21.1	1	1.8	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	41	44.6	24	26.1	22	23.9	5	5.4	92	100.0
理工学部	0	0.0	191	42.3	156	34.5	76	16.8	29	6.4	452	100.0
全 体	0	0.0	355	45.1	252	32.0	138	17.5	43	5.5	788	100.0

質問 5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	34	37.4	37	40.7	13	14.3	7	7.7	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	28	29.2	43	44.8	17	17.7	8	8.3	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	22	38.6	24	42.1	10	17.5	1	1.8	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	20	21.7	47	51.1	18	19.6	7	7.6	92	100.0
理工学部	0	0.0	138	30.5	200	44.2	84	18.6	30	6.6	452	100.0
全 体	0	0.0	242	30.7	351	44.5	142	18.0	53	6.7	788	100.0

質問 6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	62	68.1	26	28.6	3	3.3	0	0.0	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	58	60.4	31	32.3	6	6.3	1	1.0	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	36	63.2	20	35.1	1	1.8	0	0.0	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	47	51.1	41	44.6	4	4.3	0	0.0	92	100.0
理工学部	0	0.0	281	62.2	150	33.2	18	4.0	3	0.7	452	100.0
全 体	0	0.0	484	61.4	268	34.0	32	4.1	4	0.5	788	100.0

質問 7. 希望した科目を選ぶことができた。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	57	62.6	17	18.7	7	7.7	10	11.0	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	46	47.9	30	31.3	13	13.5	7	7.3	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	31	54.4	20	35.1	3	5.3	3	5.3	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	42	45.7	34	37.0	10	10.9	6	6.5	92	100.0
理工学部	0	0.0	241	53.3	125	27.7	61	13.5	25	5.5	452	100.0
全 体	0	0.0	417	52.9	226	28.7	94	11.9	51	6.5	788	100.0

質問 8. クラスの人数は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	68	74.7	19	20.9	3	3.3	1	1.1	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	77	80.2	16	16.7	2	2.1	1	1.0	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	42	73.7	13	22.8	2	3.5	0	0.0	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	69	75.0	20	21.7	3	3.3	0	0.0	92	100.0
理工学部	0	0.0	320	70.8	118	26.1	13	2.9	1	0.2	452	100.0
全 体	0	0.0	576	73.1	186	23.6	23	2.9	3	0.4	788	100.0

質問 9. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	58	63.7	27	29.7	5	5.5	1	1.1	91	100.0
社会情報学部	0	0.0	66	68.8	18	18.8	10	10.4	2	2.1	96	100.0
医学部医学科	0	0.0	37	64.9	17	29.8	2	3.5	1	1.8	57	100.0
医学部保健学科	0	0.0	55	59.8	34	37.0	3	3.3	0	0.0	92	100.0
理工学部	0	0.0	294	65.0	139	30.8	18	4.0	1	0.2	452	100.0
全 体	0	0.0	510	64.7	235	29.8	38	4.8	5	0.6	788	100.0

質問 10. この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

区 分	「1」		「2」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	78	85.7	13	14.3	91	100.0
社会情報学部	83	86.5	13	13.5	96	100.0
医学部医学科	45	78.9	12	21.1	57	100.0
医学部保健学科	71	77.2	21	22.8	92	100.0
理工学部	371	82.1	81	17.9	452	100.0
全 体	648	82.2	140	17.8	788	100.0

※評価基準 1「あてはまる」 2「あてはまらない」

質問 11. 【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	12	13.2	79	86.8	91	100.0
社会情報学部	12	12.5	84	87.5	96	100.0
医学部医学科	10	17.5	47	82.5	57	100.0
医学部保健学科	16	17.4	76	82.6	92	100.0
理工学部	113	25.0	339	75.0	452	100.0
全 体	163	20.7	625	79.3	788	100.0

資料8

平成27年度教養教育アンケート集計表（教務システム利用）

区 分	受講者数	回収数	回収率（％）
教育学部	243	70	28.8
社会情報学部	109	93	85.3
医学部医学科	109	54	49.5
医学部保健学科	160	75	46.9
理工学部	550	426	77.5
不明			
合 計	1,171	718	61.3

以下の質問項目について、該当するものを選択してください。

設問1 所属学部

設問2 教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)についてどう感じましたか

区分	1	2	3	4	5	総計
1	23	25	16	5	1	70
2	30	41	12	7	3	93
3	21	23	6	4		54
4	14	46	10	5		75
5	129	198	81	15	3	426
総計	217	333	125	36	7	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	23	32.9	25	35.7	16	22.9	5	7.1	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	30	32.3	41	44.1	12	12.9	7	7.5	3	3.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	21	38.9	23	42.6	6	11.1	4	7.4		0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	14	18.7	46	61.3	10	13.3	5	6.7		0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	129	30.3	198	46.5	81	19.0	15	3.5	3	0.7	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	217	30.2	333	46.4	125	17.4	36	5.0	7	1.0	718	100.0

*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問3 教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	16	38	13	2	1	70
2	21	37	24	9	2	93
3	18	24	8	4		54
4	13	47	14	1		75
5	97	212	89	25	3	426
総計	165	358	148	41	6	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	16	22.9	38	54.3	13	18.6	2	2.9	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	21	22.6	37	39.8	24	25.8	9	9.7	2	2.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	33.3	24	44.4	8	14.8	4	7.4	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	13	17.3	47	62.7	14	18.7	1	1.3	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	97	22.8	212	49.8	89	20.9	25	5.9	3	0.7	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	165	23.0	358	49.9	148	20.6	41	5.7	6	0.8	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問4 事務窓口（各学部）の対応についてはどう感じましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	19	14	30	5	2	70
2	36	32	19	4	2	93
3	17	11	16	4	6	54
4	10	38	25	2		75
5	85	120	176	28	17	426
総計	167	215	266	43	27	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	19	27.1	14	20.0	30	42.9	5	7.1	2	2.9	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	36	38.7	32	34.4	19	20.4	4	4.3	2	2.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	17	31.5	11	20.4	16	29.6	4	7.4	6	11.1	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	10	13.3	38	50.7	25	33.3	2	2.7	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	85	20.0	120	28.2	176	41.3	28	6.6	17	4.0	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	167	23.3	215	29.9	266	37.0	43	6.0	27	3.8	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問5 事務窓口（学生センター）の対応についてはどう感じましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	12	20	24	7	7	70
2	26	26	21	9	11	93
3	15	8	18	9	4	54
4	8	37	26	2	2	75
5	88	111	146	44	37	426
総計	149	202	235	71	61	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	12	17.1	20	28.6	24	34.3	7	10.0	7	10.0	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	26	28.0	26	28.0	21	22.6	9	9.7	11	11.8	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	15	27.8	8	14.8	18	33.3	9	16.7	4	7.4	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	8	10.7	37	49.3	26	34.7	2	2.7	2	2.7	75	100.0
理工学部	0	0.0	88	20.7	111	26.1	146	34.3	44	10.3	37	8.7	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	149	20.8	202	28.1	235	32.7	71	9.9	61	8.5	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問6 教養教育G B棟1階の学習スペースはよく利用しましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	8	19	6	12	25	70
2	5	21	6	17	44	93
3	7	30	1	8	8	54
4	7	28	8	16	16	75
5	47	97	45	101	136	426
総計	74	195	66	154	229	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	8	11.4	19	27.1	6	8.6	12	17.1	25	35.7	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	5	5.4	21	22.6	6	6.5	17	18.3	44	47.3	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	7	13.0	30	55.6	1	1.9	8	14.8	8	14.8	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	7	9.3	28	37.3	8	10.7	16	21.3	16	21.3	75	100.0
理工学部	0	0.0	47	11.0	97	22.8	45	10.6	101	23.7	136	31.9	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	74	10.3	195	27.2	66	9.2	154	21.4	229	31.9	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問7 学生支援体制についてはどう感じましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	7	29	26	5	3	70
2	14	25	45	7	2	93
3	13	15	20	6		54
4	8	30	37			75
5	66	126	184	34	16	426
総計	108	225	312	52	21	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	7	10.0	29	41.4	26	37.1	5	7.1	3	4.3	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	14	15.1	25	26.9	45	48.4	7	7.5	2	2.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	24.1	15	27.8	20	37.0	6	11.1	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	8	10.7	30	40.0	37	49.3	0	0.0	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	66	15.5	126	29.6	184	43.2	34	8.0	16	3.8	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	108	15.0	225	31.3	312	43.5	52	7.2	21	2.9	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問8 入学時に行った全学オリエンテーション（学園生活，教養教育，図書館，パソコン利用，健康支援総合センター，教務システム操作説明）についてどう感じましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	20	30	15	4	1	70
2	29	37	21	4	2	93
3	17	24	10	2	1	54
4	27	39	5	4		75
5	129	175	94	22	6	426
総計	222	305	145	36	10	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	20	28.6	30	42.9	15	21.4	4	5.7	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	29	31.2	37	39.8	21	22.6	4	4.3	2	2.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	17	31.5	24	44.4	10	18.5	2	3.7	1	1.9	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	27	36.0	39	52.0	5	6.7	4	5.3	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	129	30.3	175	41.1	94	22.1	22	5.2	6	1.4	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	222	30.9	305	42.5	145	20.2	36	5.0	10	1.4	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問9 授業のシラバスはよく利用しましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	7	49	10	4		70
2	14	67	10	2		93
3	16	26	9	3		54
4	10	63	2			75
5	69	302	48	7		426
総計	116	507	79	16	0	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	7	10.0	49	70.0	10	14.3	4	5.7	0	0.0	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	14	15.1	67	72.0	10	10.8	2	2.2	0	0.0	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	29.6	26	48.1	9	16.7	3	5.6	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	10	13.3	63	84.0	2	2.7	0	0.0	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	69	16.2	302	70.9	48	11.3	7	1.6	0	0.0	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	116	16.2	507	70.6	79	11.0	16	2.2	0	0.0	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問10 入学時に配付した教養教育の「授業案内」「履修手引」等は役立ちましたか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	35	22	8	4	1	70
2	55	30	7	1		93
3	27	18	6	2	1	54
4	38	32	4	1		75
5	184	179	49	11	3	426
総計	339	281	74	19	5	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	35	50.0	22	31.4	8	11.4	4	5.7	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	55	59.1	30	32.3	7	7.5	1	1.1	0	0.0	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	27	50.0	18	33.3	6	11.1	2	3.7	1	1.9	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	38	50.7	32	42.7	4	5.3	1	1.3	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	184	43.2	179	42.0	49	11.5	11	2.6	3	0.7	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	339	47.2	281	39.1	74	10.3	19	2.6	5	0.7	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 1 大学における履修科目の1日あたりの授業時間（実時間）はどれくらいですか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	7	15	13	11	24	70
2	10	17	28	28	10	93
3	5	7	6	13	23	54
4	5	14	9	23	24	75
5	35	71	67	134	119	426
総計	62	124	123	209	200	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	7	10.0	15	21.4	13	18.6	11	15.7	24	34.3	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	10	10.8	17	18.3	28	30.1	28	30.1	10	10.8	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	5	9.3	7	13.0	6	11.1	13	24.1	23	42.6	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	5	6.7	14	18.7	9	12.0	23	30.7	24	32.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	35	8.2	71	16.7	67	15.7	134	31.5	119	27.9	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	62	8.6	124	17.3	123	17.1	209	29.1	200	27.9	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 2 大学における履修科目の授業に対する1日あたりの予習・復習時間はどれくらいですか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	45	17	6	2		70
2	64	23	5	1		93
3	30	17	5	1	1	54
4	51	20	4			75
5	223	161	32	7	3	426
総計	413	238	52	11	4	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	45	64.3	17	24.3	6	8.6	2	2.9	0	0.0	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	64	68.8	23	24.7	5	5.4	1	1.1	0	0.0	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	30	55.6	17	31.5	5	9.3	1	1.9	1	1.9	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	51	68.0	20	26.7	4	5.3	0	0.0	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	223	52.3	161	37.8	32	7.5	7	1.6	3	0.7	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	413	57.5	238	33.1	52	7.2	11	1.5	4	0.6	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 3 大学における履修科目以外での課外時間における1日当たり学習（資格取得・自己研鑽など）時間はどれくらいですか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	52	14	3	1		70
2	70	13	8	1	1	93
3	37	14	2	1		54
4	60	13	2			75
5	299	100	22	3	2	426
総計	518	154	37	6	3	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	52	74.3	14	20.0	3	4.3	1	1.4	0	0.0	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	70	75.3	13	14.0	8	8.6	1	1.1	1	1.1	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	37	68.5	14	25.9	2	3.7	1	1.9	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	60	80.0	13	17.3	2	2.7	0	0.0	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	299	70.2	100	23.5	22	5.2	3	0.7	2	0.5	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	518	72.1	154	21.4	37	5.2	6	0.8	3	0.4	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 4 総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

区分	1	2	3	4	5	総計
1	12	35	16	6	1	70
2	18	35	29	7	4	93
3	13	28	9	3	1	54
4	13	43	17	1	1	75
5	87	195	113	21	10	426
総計	143	336	184	38	17	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	12	17.1	35	50.0	16	22.9	6	8.6	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	18	19.4	35	37.6	29	31.2	7	7.5	4	4.3	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	24.1	28	51.9	9	16.7	3	5.6	1	1.9	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	13	17.3	43	57.3	17	22.7	1	1.3	1	1.3	75	100.0
理工学部	0	0.0	87	20.4	195	45.8	113	26.5	21	4.9	10	2.3	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	143	19.9	336	46.8	184	25.6	38	5.3	17	2.4	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

以下の授業科目および学部別科目について、履修してみてください。

設問 1 5 学びのリテラシー (1)

区分	1	2	3	4	5	総計
1	39	25	3	2	1	70
2	26	42	13	9	3	93
3	24	24	5	1		54
4	20	41	8	4	2	75
5	114	201	62	35	14	426
総計	223	333	91	51	20	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	39	55.7	25	35.7	3	4.3	2	2.9	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	26	28.0	42	45.2	13	14.0	9	9.7	3	3.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	24	44.4	24	44.4	5	9.3	1	1.9	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	20	26.7	41	54.7	8	10.7	4	5.3	2	2.7	75	100.0
理工学部	0	0.0	114	26.8	201	47.2	62	14.6	35	8.2	14	3.3	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	223	31.1	333	46.4	91	12.7	51	7.1	20	2.8	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 6 学びのリテラシー (2)

区分	1	2	3	4	5	総計
1	22	30	9	6	3	70
2	26	42	13	7	5	93
3	18	23	9	2	2	54
4	19	36	13	4	3	75
5	135	185	70	22	14	426
総計	220	316	114	41	27	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	22	31.4	30	42.9	9	12.9	6	8.6	3	4.3	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	26	28.0	42	45.2	13	14.0	7	7.5	5	5.4	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	33.3	23	42.6	9	16.7	2	3.7	2	3.7	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	19	25.3	36	48.0	13	17.3	4	5.3	3	4.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	135	31.7	185	43.4	70	16.4	22	5.2	14	3.3	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	220	30.6	316	44.0	114	15.9	41	5.7	27	3.8	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 7 情報

区分	1	2	3	4	5	総計
1	23	28	11	7	1	70
2	31	43	9	4	6	93
3	16	25	7	5	1	54
4	23	39	11	2		75
5	133	194	70	20	9	426
総計	226	329	108	38	17	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	23	32.9	28	40.0	11	15.7	7	10.0	1	1.4	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	31	33.3	43	46.2	9	9.7	4	4.3	6	6.5	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	29.6	25	46.3	7	13.0	5	9.3	1	1.9	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	23	30.7	39	52.0	11	14.7	2	2.7	0	0.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	133	31.2	194	45.5	70	16.4	20	4.7	9	2.1	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	226	31.5	329	45.8	108	15.0	38	5.3	17	2.4	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 8 就業力（理工学部・社会情報学部のみ回答）

区分	1	2	3	4	5	総計
1	2	1	3	2	4	12
2	18	47	17	6	4	92
3	3	3	4			10
4	2		5			7
5	98	174	101	28	24	425
総計	123	225	130	36	32	546

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	58	82.9	2	2.9	1	1.4	3	4.3	2	2.9	4	5.7	70	100.0
社会情報学部	1	1.1	18	19.4	47	50.5	17	18.3	6	6.5	4	4.3	93	100.0
医学部医学科	44	81.5	3	5.6	3	5.6	4	7.4	0	0.0	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	68	90.7	2	2.7	0	0.0	5	6.7	0	0.0	0	0.0	75	100.0
理工学部	1	0.2	98	23.0	174	40.8	101	23.7	28	6.6	24	5.6	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	172	24.0	123	17.1	225	31.3	130	18.1	36	5.0	32	4.5	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 1 9 人文科学科目群

区分	1	2	3	4	5	総計
1	23	23	17	4	3	70
2	28	36	17	8	4	93
3	16	24	9	3	2	54
4	12	40	14	5	4	75
5	75	208	99	23	21	426
総計	154	331	156	43	34	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	23	32.9	23	32.9	17	24.3	4	5.7	3	4.3	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	28	30.1	36	38.7	17	18.3	8	8.6	4	4.3	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	29.6	24	44.4	9	16.7	3	5.6	2	3.7	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	12	16.0	40	53.3	14	18.7	5	6.7	4	5.3	75	100.0
理工学部	0	0.0	75	17.6	208	48.8	99	23.2	23	5.4	21	4.9	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	154	21.4	331	46.1	156	21.7	43	6.0	34	4.7	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 2 0 社会科学科目群

区分	1	2	3	4	5	総計
1	18	26	21	3	2	70
2	30	39	13	8	3	93
3	15	24	9	3	3	54
4	11	49	9	3	3	75
5	87	213	95	19	12	426
総計	161	351	147	36	23	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	18	25.7	26	37.1	21	30.0	3	4.3	2	2.9	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	30	32.3	39	41.9	13	14.0	8	8.6	3	3.2	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	15	27.8	24	44.4	9	16.7	3	5.6	3	5.6	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	11	14.7	49	65.3	9	12.0	3	4.0	3	4.0	75	100.0
理工学部	0	0.0	87	20.4	213	50.0	95	22.3	19	4.5	12	2.8	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	161	22.4	351	48.9	147	20.5	36	5.0	23	3.2	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 2 1 自然科学科目群

区分	1	2	3	4	5	総計
1	15	23	22	3	7	70
2	17	28	36	6	6	93
3	19	21	8	5	1	54
4	16	31	24	3	1	75
5	96	169	136	12	13	426
総計	163	272	226	29	28	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	15	21.4	23	32.9	22	31.4	3	4.3	7	10.0	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	17	18.3	28	30.1	36	38.7	6	6.5	6	6.5	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	19	35.2	21	38.9	8	14.8	5	9.3	1	1.9	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	16	21.3	31	41.3	24	32.0	3	4.0	1	1.3	75	100.0
理工学部	0	0.0	96	22.5	169	39.7	136	31.9	12	2.8	13	3.1	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	163	22.7	272	37.9	226	31.5	29	4.0	28	3.9	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 2 2 健康科学科目群

区分	1	2	3	4	5	総計
1	26	28	11	2	3	70
2	29	33	19	7	5	93
3	22	22	8	2		54
4	29	34	11		1	75
5	102	165	133	11	15	426
総計	208	282	182	22	24	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	26	37.1	28	40.0	11	15.7	2	2.9	3	4.3	70	100.0
社会情報学部	0	0.0	29	31.2	33	35.5	19	20.4	7	7.5	5	5.4	93	100.0
医学部医学科	0	0.0	22	40.7	22	40.7	8	14.8	2	3.7	0	0.0	54	100.0
医学部保健学科	0	0.0	29	38.7	34	45.3	11	14.7	0	0.0	1	1.3	75	100.0
理工学部	0	0.0	102	23.9	165	38.7	133	31.2	11	2.6	15	3.5	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	208	29.0	282	39.3	182	25.3	22	3.1	24	3.3	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 2 3 外国語教養科目群（履修者のみ回答）

区分	1	2	3	4	5	総計
1	20	28	15	1	6	70
2	31	40	15	2	4	92
3	23	22	4	1	3	53
4	11	27	14	2	1	55
5	88	126	104	9	17	344
総計	173	243	152	15	31	614

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	20	28.6	28	40.0	15	21.4	1	1.4	6	8.6	70	100.0
社会情報学部	1	1.1	31	33.3	40	43.0	15	16.1	2	2.2	4	4.3	93	100.0
医学部医学科	1	1.9	23	42.6	22	40.7	4	7.4	1	1.9	3	5.6	54	100.0
医学部保健学科	20	26.7	11	14.7	27	36.0	14	18.7	2	2.7	1	1.3	75	100.0
理工学部	82	19.2	88	20.7	126	29.6	104	24.4	9	2.1	17	4.0	426	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	104	14.5	173	24.1	243	33.8	152	21.2	15	2.1	31	4.3	718	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 2 4 総合科目群

区分	1	2	3	4	5	総計
1	28	26	12	2	2	70
2	29	42	16	1	5	93
3	14	24	11	4	1	54
4	19	45	7	1	3	75
5	119	201	81	11	14	426
総計	209	338	127	19	25	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	28	40.0	26	37.1	12	17.1	2	2.9	2	2.9	70	100.0
社会情報学部	1	1.1	29	30.9	42	44.7	16	17.0	1	1.1	5	5.3	94	100.0
医学部医学科	1	1.8	14	25.5	24	43.6	11	20.0	4	7.3	1	1.8	55	100.0
医学部保健学科	20	21.1	19	20.0	45	47.4	7	7.4	1	1.1	3	3.2	95	100.0
理工学部	82	16.1	119	23.4	201	39.6	81	15.9	11	2.2	14	2.8	508	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	104	12.7	209	25.4	338	41.1	127	15.5	19	2.3	25	3.0	822	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問 2 5 学部別科目（医学部・理工学部のみ回答）

区分	1	2	3	4	5	総計
1	13	10	30	3	14	70
2	14	16	50	2	11	93
3	34	16	4			54
4	55	18	2			75
5	164	192	58	8	4	426
総計	280	252	144	13	29	718

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	13	18.6	10	14.3	30	42.9	3	4.3	14	20.0	70	100.0
社会情報学部	1	1.1	14	14.9	16	17.0	50	53.2	2	2.1	11	11.7	94	100.0
医学部医学科	1	1.8	34	61.8	16	29.1	4	7.3	0	0.0	0	0.0	55	100.0
医学部保健学科	20	21.1	55	57.9	18	18.9	2	2.1	0	0.0	0	0.0	95	100.0
理工学部	82	16.1	164	32.3	192	37.8	58	11.4	8	1.6	4	0.8	508	100.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	104	12.7	280	34.1	252	30.7	144	17.5	13	1.6	29	3.5	822	100.0

* 「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たない

設問26 本学の教養教育について希望、意見がありましたら、記述ください。また、「あまり役に立たなかった」・「役に立たなかった」と回答をされた場合も、その理由を記述ください。

- ・講義にはおおむね満足です。ただ、シラバス検索が使いにくいですので改善してほしいと思いました。実際数学の授業を検索しようとしたのですが、見つかりませんでした。
- ・群馬県に関する知識を取り入れた科目を増やしてほしい。
- ・履修単位の上限があって、必修科目が多くあり、かつ、教養育成科目にも条件があるため、取りたい教養育成科目があっても中々取りにくいと思う。
- ・取りたい授業が重なってしまい、取れなかったのもありましたが、授業は面白かったです。
- ・前期と後期の必修科目の差が多く感じた。バランスが悪いと思う。
- ・自分の将来において役に立ちそうもない講義が多かった。
- ・無法地帯が多すぎる。例えば図書館の一階。私語を大学側が厳重注意して、禁止にするべき。何故図書館の人は注意しないのか。座ってるだけですか。次はP10のバイク駐輪場ここは自転車禁止のハズなのに、止めている学生がいる。というか、バイクが止められない程、自転車が溢れている。管理はどうなっているのですか？早く改善してください。原付で通う人は自転車が倒れてこないか、気が気でなくなる。とにかく、群馬大学はそういった学生の生活環境改善に力を入れるべきだと感じる。ちゃんと機能していない場所があることを理解していただきたい。
- ・もっと外国語教育に力を入れて欲しい。
- ・理工学部だけ、実質一年生だけで教養を取らなくてはいけないというシステムが理解出来ない。桐生の情報が全く入ってこない。
- ・理工学部の教養の履修方法をもう少し考慮していただきたい。
- ・取りたい講義が前期に集中していた。
- ・語学系の時間の選択肢を増やして欲しい。
- ・補講を入れるタイミングを考えて欲しかった。
- ・情報の授業に関して、内容（ログインのやり方、wordソフトの使い方、ネットのマナーなど）が基礎的すぎ、ほとんどが小学校～高校の間に教わっていたことの繰り返しだったので退屈に感じた。
- ・GB棟一階の学習スペースを利用したいがカードゲームをしている人が多く利用しづらいので、何とかしてほしいです。
- ・前期の物理学概論は高校の復習ばかりで面白くなかった。
- ・論理学や経済学、言語学等々の科目が無かったため、もっと科目を増やして欲しい就業力について、企業の人の講演会や仕事をしていく上でのマナー、敬語の使い方等の講義を期待していたのだが、コミュニケーション能力向上を称した「ただのおしゃべり時間」となっていたため、あまり有意義には感じなかった。
- ・他学部との交流をもっと深める講義をもっとほしいです。
- ・理工学部だけど、歴史とかまた勉強できて楽しかった。
- ・日常の生活と深く結び付きのあるものが多かったので取り組みやすかった。
- ・授業回数が少なくその分野のさわりまでしか学べなかった科目があったので、もう少し深くまで学ぶことができるようにして欲しい。
- ・これから生きていく中で役に立つことが学べました。
- ・履修の融通が少し効かないところがあった。
- ・もっと生徒が意欲的に勉強できる方法を考えたほうが良いと思うそれから教務システム、パワーワーズはアプリにしたほうが生徒が積極的に開くと思う。
- ・施設や講義も充実しており、理想的なスタイルで受講することができました。

- ・理工学部は桐生に移動するので桐生で再履修がある科目ない科目などを明確に示してほしいと思います。また、各学年での進級資格も明確に示して欲しいと思います。
- ・インターネット上で福島の人をバカにするような発言をしている教員に講義を開く資格はあるのか。私は正直そんな人の講義を受けたくない。
- ・専門科目によって受けたくても受けることができない講義が多かった。
- ・料理や裁縫、スポーツなどの生活で本当に生きる授業を取り入れてほしい。
- ・正直無駄な教養無くして早く専門科目を学びたい。
- ・名前によって決まる化学実験の前半後半の班わけで後半の組みの方だけがレポートが大変だった。成績で班が決まるならまだしも名前で決まった班わけでどちらか一方が難しく反対側は簡単なのは納得いかなかった。
- ・必修科目と教養育成科目とが被ってしまったりした時があり、とりたいたいのものがとれなかったものがあつた。また、前後期でとれる単位数がそれぞれ30単位となっているので、奇数となるととれる単位が限られてしまった。
- ・声が小さいのにマイクを使わない教授がいたので困った授業があつた。
- ・第二外国語の単位取得の難易度がちがすぎる。
- ・学びのリテラシーなどは、対象が小中学生を相手にしているかのような難易度に加え、そのような進行度の為、あまり役に立たなかった。丁寧なのはいいと思うが、敬語などの知識がある場合には、有意義な時間ではないと思う。
- ・GB棟にある学習スペースはあまり利用しませんでした、図書館や食堂を利用して自主学習していました。
- ・役に立たなかったと答えたのは履修していなかったから。
- ・進学に向けて学ぶべきことを学べたのでよかった。先生方も、熱心に教えてくださり、よかった。
- ・この学年で取って欲しいと書いてあるならば、取らせて欲しい。（自然情報系の単位を1年次に取って欲しいと書いてあつたが、抽選落ちして取れなかったため。加えて、すでに自然情報系の単位を取っていて、取る必要のない友だちが受かっていたため。）
- ・自分が勉強したいものとまったく違うものをやったりしていたので、これは勉強していて意味があるのだろうかと感じることがありました。
- ・教養教育の内容は良いと思います。
- ・人気のある講義の受講人数を増やしてほしい。興味のないものを受講することになってもやる気が出ないで時間だけが無駄になってしまうので。
- ・英語の授業をもっと増やして欲しい。英語新聞を読んだり、TEDを見たりなど、英語を身近に感じて楽しい授業がほしい。普段の英語の授業は高校みたいに教材ばかりであつたから。
- ・Q25は医学部・理工学部のみ回答とありますが、ほかの学部でも回答しないと提出できなかったのでは次やるときは改善して下さい。科目群の分類が曖昧な気がします。もう少し見直してみてもいいのでしょうか。学びのリテラシーは講義によってかなり格差があると感じました。とても有意義で素晴らしい講義もあるのですが、何をやっているのかよく分からないような講義もありました。必修になっているからにはせめて学生ががっかりしないようなレベルの講義をしてほしいと思います。事務窓口では困っていることや（英語のTOEIC？の点数による）単位の認定を相談しても「他の窓口に行ってください」その「ほかの窓口」でも同じことを言われ、たらいまわしにされたという話を知り合いからよく聞きます。各事務窓口同士で多少なりとも情報共有をしておいたほうが良いのではないのでしょうか。
- ・学びのリテラシー2と元々履修したかった講義が被ってしまったので、そういう場合の措置が欲しかった。
- ・熱意が感じられない
- ・教養教育について本当に満足している。それぞれの授業によって私は色々な情報を得られ

た。

・学びのリテラシー2は、前期の間にシラバス等で確認して希望の講義を選ぶシステムだが、シラバスだけで内容を判断するのはなかなか難しいと感じた。また、講義を受けもつ教授などに直接確認する時間をとるのも自分自身が忙しいとなかなか難しいと感じた。

・これからの自分の進路と全く関係ないものをただ先生が話しているだけでは全く身につくものがないと感じた。

・自然科学群において、文系で基礎無し化学や物理等を高校で学習していない生徒にとって選択の幅がかなり狭く感じた。また、抽選に漏れ違う授業を履修したがそれもかなり難易度が高く、もう少し文系履修者にも分かりやすい授業にしてほしい。

・平安時代の文学がとてもおもしろく興味を持って毎回授業を受けられた。

・学科ごとの授業スケジュールの紙が、大きくて見づらいです。理工学部にとって。

・自然科学科目群は、高校で学んでいることが望ましい教科が設定されている講義があるのにも関わらず、抽選漏れにより、その講義しか取れないなどの事案が発生した。また、この科目群を得意とする理系の人には、文系の人に文系向けの講義を譲ってほしいと強く思った。

・教養科目は他の学部ともコミュニケーションを取れる、専門科目と違った学ぶ要素があった。

・出席を全ての授業でとる。

・授業にはおおむね満足しています。授業のシラバスと実際の授業内容が異なっていた（例えば、期末試験はない授業だとシラバスには記載されていたにも関わらず、期末試験があった、など）、という意見を友人が話していましたので、そこは改善していただけたら嬉しく思います。

・他の学部の科目を受講できるようにしていただきたいと思っています

・抽選漏れで、履修したい科目がとれず、あまり興味のない科目を取らざるを得ないのは困る。

・健康科学科目では医療ついて学ぶことができ、今後の生活にとっても役立つ内容で受講して良かったと思った。しかし、総合、人文科目で受講した授業は、第一回目のガイダンスにも出席し、講義内容についての説明をしっかりと受けたが、始まってみると自分が学びたいと思っていたこととは内容が異なっていてその点は少し残念だった。それでも、その内容の講義中でも学べたことはあったので、受講したことについて後悔はしていない。

・入学したときは大学の授業って具体的にどういうものか分かりませんでした。今では学科専門の事だけでなく様々なことを学べたので、この教養教育は個人的に凄く良かったと思います。

・シラバスを見てもよくわからなかった。

・きちんと出欠をとってほしい。

・どの先生方も質問に行けば丁寧にわかるまで教えてくださり、また今後の人生で大切なことなども教えてくださった。個人的にはとても有意義で将来について視野が開けた1年間だった。

・後期のスポーツ科目のフィットネストレーニングにレポート課題があったため、その旨を前期の種目選択の時点でアナウンスして欲しかった。それでいて課題が出されてから締め切りまでの期間が、他の科目のプレゼンテーションやテストの期間と完全に重なっていたことには多少の不満を覚えました。

・自然科学科目を一つもとっていないからわからなかった。

・理工学部のJABEE準拠が不要。多読等改善主にテスト間の時間短縮。パワーワーズはあまり役に立っていないので、方法を変えるべき。荒牧のみでなく桐生でも開講して欲しい。

・学科とあまり関係ない授業だけではなく、関係が強い授業を取り入れてほしいと感じた。

・外国語が時間数のわりにやりがいを感じなかった節があります。内容がもう少し高度なも

のになるか，または現状から変わらないなら週に2コマ分も時間を取る必要は感じません。
・とても楽しく受けられたものばかりだった。学生の興味を引くものも多く，自分の教養としてとても役に立った。

2 学生支援センター

学生支援センターは、学生生活及び就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている。運営に当たり委員会を置き、各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援業務の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。平成27年度の主な支援等の事項は、次のとおりである。

2.1 入学料免除及び徴収猶予

入学料について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、また、大学院生、専攻科生においては、経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、免除を行っている。

2.1.1 免除申請者数、免除者数

平成27年度入学料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

4月1日入学：免除申請者数 115人、免除者数 88人

10月1日入学：免除申請者数 9人、免除者数 9人

2.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成27年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 27人、徴収猶予者数 22人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

2.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生又は特別な事情（学資負担者が納入期限の6ヶ月以内（入学者については、入学前1年以内。）に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、又は学部生及び大学院（修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程）に在籍する、成績が特に優秀な学生を対象として、免除を行っている。

2.2.1 免除申請者数、免除者数

平成27年度授業料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

前期：免除申請者数 821人、免除者数 683人

後期：免除申請者数 803人、免除者数 709人

2.2.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成27年度授業料徴収猶予申請者、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料のとおり）。

前期：徴収猶予申請者数 2人、徴収猶予者数 2人

後期：徴収猶予申請者数 0人、徴収猶予者数 0人

2.3 寄宿料免除

本学では、学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け、納入が著しく困難と認められる場合、免除を行っている。

2.3.1 免除申請者数、免除者数

平成27年度寄宿料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである。

免除申請者数 0人、免除者数 0人

2.4 奨学金

本学では、日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体や民間奨学団体から本学に募集依頼のあった奨学金を扱っている。これらの奨学金は、いずれも学業・人物ともに優秀であり、かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお、日本学生支援機構の奨学金には、無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があり、いずれも貸与終了後には、返還が必要となる。

2.4.1 日本学生支援機構奨学生数（平成27年10月1日現在）

第一種：学部生 959人、大学院生 312人

第二種：学部生 1,005人、大学院生 77人

（詳細は資料のとおり：「学部生」には、専攻科生を含む。）

2.4.2 日本学生支援機構以外の奨学生数（平成27年10月1日現在）

学部生 42人、大学院生 13人

（「学部生」には、専攻科生を含む。）

2.5 学生相談体制及び学生相談

本学は、次のような学生相談体制を設け、学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

2.5.1 学生相談体制

全学の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を、また、理工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

2.5.2 主な相談事項

主な相談事項は、勉学・進路・就職活動、メンタルヘルス、クラブ・サークル活動、経済的事情・アルバイト、対人関係についてなどである。

2.5.3 学生相談アンケートの実施及び活用

平成27年12月に助教以上の専任教員に対して、平成27年1月1日から平成27年12月31日までの間に学生から相談のあった内容や各教員の対応について「学生相談アンケート」を実施し、回収率は38.18%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、全教員に配付し学生指導に活用している。

2.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的としている。

2.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成27年度前期欠席者数：88名（詳細は資料のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

平成27年度後期欠席者数：86名（詳細は資料のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊、精神的な悩み、身体的病気怪我、進路の迷い等

2.6.2 実施方法、時期

1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手（研究室に所属）しない学部全学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。
ただし、1年次は、学部の依頼により教育基盤センターが指定した授業科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回（理工学部は2回）以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号、所属、氏名、住所、電話番号等を記載する。
- ・学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて、クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・調査方法は、クラス担任等が対象者を呼び出し、直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い、かつ、精神科医の面談の可否を判断し、その内容を面接票に記載して、その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票を健康支援総合センター医師に回付し、医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い、必要なカウンセリング等を行う。

2.7 障害学生への支援

障害のある学生がその能力並びに障害の種別及び程度に応じ、十分な教育を受け、学生生活を送ることができるよう、大学教育・学生支援機構学生支援センターに、障害学生支援室を設置している。

2.7.1 障害学生数

平成27年度に障害学生支援室が障害のある学生と認定し、修学支援の対象となっている学生は22名（聴覚障害者7名、肢体不自由者5名、内部障害者1名、発達障害者5名、メンタルヘルス不調者4名）である。

2.7.2 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生には、個別に障害の種類及び程度に応じた支援内容を明記した「配慮願い」を授業担当教員へ通知している。また、全教員に対して「障害学生支援での一般的な配慮事項」を配付して周知を図っている。

聴覚障害学生には、授業ごとに必要に応じてFM補聴器の貸し出しや、パソコンテイクと手話通訳による支援等を行い、肢体不自由学生には、休憩室の設置、車椅子対応の施設整備、低身長者のための踏み台の設置、介助者による移動介助などの支援を行い、内部障害学生には、講義中のトイレ退席等の配慮、また、発達障害学生には、休憩室の設置、健康支援総合センター医師による面談、履修相談などの支援を行っている。

2.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課，学校行事，学校施設内外における課外活動，学校施設内，通学，学校施設等相互間の移動時に係る全ての傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課，学校行事，インターンシップ，介護等体験活動，教育実習，ボランティア活動等及びその移動時に，他人にけがを負わせたり，他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では，教育研究の円滑な実施のために，入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

2.8.1 加入者数

平成27年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の加入者数は，資料のとおりである。

2.8.2 請求種別保険金請求件数

平成27年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の請求種別保険金請求件数は，資料のとおりである。

2.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は，学生がJR，私鉄，バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。

学生旅客運賃割引証は，学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で，片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については，荒牧地区，昭和地区，桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機にて行っている。

2.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成27年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は，資料のとおりである。

2.10 学生寮

本学には，前橋地区に養心寮，桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は，学生が修学にふさわしい環境において勉学を継続するための住居施設として設けられている。

2.10.1 養心寮入寮者数

平成27年度の養心寮入寮者数（定員は男子74人、女子62人、合計136人、寄宿料月額4,300円）は、延入居者数が1,590人で、入居率は97.4%である。なお、男子部屋数は77室であるが、入居不可室が3室あるため、74室を定員とした。

2.10.2 啓真寮入寮者数

平成27年度は大規模改修工事を実施したため、入寮者は0人である。

2.11 生活支援施設

本学では、学生生活の利便性を確保し、経済面の支援を図るために荒牧地区、昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており、群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を、売店では、書籍、日用品、旅行斡旋等を市価より安く提供している。

2.11.1 食堂

事項・地区	荒 牧 地 区	昭 和 地 区	桐 生 地 区
座 席 数	447席 (ホール内405席, 外42席)	286席 (ホール内264席, 外22席)	558席 (ホール内438席, 外20席, 桐園100席)
営 業 時 間	11:00～14:00 17:30～19:30	11:00～14:00	11:00～14:00 17:30～19:30 桐園 11:00～14:00
年間営業日数	239日	233日	239日
年間利用者数	117,272人	44,872人	146,616人
提供メニュー数	40以上	20以上	40以上

2.11.2 売店

事項・地区	荒 牧 地 区	昭 和 地 区	桐 生 地 区
営 業 時 間	9:30～18:00	8:30～18:00	9:30～18:00
年間営業日数	235日	233日	233日
年間利用者数	171,120人	131,703人	177,966人

2.12 課外活動施設

本学には、荒牧、昭和、桐生の各キャンパスに各種の課外活動施設があり、体育の授業の他、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

2.12.1 体育施設

○荒牧キャンパス

陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックである。陸上競技部が主として使用している。

また、トラック内のインフィールドも、やり投げ等の陸上種目の他、多目的な軽スポーツ

実施の場として使用している。

サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。なお、サッカー・ラグビー場には、夜間照明も設置してある。サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルが主として使用している。

テニスコート

テニスコートは、硬式専用コート3面、軟式専用コート3面（いずれもクレーコート）、全天候型コート2面（オムニコート）、両用コート1面（クレーコート（ゴルフ練習施設併設））の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部が主として使用している。

なお、オムニコートは夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人気が非常に高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

野球場

野球場は、天然芝で、夜間照明も設置してある。準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークルアウィル及び医学部準硬式野球部が主に使用している。

プール

プールは、50メートル8コースで、6月～8月に使用している。水泳部が主として使用している。

第1体育館

第1体育館は、主としてバレーボール、バスケットボールなどにより使用し、それぞれ2面使用可能である。バレーボール部、バスケットボール部が主として使用している。

第2体育館

第2体育館は、主としてバドミントン、卓球、体操競技、ダンスなどにより使用している。なお、ダンス用の広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットも設けている。バドミントン部、卓球部、体操部、ダンス部が主として使用している。なお、第1体育館、第2体育館の間にトレーニングルームが併設されている。

武道場

武道場は、剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用する他、畳面にレスリング用マットを敷き詰めてレスリングをすることも可能である。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、レスリング部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、平成22年度に新営され、公式試合が可能となった。弓道部が主として使用している。

馬場

馬場は、馬術部が使用している。乗馬して練習すると表面が荒れるため、馬術部学生が馬場の部室に常駐（授業時間及び深夜を除く）し、馬の飼育と馬場の管理を行っている。なお、飼育している馬は馬術部の所有であり、その餌代は学生が拠出している。

○昭和キャンパス

体育館

体育館は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどの球技で使用するアリーナと、剣道場・柔道場各1面の武道場があり、武道場の二階は卓球場となっている。

昭和地区では体育の正課授業がないため、学生の課外活動用として、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、柔道部、卓球部が主に使用している。

弓道場

弓道場は敷地面積が狭隘であるため、荒牧地区と比べると射場の幅は狭くなっている。弓道部が主として使用している。

○桐生キャンパス

菱グラウンド（サッカー・ラグビー場、野球場）

サッカー・ラグビー場は、サッカー及びラグビー用のゴールが設置してあり、サッカー部、ラグビー部及びフットサルサークルが主として使用している。野球場は、天然芝で、硬式野球部が主として使用している。

テニスコート

テニスコートは全天候型コート（オムニコート）が3面あり、硬式テニス部、ソフトテニス部が主に使用している。

なお、夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあるため、人氣が非常に高い。その反面人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

プール

プールは、25メートル7コースで、6月～8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

体育館

体育館は、1階には剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用している。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、ダンスサークル、八木節同好会が主として使用している。また、トレーニングルームも併設されている。2階は主として球技用のフロアであり、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、バドミントン部が主に使用している。

弓道場

弓道場は、弓道部が主として使用している。

2.12.2 文化施設

文化施設等は、次のとおりである（荒牧キャンパスのみ）。

ミューズホール

ミューズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

集会室

3室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主に茶道部が使用している。

2.12.3 課外活動共用施設

○荒牧キャンパス

課外活動共用施設は、南北に2棟あり北棟は主に運動系サークルが、南棟は主として文化系サークルが共同で利用している施設である。北棟は1階、2階ともに8部屋の計16部屋あり、南棟は1階、2階ともに6部屋の計12部屋がある。

北棟1階に運動講義関係の器具庫があり、その他の部屋は部室として使用している。南棟は音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

○昭和キャンパス

課外活動施設は体育館と繋がっており1階、2階、3階に各6部屋（計18室）あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が4室ある。主に文化系クラブ・サークルが利用している。

○桐生キャンパス

課外活動共用施設は、1階に9部屋、2階と3階に各6部屋の計21部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。主に文化系クラブ・サークルの活動場所や運動部の器具庫及び倉庫として利用されている。

2.12.4 合宿所

○荒牧キャンパス

4部屋あり、大きさは談話室が12畳、1・2号室が計22畳、3号室が14畳、4号室が14畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

○桐生キャンパス

4部屋あり、大きさは1号室が12畳、2号室が15畳、3・4号室が各6畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、各部屋には就寝用具が備えられており、共用の調理場や浴室等も利用できる。

2.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

2.13.1 学生団体

平成27年度のクラブ・サークルは、資料のとおりである。

本学の運動部の対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスのクラブ等は、「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

2.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催している。

- ・荒牧祭（荒牧キャンパス）は、平成27年12月12日（土）～13日（日）に開催し、来場者数は7,000人位であった。
- ・医学祭（昭和キャンパス）は、平成27年10月24日（土）～25日（日）に開催し来場者数は2,100人位であった。
- ・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成27年10月16日（金）～18日（日）に開催し、来場者数は、5,200人位であった。
- ・太田キャンパスは、平成27年7月19日（日）に太田市祭りに併せて開催し、大学祭として参加した。

2.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区13大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。平成27年度は、筑波大学が主管校として、茨城大学、宇都宮大学の3大学が担当して行われた。平成27年8月16日（日）～8月31日（月）の日程で全17種目が開催され、各大学が担当した競技は以下のとおりである。

筑波大学担当：陸上競技、テニス、バスケットボール、剣道、卓球
 茨城大学担当：硬式野球、サッカー、ソフトテニス、ラグビー、体操、柔道
 宇都宮大学担当：準硬式野球、水泳、弓道、バレーボール、バドミントン、空手道
 群馬大学が好成績（3位以上）を収めた競技は以下のとおりである。

- ・優勝：空手道（自由）
- ・準優勝：バスケットボール（女子）
- ・第3位：なし

2.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成27年度は、以下のとおり実施した。

第1回 平成28年2月19日（金）

（講演内容）

- ・「飲酒とタバコ：健康に関するルールとマナー」
- ・「東京オリンピック・パラリンピック競技大会の概要について」
- ・「SNS利用に伴うトラブル防止について」

2.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

2.14.1 北軽井沢研修所

本研修所は、本学指導教員及び学生等がセミナー等で利用することを目的に昭和49年に設置された。所在地は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山栖2032-242（北軽井沢大学村1条8丁目）で、敷地面積2,497㎡、建物面積285㎡のC型鋼ビン接合フレーム型2階建の建物となっている。

収容人員は15人で居室は3、研修室1、炊事施設等が完備されている。開所時期は、5月1日から10月15日までで、施設運営費は、1人1日1,000円、食事は自炊となっている。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設運営費の他に施設使用料1人1日40円が必要となる。

平成27年度延利用者数

群馬大学所属者	その他	総数
244人	44人	288人

2.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、教職員及び学生が起居を共にし、相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することができる。

四季を通して、セミナーや体育館を利用してのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

草津セミナーハウス使用料金表（平成27年度）

区 分	(1) 地区国立大学教職員・学生	(2) (1) 以外の者
運 営 費	1,500円 (2,000円)	1,900円 (2,400円)
施 設 使 用 料	(2) の者のみが負担 (毎年4月1日決定)	
食 事	朝食 480円 昼食 520円 夕食 1,020円	

- (1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。
- (2) () 内の数字は10月1日から4月30日までの運営費である。
- (3) 地区国立大学の教職員及び学生以外が利用する場合は施設運営費の他に施設使用料1人1日100円が必要となる。
- (4) 既納の運営費及び施設使用料は還付しない。ただし、使用日の7日前までの取り消しについては、運営費の70%を還付する。

平成27年度延利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総数
3,486人	2,487人	5,973人

2.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を設置している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ、社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

2.15.1 進路状況及び主な就職先

平成27年度の学生の進路状況等は、資料のとおりである。

2.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

学生支援センター就職支援部会主催による就職ガイダンス等は、次のとおりである。

1) 就職ガイダンス

- (基本講座 全6回、参加延人数：706人)
- (実践講座 全17回、参加延人数：2,044人)

- (特別講座 全7回, 参加延人数: 164人)
- 2) 公務員講座
(全6回, 参加延人数: 344人)
 - 3) 1・2年生向けガイダンス
(全2回, 参加延人数: 102人)
 - 4) インターンシップ関係説明会及び体験報告会
(全6回, 参加延人数: 1,372人)
 - 5) 職務適性診断テスト等
(全4回, 参加延人数: 434人)

2.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区及び桐生地区にキャリアカウンセラーを配置し、対面式によるカウンセリングを実施した。さらに、ハローワークの協力により、個別相談会や集団面接模擬練習を実施した。

- 1) 利用件数: 320件
- 2) 主な相談・指導内容
 - ・就職活動の進め方
 - ・職業適性・自己分析の相談
 - ・エントリーシート、履歴書の添削
 - ・面接試験の指導助言

2.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) 学生用に就職情報検索等のためのパソコン・プリンターを設置
- 2) 各種企業情報データを集約して教務システムに公表
- 3) 先輩の就職活動報告書の公開
- 4) 就職関連書籍・ガイダンス開催ビデオの貸出
- 5) 学内企業説明会の案内やカウンセリングの予約状況等について、ツイッターによる情報発信

2.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。
- 2) 体験型インターンシップを推進すると共に各機関、企業、施設等において学生が実務経験を積むことができる環境を整備、実習期間中に職員による受入先訪問を行った。
 - ・事前説明会参加者: 521人
 - ・実習事前講座参加者: 333人
 - ・実習参加者: 351人
 - ・インターンシップ終了後の体験報告会参加者: 518人

2.15.6 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援BOOK(手帳版)を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

2.16 就業力育成支援

本学では、以下のような就業力育成の取組を実施している。

- 1) 就業力育成を実施するために就業力育成支援室を設置し、専任教員(教授)を配置して、

キャリアサポート室と連携しながら就業観育成から将来の就業までを意識したキャリア教育を行っている。

- 2) 就業力育成のための科目として「キャリア計画」、「キャリア設計」、及び「学びを構築する」を開講している。
- 3) 企業実務家等による就業力育成講演会及び就業力育成セミナーを実施した。
- 4) 企業での就業体験型インターンシップの事前教育として、理工学部2年生に「インターンシップⅠ」を開講している。
- 5) 学びの履歴、アンケート等は、電子的に記録し、自身の学びを振り返ることのできるキャリアデザインポートフォリオシステムを利用している。

2.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を、平成15年度、平成20年度及び平成25年度に実施した。また、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し学生支援への活用を図った。

なお、平成30年度に4回目の学生生活実態調査を実施する予定である。

2.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、平成25年度からウェブサイトにて掲載しており、今年度も同様にウェブサイトでの掲載となった。

主な掲載内容は、各地区学園祭及びフットサル大会レポート、インターンシップ、生協食堂人気メニュー等である。

2.19 事件・事故

本学学生が関係した事件・事故の件数は、次のとおりである。

- ・交通事故：17件（学内5件、学外12件）
- ・盗難：1件（被害者1人）
- ・その他迷惑行為、交通法規違反等不適切な行動等：17件

2.20 学生支援センター資料集

資料 2.1.1-2.1.2：平成27年度入学料免除及び入学料徴収猶予実施状況

資料 2.2.1-2.2.2：平成27年度授業料免除及び授業料徴収猶予実施状況

資料 2.4.1：日本学生支援機構奨学生数（平成27年10月1日現在）

資料 2.6.1：平成27年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期、後期）

資料 2.8.1：平成27年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料 2.8.2：平成27年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険請求種別
保険金請求件数

資料 2.9.1：平成27年度通学証明書発行枚数、学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料 2.13.1：平成27年度クラブ・サークル一覧

資料 2.15.1：平成27年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

2.20 学生支援センター資料集

資料2.1.1-2.1.2 平成27年度入学科免除実施状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)	
	4月入学	10月入学	判定	合計
教育学部	0	0	全額免除 半額免除	0 0
社会情報学部	0	0	全額免除 半額免除	0 0
医学部	0	0	全額免除 半額免除	0 0
	0	0	全額免除 半額免除	0 0
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	0	0	全額免除 半額免除	0 0
学部の計	0	0	全額免除 半額免除	0 0
総合理工学科(夜間主)	0	0	全額免除 半額免除	0 0
教育学研究科 (修士課程)	11	0	全額免除 半額免除	8 0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額免除 半額免除	0 0
社会情報学研究科	3	1	全額免除 半額免除	3 1
医学系研究科 (生命医科学専攻)	3	0	全額免除 半額免除	3 0
保健学研究科 (博士前期課程)	10	0	全額免除 半額免除	7 0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	78	3	全額免除 半額免除	60 3
大学院修士課程の計	105	4	全額免除 半額免除	81 4
医学系研究科 (医科学専攻)	4	2	全額免除 半額免除	2 2
保健学研究科 (博士後期課程)	1	0	全額免除 半額免除	1 0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	5	3	全額免除 半額免除	4 3
大学院博士課程の計	10	5	全額免除 半額免除	7 5
特別支援教育特別専攻科	0	0	全額免除 半額免除	0 0
合 計	115	9	全額免除 半額免除	88 9

平成27年度入学科徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		猶予許可者数 (人)	
	4月入学	10月入学	判定	合計
教育学部	5	0	全額猶予 半額猶予	5 0
社会情報学部	2	0	全額猶予 半額猶予	1 0
医学部	1	0	全額猶予 半額猶予	1 0
	5	0	全額猶予 半額猶予	5 0
理工学部(工学部) 総合理工学科(夜間主)除く	10	0	全額猶予 半額猶予	9 0
学部の計	23	0	全額猶予 半額猶予	21 0
総合理工学科(夜間主)	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
教育学研究科 (修士課程)	1	0	全額猶予 半額猶予	0 0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
社会情報学研究科	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
保健学研究科 (博士前期課程)	1	0	全額猶予 半額猶予	0 0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	1	0	全額猶予 半額猶予	0 0
大学院修士課程の計	3	0	全額猶予 半額猶予	0 0
医学系研究科 (医科学専攻)	1	0	全額猶予 半額猶予	1 0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
大学院博士課程の計	1	0	全額猶予 半額猶予	1 0
特別支援教育特別専攻科	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0
合 計	27	0	全額猶予 半額猶予	22 0

平成27年度授業料免除実施状況

	免除申請者数 (人)			免除許可者数 (人)			
	前期	後期	合計(延べ人数)	判定	前期	後期	
教育学部	93	92	185	全額免除	53	58	合計(延べ人数)
				半額免除	24	26	111
社会情報学部	57	53	110	全額免除	41	39	80
				半額免除	9	10	19
医学部	42	46	88	全額免除	21	24	45
				半額免除	8	7	15
保健学科	64	70	134	全額免除	36	39	75
				半額免除	19	24	43
理工学部(工学部)	272	257	529	全額免除	136	144	280
				半額免除	86	82	168
総合理工学科(夜間主)除く 学部の計	528	518	1046	全額免除	287	304	591
				半額免除	146	149	295
総合理工学科(夜間主)	11	11	22	全額免除	7	7	14
				半額免除	3	3	6
教育学研究科 (修士課程)	20	14	34	全額免除	8	9	17
				半額免除	7	5	12
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	全額免除	0	0	0
				半額免除	0	0	0
社会情報学研究科	7	10	17	全額免除	7	10	17
				半額免除	0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	9	8	17	全額免除	7	6	13
				半額免除	2	1	3
保健学研究科 (博士前期課程)	23	24	47	全額免除	4	5	9
				半額免除	12	14	26
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	162	156	318	全額免除	95	94	189
				半額免除	42	43	85
大学院修士課程の計	221	212	433	全額免除	121	124	245
				半額免除	63	63	126
医学系研究科 (医科学専攻)	23	24	47	全額免除	14	16	30
				半額免除	7	7	14
保健学研究科 (博士後期課程)	12	12	24	全額免除	5	4	9
				半額免除	5	6	11
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	26	26	52	全額免除	23	22	45
				半額免除	2	4	6
大学院博士課程の計	61	62	123	全額免除	42	42	84
				半額免除	14	17	31
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	全額免除	0	0	0
				半額免除	0	0	0
合 計	821	803	1624	全額免除	457	477	934
				半額免除	226	232	458

平成27年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)			猶予許可者数 (人)			
	前期	後期	合計(延べ人数)	判定	前期	後期	
教育学部	0	0	0	全額猶予	0	0	合計(延べ人数)
				半額猶予	0	0	0
社会情報学部	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
医学部	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
保健学科	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
理工学部(工学部)	1	0	1	全額猶予	1	0	1
				半額猶予	0	0	0
総合理工学科(夜間主)除く 学部の計	1	0	1	全額猶予	1	0	1
				半額猶予	0	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
社会情報学研究科	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士前期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
大学院修士課程の計	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	1	0	1	全額猶予	1	0	1
				半額猶予	0	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
理工学府(工学研究科) (博士後期課程)	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
大学院博士課程の計	1	0	1	全額猶予	1	0	1
				半額猶予	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	全額猶予	0	0	0
				半額猶予	0	0	0
合 計	2	0	2	全額猶予	2	0	2
				半額猶予	0	0	0

平成27年度日本学生支援機構奨学生数（学部・研究科別内訳）

平成27年10月1日現在（人）

学部・研究科		区 分		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計	
				一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種
																	計
学部	教育学部	社会学部	教育学部	42	35	38	50	28	44	35	45					143	174
	社会学部	社会学部	社会学部	29	26	29	24	27	25	24	27					109	102
	医学部	医学部	医学部	6	6	11	18	12	13	14	19	17	23	19	19	79	98
	医学部	保健学科	保健学科	33	28	35	36	37	39	38	37					143	140
	工学部	工学部	工学部				1	1	3	108	124					109	128
	工学部	工学部	工学部							3	4					3	4
	工学部	工学部	工学部	120	116	134	102	119	141							373	359
	工学部	工学部	工学部	230	211	247	231	224	265	222	256	17	23	19	19	959	1005
学部計		学部計		230	211	247	231	224	265	222	256	17	23	19	19	959	1005
大学院	専攻科	特別支援教育特別専攻科	専攻科													0	0
	教育学研究科	修士課程	教育学研究科	7		9										16	0
	教育学研究科	専門職学位課程	教育学研究科													0	0
	社会学研究科	社会学研究科	社会学研究科			1										1	0
	医学系研究科	修士課程	医学系研究科	3	4	3	2									6	6
	医学系研究科	博士課程	医学系研究科					1		3	1					4	1
	保健学研究科	博士前期課程	保健学研究科	4	1	4	1									8	2
	保健学研究科	博士後期課程	保健学研究科	1												1	0
	工学研究科	博士前期課程	工学研究科			1										1	0
	工学研究科	博士後期課程	工学研究科													0	0
	理工学府	博士前期課程	理工学府	132	31	128	36									260	67
	理工学府	博士後期課程	理工学府	6		6	1	3								15	1
大学院計		大学院計		153	36	152	40	4	0	3	1	0	0	0	0	312	77
大 学 院 計		大 学 院 計		153	36	152	40	4	0	3	1	0	0	0	0	312	77

※一人の学生が一種と二種を併用貸与している場合もあるので、延べ人数である。

総計	2353
----	------

平成27年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

	教育学部	社会情報学部	医学部			理工学部 (工学部)	合計
			医学科	保健学科	計		
1年生 対象者数	名 229	名 106	名 114	名 166	名 280	名 563	名 1,178
欠席者数	3	1	1	0	1	0	5
	1.3%	0.9%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%
2年生 対象者数	225	106	149	162	311	571	1,213
欠席者数	4	3	3	0	3	21	31
	1.8%	2.8%	2.0%	0.0%	1.0%	3.7%	2.6%
3年生 対象者数	230	121	115	165	280	616	1,247
欠席者数	0	0	34	0	34	18	52
	0.0%	0.0%	29.6%	0.0%	12.1%	2.9%	4.2%
合 計 対象者数	684	333	378	493	871	1,750	3,638
欠席者数	7	4	38	0	38	39	88
	1.0%	1.2%	10.1%	0.0%	4.4%	2.2%	2.4%

※ 学生数は、平成27年5月1日現在

※ 理工学部（工学部）2～3年生は欠席2回以上を欠席者とする。

※ 欠席者数下段は、欠席率

平成27年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覧（後期）

	教育学部	社会情報学部	医学部			理工学部 (工学部)	合計
			医学科	保健学科	計		
1年生 対象者数	名 228	名 104	名 114	名 165	名 279	名 561	名 1,172
欠席者数	3	0	0	0	0	7	10
	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.9%
2年生 対象者数	225	106	149	162	311	571	1,213
欠席者数	4	4	2	0	2	30	40
	1.8%	3.8%	1.3%	0.0%	0.6%	5.3%	3.3%
3年生 対象者数	230	121	115	165	280	614	1,245
欠席者数	2	1	1	0	1	32	36
	0.9%	0.8%	0.9%	0.0%	0.4%	5.2%	2.9%
合 計 対象者数	683	331	378	492	870	1,746	3,630
欠席者数	9	5	3	0	3	69	86
	1.3%	1.5%	0.8%	0.0%	0.3%	4.0%	2.4%

※ 学生数は、平成27年11月1日現在

※ 理工学部（工学部）2～3年生は欠席2回以上を欠席者とする。

※ 欠席者数下段は、欠席率

資料2.8.1 平成27年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

(平成28年3月31日現在)

学部 (人)

学部名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他(研究生等)	計
教育学部	229	225	230	242	0	0	24	950
社会情報学部	106	106	121	144	0	0	23	500
医学部	114	149	115	127	119	108	5	737
保健学科	166	162	165	178	0	0	2	673
計	280	311	280	305	119	108	7	1,410
理工学部	563	571	616	540	0	0	37	2,327
夜間主コース	0	0	0	37	0	0	0	37
計	563	571	616	577	0	0	37	2,364
合計	1,178	1,213	1,247	1,268	119	108	91	5,224

(平成28年3月31日現在)

大学院・専攻科 (人)

研究科名	1年	2年	3年	4年	その他(研究生等)	計
教育学研究科	45	45	0	0	1	91
社会情報学研究科	12	21	0	0	5	38
医学研究科	12	14	0	0	1	27
保健学研究科	59	72	66	96	2	295
博士前期課程	49	42	0	0	3	94
博士後期課程	10	11	41	0	2	64
計	130	139	107	96	8	480
理工学府	326	336	0	0	12	674
工学研究科	35	19	60	0	2	116
計	361	355	60	0	14	790
特別支援教育特別専攻科	11	0	0	0	3	14
合計	559	560	167	96	31	1,413

資料2.8.2 平成27年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 険						学研災付帯 賠償責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	6	1	0	5	0	12	2	14
昭和地区	1	0	1	7	0	9	0	9
桐生地区	1	0	4	0	0	5	1	6
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	1	5	12	0	26	3	29

平成27年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
658	775	78	29	226	25	19	0	1,810

平成27年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	その他 傷病・治療	計
荒牧地区	132	724	622	174	1,679	85	1,017	4,433
昭和地区	569	638	871	218	3,487	18	1,346	7,147
桐生地区	252	1,020	362	48	1,719	10	430	3,841
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	953	2,382	1,855	440	6,885	113	2,793	15,421

平成27年度 クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
1	Advance	○				文化部
2	AAA☆KIDS		○			文化部
3	Arc			○		文化部
4	Beyond		○			文化部
5	E. S. S (English Speaking Society)	○				文化部
6	ELMO		○			文化部
7	E∞gg		○			文化部
8	FLOW Orchestra & Chorus	○	○			文化部
9	Fore-Bridge Orchestra (FBO)		○			文化部
10	(FORS)国際医療ボランティアの会		○			文化部
11	GA研究会	○				文化部
12	GMA	○				文化部
13	G. K. オールスターズ			○		文化部
14	Guit's		○			文化部
15	LAMP	○				文化部
16	LEADS		○			文化部
17	(MD-PhD勉強会)ド学連		○			文化部
18	M★DC'ダンスサークル(医学部)		○			文化部
19	Origin"折紙研究会"	○	○	○		文化部
20	Pastel Plan	○				文化部
21	PCDC	○				文化部
22	Pico		○			文化部
23	S. R. C. 部	○	○	○	○	文化部
24	TRPG研究会	○				文化部
25	Voice Cream	○	○	○		文化部
26	青竹	○				文化部
27	荒牧ジャズ研究会	○				文化部
28	囲碁・将棋部		○			文化部
29	泉の会	○				文化部
30	映画研究会	○	○			文化部
31	エレクtoon部		○			文化部
32	演劇部テアトル・ヒューメ	○				文化部
33	音楽研究会			○		文化部
34	気象天文研究部	○	○	○		文化部
35	クラシックギター部	○				文化部
36	グリークラブ	○		△		文化部
37	ぐんまYMCA	○	○	○		文化部
38	軽音楽部		○			文化部
39	混声合唱団	○		○		文化部
40	茶道部	○				文化部
41	写真部(荒牧)	○		○		文化部
42	写真部(昭和)		○			文化部
43	写真部(桐生)			○		文化部
44	書道部	○				文化部
45	進化するサルのだれでもわかる科学教室	○				文化部
46	吹奏楽団	○	○	○	○	文化部
47	政治研究会	○				文化部
48	0から始めるゲーム制作会	○				文化部
49	たんぽぽ	○				文化部
50	てふてふ	○				文化部
51	でんでんむし	○	○			文化部
52	でんでんむし(医学部)		○			文化部

平成27年度 クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
53	電子計算機研究会			○		文化部
54	天文部		○			文化部
55	東洋医学研究会		○			文化部
56	ピアノ部		○			文化部
57	美術愛好会		○			文化部
58	ビリヤード部		○			文化部
59	ファンタスティック手芸部	○				文化部
60	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部
61	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部
62	ボードゲーム		○			文化部
63	漫画研究部	○		○		文化部
64	マンドリン・ソサエティ	○	○	○		文化部
65	麻雀部	○		○		文化部
66	民間伝承研究会	○				文化部
67	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部
68	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部
69	モダンジャズ研究会(理工学部)			○		文化部
70	野外教育研究会	○				文化部
71	八木節同好会			○		文化部
72	野草を食べる会		○			文化部
73	夢のわたらせ なないろ号		○			文化部
74	落語・コント研究会	○		○		文化部
75	ラジオ同好会			○		文化部
76	B-STYLE	○		○		運動部
77	borderless	○				運動部
78	Et's		○			運動部
79	FAST BREAK	○				運動部
80	G☆バンビーズ(旧:夜間バスケ)			○		運動部
81	G.M.R(各種スポーツ)			○		運動部
82	Get's		○			運動部
83	ONE WAY	○				運動部
84	R. F. C	○	○	○	○	運動部
85	Rough	○		○		運動部
86	Seven Stars	○				運動部
87	TSUBASA. FCコーチングスタッフ	○				運動部
88	Vit'z		○			運動部
89	V. B. C. 桐生			○		運動部
90	アウィル	○		○		運動部
91	合気道部	○	○	○		運動部
92	アメリカンフットボール部	○				運動部
93	エスケープ	○				運動部
94	オリエンテーリング部	○				運動部
95	空手道部	○		○		運動部
96	環境プロセススポーツ同好会			○		運動部
97	弓道部	○		○		運動部
98	弓道部(医学科)		○			運動部
99	弓道部(保健学科)		○			運動部
100	クライミング部	△		○		運動部
101	群馬CRAFT	○				運動部
102	剣道部	○	○	○		運動部
103	剣道部(医学部)	○	○			運動部
104	硬式テニス部	○		○		運動部

平成27年度 クラブ・サークル一覧

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地区				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
105	硬式テニス部(医学部)		○			運動部
106	硬式野球部	○				運動部
107	ゴルフ部(医学部)		○			運動部
108	サイクリング部	○		○		運動部
109	サッカー部(全学)	○		○		運動部
110	サッカー部(医学部)		○			運動部
111	サバゲーサークル			○	○	運動部
112	自動車部	○	○	○	○	運動部
113	柔道部(荒牧)	○		○		運動部
114	柔道部(理工学)			○		運動部
115	準硬式野球部(荒牧)	○				運動部
116	準硬式野球部(医学部)	○	○			運動部
117	杖道部		○			運動部
118	少林寺拳法部	○		○		運動部
119	水泳部	○	○	○		運動部
120	スキー部(全学)	○	○	○	○	運動部
121	スキー部(医学部)		○			運動部
122	ソフトテニス部	○		○		運動部
123	ソフトテニス部(医学部)		○			運動部
124	体操部	○	○	○	○	運動部
125	大東流合気武術部	○				運動部
126	卓球部	○		○		運動部
127	卓球部(医学部)		○			運動部
128	ダンス部	○				運動部
129	バイク部			○		運動部
130	馬術部	○				運動部
131	バスケットボール部	○				運動部
132	バスケットボール部(医学部)		○			運動部
133	バスケットボール部(理工学部)			○		運動部
134	バドミントン部	○		○		運動部
135	バドミントン部(医学部)		○			運動部
136	バレーボール部(全学)	○				運動部
137	バレーボール部(医学科)		○			運動部
138	バレーボール部(保健学科)		○			運動部
139	ハンドボール部	○				運動部
140	フットサル部	△		○		運動部
141	フィールドホッケー部	○				運動部
142	フリースタイルバスケ・フットボールサークル	○	○	○	○	運動部
143	ボウリングサークル El Bolos		○			運動部
144	メモリアルテニス部	○				運動部
145	ラグビー部(全学)	○		○		運動部
146	ラグビー部(医学部)	○	○			運動部
147	陸上競技部	○		○		運動部
148	陸上競技部(医学部)	○	○			運動部
149	レスリング部	○				運動部
150	ワンダーフォーゲル部	○	○	○		運動部

平成27年度学部卒業生の進路状況（9月卒業を含む）

H27卒 平成28年5月1日現在

学 部 区 分	卒 業 年 度	卒 業 者 数 (A)	進 学 者 数				就 職 者 数										就 職 活 動 中	そ の 他 (D)	就 職 率 (E) E=C/(A+B-D) ×100				
			大 学 院 ・ 専 攻 科	他 大 学 学 部 等	研 究 生 等	各 種 専 修 学 校 等	留 学	計 (B)	教 員						医 療 機 関	一 般 企 業 等				公 務 員 等	自 営 業	法 左 欄 人 以 外 等 の	計 (C)
									幼	小	中	高	特 別 支 援	そ の 他									
教育学部	H27	219	26	0	0	5	0	31	3	73	36	14	12	0	1	21	14	0	4	178	0	10	100.0
	H27	126	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	86	16	0	6	108	1	14	99.1
医学部	H27	105	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	90	0	14	100.0
	H27	173	15	1	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	145	0	9	0	0	154	0	3	100.0
工学部・ 理工学部	H27	519	325	1	2	1	0	329	0	0	0	1	0	0	1	152	20	0	4	178	5	7	97.3
	H27	29	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	23	1	0	0	24	2	0	92.3
計	H27	1,171	373	2	2	6	0	383	3	73	36	15	12	0	237	282	60	0	14	732	8	48	98.9

① その他(D)欄は、留学生の帰国、各種試験準備者、家事従事、不明である。

平成27年度学部卒業生の就職先

青字は、県内就職先

【教育学部】

■教育

〈幼稚園〉

高崎市立倉賀野幼稚園 伊勢崎市立赤堀幼稚園 オイスカ幼稚園

〈小学校〉

群馬大学附属小学校 太田市 前橋市 伊勢崎市 高崎市 富岡市 館林市 藤岡市 桐生市 安中市
沼田市 玉村町 昭和町 大泉町 草津町 足利市 熊谷市 さいたま市 加須市 深谷市 上里町
水戸市 潮来市 行方市 東海村 坂城市 上田市 新上五島町 私立星野学園

〈中学校〉

群馬大学附属中学校 桐生市 前橋市 高崎市 藤岡市 太田市 渋川市 沼田市 富岡市 伊勢崎市
館林市 玉村町 神流町 千代田町 板倉町 榛東村 嬬恋村 茨城県 南部町(山梨)

〈特別支援学校〉

群馬県 埼玉県 茨城県 福井県

〈高等学校〉

群馬県 埼玉県 長崎県
私立共愛学園中学・高等学校 私立新島学園中学・高等学校 私立前橋育英高等学校 私立名鉄学園杜若高等学校

■公務

高崎市役所
みどり市役所
埼玉県警察
寄居町役場

伊勢崎市役所
渋川市役所
足利市役所

沼田市役所
千葉県庁
吉川市役所

■企業・法人等

(株)東和銀行
利根中央病院
河合塾マナビス(心水塾)
(株)みまつ食品
(株)トウシン
群馬大学
(株)NEWSエンターテインメント
(株)ゼンショーホールディングス
社会福祉法人バンビーニとよさと保育園

しののめ信用金庫
群馬日産(株)
コンピュータロン(株)
(株)おび工房
(株)ホシケン
一般社団法人群馬県薬剤師協会
ロングランプランニング(株)
とちぎ蔵の街美術館

群馬県農業信用基金協会
コージ アテリア ドウ ハレエ 前橋
森産業(株)
鈴木葬儀社
群馬ロイヤルホテル
(社)群馬チャリーディングチーム VERYS
(株)モンベル
(株)オリバー

【社会情報学部】

■公務

群馬県庁
太田市役所
栃木県庁
新座市役所
北区役所

前橋市役所
館林市役所
千葉県警察
加須市役所
御代田町役場(長野)

高崎市役所
沼田市役所
熊谷市役所
宇都宮市役所
国東市役所(大分)

■企業・法人等

(株)群馬銀行
日本銀行
農林中央金庫
大和証券(株)
(株)コンピュータロン
(有)富士薬局
太田物産(株)
(株)あすからいふ倶楽部
(株)ミタカ工房
富士機械(株)
(有)竹内園芸
JA新田みどり
前橋工科大学
りそなグループ
新潟労働金庫
(株)大塚商会
BBソフトサービス(株)
(独)情報処理推進機構
(株)セレモール
イオンリテール(株)
生活協同組合コープみらい
(株)ザイエンス
(株)青木重起
全日本空輸(株)
トーテックアメニティ(株)

(株)東和銀行
あかぎ信用金庫
中央労働金庫
群馬テレビ(株)
(株)ナブアシスト
(株)カインズ
東洋リネンサプライ(株)
(株)総合PR
藤田エンジニアリング(株)
(株)山岸製作所
群馬グランディハウス(株)
甘楽富岡農業協同組合
群馬大学
(株)東京海上日動調査サービス
(株)東邦銀行
(株)クエスト
エヌ・ティ・ティ・システム開発(株)
キャプラン(株)
特定非営利活動法人市民シアター・エフ
サントリーマーケティング&コマース(株)
佐藤(株)
フレックスジャパン(株)
保安商事(株)
(株)MAXISエデュケーション
高周波鋳造(株)

しなのめ信用金庫
JA共済連群馬
群馬県信用保証協会
(株)高崎共同計算センター
(株)ホリグチ
群馬トヨタ自動車(株)
ネクサス(株)
群馬弁護士会
(株)岡本工作機械製作所
カネコ種苗(株)
社会福祉法人すてっぷ
佐波伊勢崎農業協同組合
日本郵便(株)
(株)足利銀行
(株)荘内銀行
(株)ビジネスチャンス
(株)ラクサス
セコム(株)
(株)ビジネスコンサルタント
(株)日立ハイテクノロジーズ
富士通(株)
(株)マッシュ
(株)ワールドリゾートオペレーション
(株)ティーケーピー
(株)ARS

【医学部 医学科】

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院
群馬中央総合病院
前橋赤十字病院
太田記念病院
京都大学医学部附属病院
横浜市立大学附属病院
慶応義塾大学病院
総合病院国保旭中央病院
大阪赤十字病院
仙台医療センター
横浜南共済病院
済生会習志野病院
東京都立大塚病院
淀川キリスト教病院
東京医療センター

伊勢崎市民病院
高崎総合医療センター
藤岡総合病院
東京大学医学部附属病院
千葉大学医学部附属病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター
順天堂大学医学部附属病院
NTT東日本関東病院
国保松戸市立病院
埼玉メディカルセンター(埼玉社会保険病院)
湘南藤沢徳洲会病院
城南福祉医療協会大田病院
長野赤十字病院
相模原病院

桐生厚生総合病院
済生会前橋病院
館林厚生病院
東京医科歯科大学医学部附属病院
神戸大学医学部附属病院
自治医科大学附属病院
長野松代総合病院
亀田総合病院
仙台市立病院
さいたま赤十字病院
済生会川口総合病院
東京都立松沢病院
成田赤十字病院
多摩総合医療センター

【医学部 保健学科】

■公務

群馬県
利根沼田消防本部
山形県

前橋市
栃木県
さいたま市

渋川市
岩手県

■医療・福祉業

群馬大学医学部附属病院
前橋赤十字病院
桐生厚生総合病院
県立精神医療センター
善衆会病院
はんな・さわらび療育園
西群馬病院
高崎中央病院
美原記念病院
高崎・地域医療センター
東前橋整形外科
博仁会第一病院
筑波大学附属病院
日本医科大学附属病院
埼玉医科大学総合医療センター
獨協医科大学病院
関東労災病院
佐久総合病院
本庄総合病院
埼玉県厚生農業協同組合連合会
がん研有明病院
小諸厚生総合病院
聖路加国際病院
LSIメディエンス
高志リハビリテーション病院
済生会新潟第二病院
長野県立こども病院
佐渡市両津病院

群馬中央総合病院
伊勢崎市民病院
藤岡総合病院
県立小児医療センター
黒沢病院附属ヘルスパーククリニック
群馬整枝療護園
済生会前橋病院
真木病院
厩橋病院
高瀬クリニック
みどり病院
サンビエール病院
東京大学医学部附属病院
国立国際医療センター
慶應義塾大学病院
帝京大学医学部附属病院
東海大学医学部附属病院
昭和大学江東豊洲病院
国際親善総合病院
足利赤十字病院
医療生協さいたま
原宿リハビリテーション病院
虎ノ門病院
板橋中央病院
東京北医療センター病院
昭和メディカルサイエンス
宮城県対がん協会

前橋協立病院
イムス太田中央総合病院
富岡総合病院
県立心臓血管センター
日高病院
榛名荘病院
高崎総合医療センター
太田記念病院
鶴谷病院
館林厚生病院
わかば病院
しらかわ診療所
東北大学病院
山梨大学医学部附属病院
自治医科大学附属病院
順天堂大学医学部附属病院
杏林大学医学部附属病院
秋田病理組織細胞診研究センター
森の里病院
埼玉石心会病院
初台リハビリテーション病院
東京都立小児総合医療センター
PL東京健康管理センター
医療システム研究所
リハビリテーション花の舎病院
慈泉会相沢病院
新潟リハビリテーション病院

【工学部 応用化学・生物化学科】

■公務

埼玉県警察

小金井市役所

横浜市消防局

■企業・法人等

NSKニードルベアリング(株)
旭化成(株)
(株)両毛システムズ
三益半導体(株)
群馬セキスイハイム(株)
システムセイコー(株)
山ニガス(株)
(株)サイサン
花王カスタマーマーケティング(株)
東洋エアゾール工業(株)
東日本旅客鉄道(株)
IMSグループ板橋中央総合病院
東亜ディーケーケー(株)
京王製紙(株)
豊和繊維工業(株)

(株)山田製作所
(株)ニプロ医工
(株)山岸製作所
太陽誘電(株)
(株)セキチュー
小池化学(株)
エア・ウォーターゾル(株)
(株)メイトックフィルダーズ
(株)アルビオン
前澤化成工業(株)
(株)医療システム研究所
富士通エフ・アイ・ピー(株)
(株)ミマキエンジニアリング
イデシギョー(株)
田辺三菱製薬(株)

(株)柴田合成
(株)ジーシーシー
岡部工業(株)
(株)ヤマト
白十字(株)
(株)サティス製菓
ビーブラウン・エースクラップ(株)
相模ゴム工業(株)
(株)菱晃
日本プロセス(株)
(株)サンシャインシティ
日本サーモスタット(株)
(株)田子の月
RPP東プラ(株)
九州大学先端物質科学研究所

【工学部 機械システム工学科】

■公務

邑楽町役場

■企業・法人等

(株)アタゴ製作所
坂本工業(株)
太陽誘電(株)
(株)JALエンジニアリング
東日本旅客鉄道(株)
森永乳業(株)
(株)日産テクノ

(株)柳田鐵工所
しげる工業(株)
(株)共和電業
(株)テクノプロ・デザイン社
東亜工業(株)
新菱冷熱工業(株)
アイシン精機(株)

NSKニードルベアリング(株)
日本精密測器(株)
(株)ケーヒン
(株)メイトック
新光電子(株)
ポーラ化成工業(株)
会津オリンパス(株)

【工学部 環境プロセス工学科】

■公務

藤岡市役所

■企業・法人等

(株)ヤマト
旭化成(株)
サンデンホールディングス(株)
(株)アクセア
(株)和光
前澤化成工業(株)

クシダ工業(株)
厚木プラスチック(株)
山下ゴム(株)
(株)アウトソーシングテクノロジー
(株)メモリード
日本造船(株)

ホリー(株)
東洋硝子(株)
シチズン時計マニファクチャリング(株)
(一財)日本規格協会
関東化学(株)
(株)雪印種苗

【工学部 社会環境デザイン工学科】

■公務

群馬県庁
東京都庁
秋田県庁
本庄市役所

前橋市役所
栃木県庁
宇都宮市役所
南木曽町役場

伊勢崎市役所
静岡県庁
足利市役所

■企業・法人等

(株)ヤマト
五洋建設(株)
大林道路(株)
東日本高速道路(株)

東洋建設(株)
東鉄工業(株)
大和ハウス(株)
(株)建設技術研究所

東亜建設工業(株)
(株)ピーエス三菱
中日本建設コンサルタント(株)
(株)東日本総合計画

【工学部 電気電子工学科】

■企業・法人等

澤藤電機(株)
ボニー電機(株)
(株)第一テクノ
東京電力(株)
シャープ(株)
日本モーターボート競走会

(株)明電舎
(株)石井商事
富士通フロンテック(株)
(株)栄光
JUKI(株)

(株)小島鐵工所
日本電産エレシス(株)
(株)東光高岳
(株)日立産機システム
大宮製紙(株)
北海道電力(株)

【工学部 情報工学科】

■教育

藤岡工業高校

■公務

海上自衛隊

■企業・法人等

JA群馬電算センター
システムアルファ(株)
(株)東和銀行
(株)システナ
いであ(株)
(株)日本テクシード

(株)両毛システムズ
リード(株)
三菱インフォメーションシステムズ(株)
JRAシステムサービス(株)
マーベリック(株)
(株)アール

コンピュータロン(株)
アドテックス(株)
(株)キャンドウコンセプト
Sansan(株)
SBS情報システム(株)

【工学部 生産システム工学科】

〔昼間コース〕

■企業・法人等

洋泉興業(株)
(株)キーテクノロジー
三井精機工業(株)
(株)アルファ・ウェーブ
王子製鉄(株)
SMC(株)

シグマトロン(株)
ニプロ医工(株)
凸版印刷(株)
(株)テクノプロ・IT社
沖電気工業(株)
上田日本無線(株)

ミナミグリーンテニスクラブ(有)
(株)イチタン
(株)アウトソーシングテクノロジー
(株)振興テクノミスト
セイコークロック(株)
DPT(株)

〔夜間主コース〕

■公務

伊勢崎市役所

■企業・法人等

富士重工業(株)
サンデンホールディングス(株)
(株)日本産業制御ソリューションズ
凸版印刷(株)
(株)富士通アドバンストエンジニアリング
(有)山栄電子
カルソニックカンセイ(株)

藤田エンジニアリング(株)
(有)ハルカ設計
(株)東日本技術研究所
(株)沖データ
新潟原動機(株)
TPR(株)

矢島エンジニアリング(株)
(株)サンキテック
キャノンモールド(株)
(株)菱友システムズ
(株)ヒューマンウェイブ
ファナック(株)

3 学生受入センター

3.1 はじめに

学生受入センターは平成18年4月に発足された組織で、センターにはセンター長（教育・国際交流担当理事・副学長）と副センター長、兼任教員（各学部の入試又は広報担当委員会の委員長）がいる。センターの運営については、学生受入センター運営委員会が設置されている。また、下部組織として入試部会・広報部会を組織し各学部等から委員が選出されている。審議内容は、入学者選抜方法に係わる改善に関すること、学生募集に係る広報活動及び大学入試センター試験に関すること等（以下、「入試業務等」という）である。当該入試業務等の事務は、入学試験委員会と連携を図るほか、学生受入課が各学部の入試担当係と連携を図り業務を遂行している。平成27年度の主な入試業務等の事項は、次のとおりである。

3.2 オープンキャンパス

本学の教育研究及び学園生活の現状を、具体的に分かりやすく伝える場として、また、受験生の進路決定に資することを目的として全学のオープンキャンパス「群馬大学オープンキャンパス」と各学部が開催する「学部別オープンキャンパス」を実施し、群馬県内の全高等学校（99校）と全中学校（172校）、東北・関東・中部地方の平成25年度から27年度の入学試験において志願者のあった高等学校（893校）に案内した結果、延べ7,197名の参加者があった。

3.2.1 群馬大学オープンキャンパス

平成27年8月1日（土）～2日（日）に、荒牧キャンパスで主に高校1、2年生を対象とした群馬大学オープンキャンパスを開催した。1日目は医学部（医学科・保健学科）、2日目は教育学部・社会情報学部・理工学部を対象とした大学紹介・学部説明を行い、延べ3,098名の参加者があった。

なお、当日実施した参加者へのアンケート調査で回答者の88.5%から進路選択の役に立った旨の回答が得られたこと等から、本行事の意義を確認することができた。

3.2.2 学部等オープンキャンパス

群馬大学オープンキャンパスのほか、主に高校2、3年生を対象として、教育学部、社会情報学部、医学部医学科、医学部保健学科、理工学部がそれぞれオープンキャンパスを開催した。各学部とも、学部説明、在校生の体験発表、模擬授業等を行い、延べ4,099名の参加者があった。

3.3 学生募集に係わる広報活動

3.3.1 大学案内、大学紹介動画の作成

広報活動のためのツールとして、冊子体の大学案内を作成して、オープンキャンパスや出前説明会等において配付した。また、大学紹介動画を作成して、群馬大学公式チャンネルに掲載した。

3.3.2 出前説明会、出張模擬授業及び大学見学

出前説明会については、群馬県内の全高校等（99校）、東北・関東・中部地方の過去3年間で出願があった高校（893校）に案内し、学部等との日程調整を行い20の高等学校で実施した。

また、69の高等学校で模擬授業を実施し、大学見학을希望する39の高等学校が来学し、生

徒等に対し学部説明や構内を案内した。

その他、理工学部及び社会情報学部においては、高等学校を訪問して進路指導担当教諭等に学部説明を行った（理工学部73校、社会情報学部36校）。

3.3.3 進学相談会

受験者等との個別相談の機会を設けるため、関東地区の会場を重点的に、延べ78会場の進学相談会に参加（資料参加含む）し、延べ1,500名以上の受験生、保護者等に対し入試広報を行った。

3.3.4 ホームページ広報

本学ホームページを活用し、受験者等への情報発信を種々行っている。入学者選抜に関する要項や学生募集要項の発表、受験状況の公表のほか、平成25年度からは試験問題及び解答例・評価のポイント、群馬大学入学者選抜における受験上の配慮内容、次年度以降の入試の変更点を公表している。

また、大手の受験産業関連企業が運営する進学情報ウェブサイトに入試情報を掲載し、より広範な広報活動を行った。

3.3.5 高等学校等の教員を対象とした説明会

高等学校等の進路指導担当等の先生方に、「高等学校等の教員を対象とした入学試験に関する大学説明会」を開催した。群馬県内の全高等学校（99校）、東北、関東（群馬県を除く）、中部地方の平成25年度から平成27年度入学試験において志願者のあった高等学校893校に案内した結果、75校118名の教員が参加した。

3.4 広報戦略の立案

平成25年度に作成した本学の広報活動の基本方針である「群馬大学学生募集に係わる広報戦略」について改善事項をとりまとめた「群馬大学学生募集に係る広報の改善」を作成し、いわゆる2018年問題に向け、効率的かつ有効な広報を大学一丸となって行っていくことを確認した。

3.5 入学者の追跡調査

入試の状況、各種アンケート及び入学後の成績等、入学者の追跡調査結果については、平成27年12月に入学者選抜方法研究報告書を作成し、次年度以降の入試改革に役立てることとした。

3.6 その他

平成25年度に取りまとめた「群馬大学入学者選抜改善に関する検討課題」について、平成27年度の検討状況及び改善状況の更新を行った。

資料

- 資料1. 平成27年度入試広報について
- 資料2-1. 平成27年度群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数
- 資料2-2. 群馬大学オープンキャンパス各学部・各種説明会参加者報告書
- 資料3. 平成27年度群馬大学オープンキャンパス（8／1, 2）アンケート結果（抜粋）

資料 1

平成27年度入試広報について

1. 群馬大学オープンキャンパス

開催日	会場	主な対象者	主催
8月1日(土), 2日(日)	荒牧キャンパス	高校1, 2年生	学生受入センター

2. 各学部オープンキャンパス

開催日	イベント名	主な対象者	主催
7月18日(土)	社会情報学部オープンキャンパス	高校2, 3年生	社会情報学部
7月20日(月・海の日)	教育学部オープンキャンパス	高校2, 3年生	教育学部
7月25日(土)	理工学部オープンキャンパス	高校2, 3年生	理工学部
7月26日(日)	理工学部オープンキャンパス	高校2, 3年生	理工学部
7月28日(火)	医学部医学科オープンキャンパス	高校2, 3年生	医学科
8月7日(金)	医学部保健学科オープンキャンパス	高校2, 3年生	保健学科
9月13日(日)	理工学部オープンキャンパス	高校2, 3年生	理工学部

3. 高等学校等の教員を対象とした群馬大学説明会

開催日	会場・参加高等学校数・参加者数	主な対象者	主催
7月3日(金)	荒牧キャンパス・75校 118名	進路指導担当教諭等	学生受入センター

4. 出前説明会

開催日	訪問先高校	主な対象者	主催
4月～3月	前橋女子高校 外19校	高校生, 教諭	学生受入センター

5. 出張模擬授業

開催日	訪問先高校	主な対象者	主催
4月～3月	西尾東高校 外68校	高校生, 教諭	学生受入センター, 各学部

6. 進学相談会

開催日	会場	主な対象者	主催
4月～3月	グリーンドーム前橋 外77会場	高校生, 保護者, 教諭	学生受入センター

7. 高校訪問

訪問日	訪問先高校	主な対象者	主催
4月～3月	小山高校 外72校	進路指導教諭	理工学部
8月	須坂高校 外35校	進路指導教諭	社会情報学部

8. 群馬大学見学等

見学日	来学校	主な見学者	対応
4月～3月	岩村田高校 外38校	高校生, 教諭	学生受入センター, 各学部

平成27年度群馬大学及び学部別オープンキャンパス参加者数

(単位:人)

区 分	開 催 日	参 加 者		
		27年度	26年度	比較増△減
群馬大学 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	8月1日(土)	1,080	1,586	△ 506
	8月2日(日)	2,018	1,566	452
	小 計	3,098	3,152	△ 54
教育学部 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月20日(月)	709	748	△ 39
社会情報学部 オープンキャンパス (荒牧キャンパス)	7月18日(土)	306	301	5
医学部医学科 オープンキャンパス (昭和キャンパス)	7月28日(火)	350	324	26
医学部保健学科 オープンキャンパス (昭和キャンパス)	8月7日(金)	900	1,038	△ 138
理工学部 オープンキャンパス (桐生キャンパス)	7月25日(土)	630	829	△ 199
	7月26日(日)	775	785	△ 10
	9月13日(日)	429	441	△ 12
	小 計	1,834	2,055	△ 221
合 計		7,197	7,618	△ 421

群馬大学オープンキャンパス各学部・各種説明会参加者報告書

○ 8月1日(土)

①午前の部

(単位:人)

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
医学科説明会	午前	GB155	202	134	336
保健学科説明会	午前	教育学部C204	261	111	372
大学概要説明会	第1回	GA302	76	41	117
		GA308	76	38	114
	第2回	GA302, GA308※	100	67	167
女子高校生向け説明会	第1回	GB101	95	24	119
合 計			810	415	1225

② 午後の部

(単位:人)

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
医学科説明会	午後	GB155	59	31	90
保健学科説明会	午後	教育学部C204	66	27	93
大学概要説明会	第3回	GA302	21	18	39
		GA308	18	12	30
	第4回	GA302	30	32	62
女子高校生向け説明会	第2回	GB101	62	25	87
合 計			256	145	401

○ 8月2日(日)

①午前の部

(単位:人)

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
教育学部説明会	午前	GB155	481	149	630
社会情報学部説明会	午前	教育学部C201	118	102	220
理工学部説明会	午前	教育学部C204	200	54	254
大学概要説明会	第1回	GA302	98	51	149
		GA308	63	37	100
	第2回	GA302, GA308※	107	68	175
女子高校生向け説明会	第1回	GB101	83	32	115
合 計			1150	493	1643

② 午後の部

説明会	区分	教室名	生徒	保護者等	計
教育学部説明会	午後	GB155	121	39	160
社会情報学部説明会	午後	教育学部C201	63	34	97
理工学部説明会	午後	教育学部C204	57	14	71
大学概要説明会	第3回	GA302	49	32	81
		GA308	43	27	70
	第4回	GA302, GA308※	68	43	111
女子高校生向け説明会	第2回	GB101	77	37	114
合 計			478	226	704

<備考> ※印は、当初予定の会場(GA302)が満席になり、会場(GA308)を追加して実施。

資料3

平成27年度群馬大学オープンキャンパス（8/1，2）アンケート結果（抜粋）

1. 参加状況

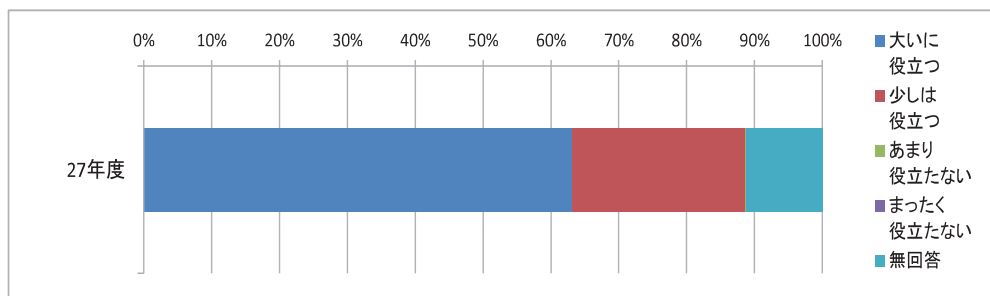
説明会別申込者数，参加者数及び参加率

	各種説明会（延べ人数）							総数 （実人数）
	医学科	保健学科	理工学部	教育学部	社会情報学部	大学概要	女子高生向け	
申込者数(A)	335	318	273	657	264	1,107	390	3,959
参加者数(B)	426	465	325	790	317	1,215	435	3,098
参加率(%) (B/A*100)	127.2	146.2	119.0	120.2	120.1	109.8	111.5	78.3

2. オープンキャンパス参加者の感想等

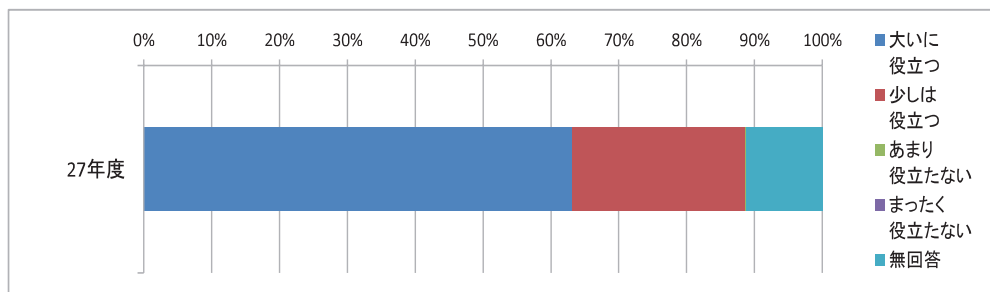
（1）参加した説明会等は進路選択の役に立ちますか

回答項目 年 度	大いに 役立つ	少しは 役立つ	あまり 役立たない	まったく 役立たない	無回答
27年度	265	106	1	0	47



（2）配付した資料は進路選択の役に立ちますか

回答項目 年 度	大いに 役立つ	少しは 役立つ	あまり 役立たない	まったく 役立たない	無回答
27年度	303	96	1	0	19



4 健康支援総合センター

4.1 はじめに

健康支援総合センター（以降「センター」と表記）は、学生ならびに教職員の心身の健康の保持増進を図るため、学生健康診断やその事後措置としての助言・指導、健康に関する相談対応、感染症の流行情報の把握と予防教育活動、及び健康に関連した調査や研究を行っている。

センターの最近の活動は、第1期、2期中期計画に従い、着実に拡充を行ってきた。配置されている医療職は不足したままであるが、大学を取り巻く環境が変化していく中で、業務内容の拡充が進められている。具体的な内容に関しては、第2期中期計画として引き継がれ進行中であるが、さらに時代の変化に基づく要請に応じ、以下の方針について確認を行った。

教職員のメンタルヘルス対策を含む健康管理（平成27年度12月施行 改正労働安全衛生法：ストレスチェック制度）

学内の円滑な連携に基づく学生のメンタルヘルス支援拡充

障害学生支援室との協力強化（平成28年度4月施行 障害者差別解消法への準備）

学外の医療・教育関係機関との連携による地域貢献活動の充実

4.2 平成27年度実施事業

4.2.1 学生定期健康診断の実施

平成27年度の学生定期健康診断は、資料1に示す日程で実施した。

健診当日は、医学部附属病院の派遣協力による医師延べ28名（桐生地区派遣医師を含む）、学外機関からの派遣協力による看護師延べ35名体制で滞りなく実施した。

受検状況は、資料2に示すとおりである。学部学生の受検率は前橋地区全体で93.6%（数値は「血圧測定・尿検査・内科診察」を示す。以下同様）、桐生地区では全体で90.3%と、全国平均と比較しても良好な結果であった。

学部別では教育学部97.5%，社会情報学部89.0%，医学部医学科86.2%，医学部保健学科90.8%，理工学部1年97.7%，理工学部・工学部昼間2年以上90.8%，工学部夜間主67.6%の受検率となった。

1年生に関しては、教育学部100%，社会情報学部99.1%，医学部医学科99.0%，医学部保健学科100%，理工学部97.7%と例年と同様、ほぼ全員が受検した。

資料3は、各検査結果について示したものである。要精検者については、医療機関への紹介状を作成し、円滑な受診につなげている。

4.2.2 精神保健調査の実施

各学部新入生、大学院新入生（医学系研究科生、保健学研究科生、理工学府生を除く）、特別支援教育特別専攻科新入生及び編入生を対象に、「新入生版メンタルヘルス質問票」、また、その他の学生（在校生）を対象に「在校生版メンタルヘルス質問票」を用いた精神保健調査（スクリーニング検査）を行い、要面接者に対して、センター医師2名と非常勤臨床心理士及び附属病院精神科医師10名により、診断的面接を実施した。

方法は、メンタルヘルス質問票（新入生版73項目、在校生版22項目）を用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴、発達障害支援希望についても調べ、面接の要否を判定した。

結果については資料4のとおりであった。

要面接者は、新入生については3.5%で昨年度と同じ、在校生においては2.1%から2.7%と僅かながら増加を認めた。

年度により若干の差はあるが、メンタルヘルス不調の中核群の抽出は堅持されていると考えられ、早期診断やその後の支援に向けたフォローにおいても効果的に機能している調査であると考えられる。

4.2.3 学生特殊健康診断の実施

特殊健康診断の受診対象者は、「常時使用する労働者」であり、教職員、非常勤職員であるが、学生も実習や実験研究を通じて、教員等と同様の環境下にあることから特殊健康診断の対象とすることが必要であると考えられる。このことから、平成26年度より「特殊健康診断を受診している教員の研究室に配属している工学部4年生及び理工学府生、工学研究科生」、「作業環境測定結果が、第二及び第三管理区域であった研究室に配属している工学部4年生及び理工学府生、工学研究科生」を対象に同健康診断を実施している。

結果については、受診者252名中、異常なし230名、要経過観察者5名、要精密検査者は17名であった。要精密検査の学生には、医療機関を受診し必要な検査を受けるよう個別指導を行った。

4.2.4 外国人留学生健康診断の実施

外国人留学生の特別健康診断を毎年11月頃に行っているが、平成21年度からは感染性肺結核症の有無を検査するクォンティフェロンTBゴールド検査を実施している。平成27年度の受検率及び検査結果を資料5に示す。

陽性者については、医療機関を紹介し、擬陽性者に対しては、4月に胸部レントゲン検査を受けて異常がない場合は毎年必ず胸部レントゲン検査を受けるように指導し、それ以外の者は医療機関を紹介している。

4.3 健康支援総合センター利用状況

4.3.1 利用人数及び件数

所属学部別センター利用件数は、1,449名（年間延べ人数）であった。結果については、資料6に示す。

からだの健康相談、こころの健康相談、健康診断書の発行についての各件数を月別に集計した結果を資料7に示す。

健康診断書については、そのほとんどが自動発行のシステムを利用して発行されている。別に、124件の手入力が必要なものに関してはセンターで受け付けて発行した。

4.3.2 健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告

健康相談を「からだの健康相談」と「こころの健康相談」に分けて月別に集計した結果を資料8に示す。大学病院勤務の産婦人科医による「レディースクリニック」を月1回開催しており、利用数については、資料のとおりである。救急車やタクシーによる救急転送は1件であった。

さらに、こころの健康相談者数とその内容については資料9に示す。また、全4キャンパスでの臨床心理士による月別カウンセリング利用者数及び動機内訳を資料10に示した。カウンセリングの開設時間は、荒牧では週14時間、昭和では週8時間、桐生では週12時間、太田では隔週3時間となっている。なお、教職員に対するカウンセリングは、27回（年間）行われた。

上記の数には含まれていないが、学生本人だけではなく、家族や担当教員との面談や電話・メール相談も多数実施した。今後とも、こころの健康相談者数は増加することが予測され、

センター医師や臨床心理士が対応する相談やカウンセリングに要する時間の増加は避けられないと判断される。

4.3.3 疾病領域別利用者数

疾患領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料11に示す。メンタル系症状に関連するもの、呼吸器系症状に関連するものが圧倒的に多数を占めた。

呼吸器系症状のほとんどが、流行性の感冒によるものと判断され、必要に応じ、適切な医療機関の選定と紹介を行った。

メンタル系症状については、前年(483名)から増加しており、カウンセラーによる心理相談、専門科での診療の必要性が疑われる場合については、コンサルテーションを受けたセンター精神科医が二次的に面接を行い、早期の医療機関受診及び治療開始に至った事例も多く見られた。

4.3.4 診療科別医療機関紹介件数

センターから他の医療機関への紹介件数を資料12に示す。延べ学生118件、職員9件の紹介を行った。

4.3.5 薬剤別処方日数

健康支援総合センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計し、資料13に示す。合計1,125日分を処方した。内訳については、解熱・消炎・鎮痛剤、総合感冒薬の処方が多かった。

4.3.6 キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動

キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動については、平成22年6月から桐生地区で導入されていたが、平成27年4月から荒牧地区にも配置され、支援が開始された。荒牧地区では月1回3時間の業務を行ったが、昭和地区の学生についても教員からの要請に従い、支援を開始した。平成27年度は桐生地区17名、荒牧地区5名、昭和地区1名の計23名の学生への対応の要請があった。依頼した教員からは良好な評価を得られており、事例から得られた経験を蓄積することで、更なる機能の向上をめざす。

4.4 教育関連活動

前年度に引き続き、センターの医師は、教員として教養教育の講義を担当している。新入生を対象とした教養基盤科目のスポーツ・健康「健康教育」について、傷病対策及び精神の健康として、それぞれ90分の講義を5回（同一内容）行った。

内科医からは「からだからのサインに気づく」と題して大学生に必要となる傷病対策についての講義を行い、精神科医からは「精神の健康」をテーマに発達障害を含めたメンタルヘルス不調全般について講義を行った。

また別に、精神科医は、3月には学務部主催の第32回クラブ・サークルリーダーシップ研修会において、「飲酒とタバコ 健康に関するルールとマナー」と題して60分間の講演を行った。更に、医学部非常勤講師として医学科3年生臨床行動科学講義「心の健康を保つには」及び公衆衛生学の実地見学（群馬産業保健総合支援センター）の講義を行った。

新入生に関しては、入学後のアルコールに関するトラブルを未然に防ぐ目的で、新たに入学時オリエンテーションの際にパッチテストを用いたアルコール感受性についての講習を行った。

4.5 健康管理に関する調査研究活動

平成25-27年度文部科学省科研費

「学校現場の日常的活動の中で実施できる児童生徒の自殺予防プログラムの開発と応用」
(課題番号25350837基盤研究 (C) 研究代表者 竹内一夫)

4.6 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の会議を主催した。

平成27年度健康支援総合センター運営委員会

2) 平成27年度群馬県内大学等メンタルヘルス研究会「発達障害圏学生の就職・卒後の支援について」(講師 稲岡隆之 群馬県発達障害者支援センター所長)(平成28年1月20日)

3) 群馬県内大学等保健管理担当者会議(9月16日, 平成28年1月20日)

群馬県内の大学, 短期大学, 高等専門学校の保健管理担当実務者及び事務担当者の出席により開催した。会議内容は, 研究集会の報告, 講義, 「健康ミニガイド」の作成, 情報交換などである。

4.7 健康支援総合センターの全国会議等出席

下記の全国会議等に健康支援総合センターの教職員が出席し, 最新の情報の収集を行い, センターの機能強化に役立った。さらに関係大学との情報交換を行い, 連携を深めた。

1) 第5回 全国大学保健管理協会総会: 京都(6月12日)

副センター長が出席

第53回 全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会: 東京(7月30, 31日)

副センター長, 講師, 看護師が出席

3) 第53回 全国大学保健管理研究集会: 盛岡(9月9, 10日)

副センター長, 看護師が出席

4) 平成27年度 国立大学法人保健管理施設協議会総会: 盛岡(9月11日)

副センター長がセンター長の代理で出席

5) 第37回全国大学メンタルヘルス研究会: 福岡(12月10, 11日)

副センター長が出席

6) 第18回フィジカルヘルスフォーラム: 金沢(平成28年3月17, 18日)

副センター長が出席

4.8 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

教育学部体育大会

社会情報学部スポーツ大会

オープンキャンパス

荒牧祭

教育学部, 社会情報学部推薦入学試験

関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験

大学入試センター試験

個別学力検査(前期, 後期)

学位記授与式

4.9 出版・広報活動

平成27年度は下記の出版，広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド2015 ～よりよいキャンパスライフを送るために～」を発行した。
先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が健康についての意識や知識を高めてもらうことを目的に共同で作成した冊子であり，新入生全員に（1,243部）配布した。
- 2) 「群馬大学 大学教育・学生支援機構報告書 健康支援総合センター」の平成26年度
の原稿を作成して提出した。
- 3) 学生全員に健康支援総合センター案内と自己管理用の携帯用カードを作成し配布した。
- 4) 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」出演（副センター長）
8月21日（金）「いよいよやって来るストレスチェック制度」
- 5) 共著「シンプル衛生・公衆衛生学 2015」（南江堂），2015年，東京
- 6) 共著「柔道整復 衛生・公衆衛生学（改訂第6版）」（南江堂），2015年，東京

4.10 社会貢献活動

センターの医師は，専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。

精神科医（副センター長）

各種外部委員，嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

平成27年度 群馬産業保健総合支援センター相談員

平成27年度 群馬県立健康科学大学非常勤講師

平成27年度 群馬大学医学部非常勤講師（公衆衛生学，精神医学）

平成27年度 群馬地方労働審議会委員

平成27年度 第2回前橋オクトーバーフェスト実行委員会顧問，など

そのほか医師会，看護協会，労働基準協会連合会，私学振興会，高校などの要請に応じて，各種講演や講義を行った。

内科医

嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

平成27年度 渋川看護専門学校非常勤講師

平成27年度 高崎市乳幼児健診事業 内科診察

4.11 産業保健活動

産業保健活動に関しては人事労務課が統括しているが，平成25年度途中から荒牧・上沖・若宮地区に関しては健康支援総合センター医師2名（内科，精神科）が兼務する体制をとっている。昭和地区は医学部専任教員である医師1名が兼務しており，桐生・太田地区は桐生市医師会医師に依頼している。平成27年度はこれらの産業医の意見を集約するための産業医部会が発足した。

4.11.1 安全衛生委員会

荒牧事業場：内科医が出席し，職場巡視報告を行った（1回／月：8月を除く）

若宮事業場：副センター長が2回出席した。（含・職場巡視）

上沖事業場：副センター長が年1回出席した。（含・職場巡視）

4.11.2 産業医部会

テレビ会議システムを活用した会議を年数回開催した。主に、平成27年12月施行・改正労働安全衛生法の中のストレスチェック制度の実施に向けた議論が行われ、それを基に、平成28年3月に安全衛生管理推進会議で、本学のストレスチェック制度の実施要項が決定された。

4.11.3 職員の定期健康診断

人事労務課からの依頼を受け、若宮事業場及び上沖事業場の職場健診における内科診察を行った。

全事業場に勤務する教職員の健診結果の判定及び個別結果の事後措置についてはセンター内科医が対応した。

4.12 健康支援総合センターの現状及び今後の方向性

学生のメンタルヘルス不調、特に発達障害が疑われる学生への対応の要請が増えており、修学が困難になるケースも多く、きめ細かい支援が必要なケースが認められた。障害学生サポートルームのスタッフとの連携を深め、ケースについて検討を実施する体制を充実させた。また、これらの学生の就職についても積極的な支援を開始することにした。特に桐生地区の学生への支援を強化した。本人はもちろん支援に関わる職員や教員と密に連絡を取り合い情報を共有するシステム作りに取り組んできたが、キャンパス間でのスムーズな対応も含めての機能向上に向けた体制作りが急務である。

また、人事労務課と協力し、学内産業医部会を正式に発足させ、教職員の健康管理や新設されたストレスチェック制度に関する検討を実施した。

本来業務以外では、荒牧地区における医学部1年生へのB型肝炎ワクチン接種や教職員へのインフルエンザワクチン接種（任意）への依頼に関して、関係機関と連携を取り、協力の際の実施体制や安全管理体制について明確化した。

4.13 健康支援総合センター資料集

資料1：平成27年度	前橋地区学生定期健康診断日程表
平成27年度	桐生・太田地区学生定期健康診断日程表
資料2：平成27年度	学生定期健康診断受検状況（前橋地区）
平成27年度	学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）
資料3：平成27年度	学生定期健康診断結果
資料4：平成27年度	精神保健調査結果
資料5：平成27年度	外国人留学生健康診断結果
資料6：平成27年度	利用人数
資料7：平成27年度	利用件数
資料8：平成27年度	健康相談の対応内容
資料9：平成27年度	こころの健康相談者数
資料10：平成27年度	臨床心理士によるカウンセリング報告
資料11：平成27年度	疾病領域別利用者数
資料12：平成27年度	診療科別医療機関紹介件数
資料13：平成27年度	薬剤別処方日数

平成27年度 前橋地区学生定期健康診断日程表

時間	受付	午 前		午 後		対象数(概数) 3,850名
		9:00～10:15 (75分)	10:15～11:30 (75分)	13:00～14:15 (75分)	14:15～16:00 (105分)	
4. 1 (水) ※全学 オリエンテー ション	医学部(医学科・保健学科)4年		社会情報学部2年	社会情報学部3年	午前775名 午後405名	
	医学部医学科5年					
	大学院(医学系, 保健学)2～4年		社会情報学部4年		合計1,175名	
	医学部医学科6年					
4. 2(木)	医学部保健学科1年 (検査・理学・作業) 【ワクチン接種用採血あり】	医学部保健学科1年 (看護) 【ワクチン接種用採血あり】	医学部医学科1年 【ワクチン接種用採血あり】		午前440名 午後270名＋ α	
	医学部医学科2年次編入生 【ワクチン接種用採血あり】		社会情報学部1年			
	医学部保健学科3年次編入生 【ワクチン接種用採血あり】		社会情報学部3年次編入生		合計710名＋ α	
	大学院(医学系, 保健学)1年		大学院(社会情報学)1～2年			
	医学部医学科2年		予備日			
4. 3(金)	理 工 学 部 1 年					午前200名＋ α 午後320名
	(機械知能システム)	(環境創生)	(化学・生物化学)	(電子情報)		
	(総合理工)		(総合理工)		合計520名＋ α	
4. 6(月) ※学部別 オリエンテー ション	教 育 学 部 1 年		医学部医学科3年	医学部保健学科2年 (看護)	午前405名 午後350名	
	(国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)	(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)				
	特別支援教育特別専攻科		医学部保健学科3年 (検査・理学・作業)	医学部保健学科3年 (看護)	合計755名	
	大学院(教育学)1～2年					
4. 7(火) ※入学式	医学部保健学科2年 (検査)	医学部保健学科2年 (理学・作業)	教 育 学 部 3 年		午前360名 午後330名	
	教 育 学 部 2 年		教 育 学 部 4 年			
	(国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)	(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)	(国語・社会・英語・ 数学・理科・技術)	(音楽・美術・家政・ 保健体育・教育・ 教育心理・障害児教育)	合計690名	

※ 健康診断項目: 既往歴. 身体計測. 血圧測定. 検尿. 胸部X線撮影. 内科診察. アンケート

※ 健康診断会場: 健康支援総合センター

- 1) 原則として割り当てられた日程で健康診断を受けてください。都合の悪い方は、予備日を利用して受けてください。
- 2) 健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。
- 3) 学部第1年生の健康診断日程については、当該年度の教養教育授業時間割により、同一健康診断日の範囲内で変更する場合があります。
- 4) 1年生の学籍番号は、全学オリエンテーションのときに書面で配付します。追加合格のある講座等については検討します
- 5) 理工学部総合理工学科(フレックス制)1年生で、夜間開講科目を履修する学生は、桐生キャンパスで実施する健康診断を受けることも出来ます。

平成27年度 桐生・太田地区学生定期健康診断日程表

キャンパス	検査項目	実施日	時 間	対 象	対象数(概数) 2, 570人
桐 生 キ ャ ン パ ス	胸部 X 線 撮 影 ・ 検 尿	4／14(火)	9:00～11:30 13:00～16:00	昼間学生	2, 390人
		4／15(水)		大学院生	
		4／16(木)		総合理工学科(夜間開講 科目履修学生)	
	内科診察・計測	4／21(火)	13:00～17:00	昼間学生	
		4／22(水)		大学院生	
		4／23(木)		総合理工学科(夜間開講 科目履修学生)	
		4／24(金)			
	太 田 キ ャ ン パ ス	全項目	5／13(水)	13:30～15:00	
			18:15～19:30	夜間主学生	

- ・クラスごとの実施割振りは、平成27年度前期授業時間割表により決定する。
- ・授業の空き時間を活用し、全ての実施時間が授業と重なった場合は休講措置とする。

<健康診断項目>

4月14日～16日 胸部X線撮影・検尿・アンケート

4月21日～24日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察

5月13日 胸部X線撮影・検尿・既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察・アンケート

平成27年度 学生定期健康診断受検状況（前橋地区）

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率
学 部 合 計	3,322	3,108	93.6%	3,106	93.5%
大 学 院 等 の 合 計	564	204	36.2%	201	35.6%
合 計	3,886	3,312	85.2%	3,307	85.1%

対象者数は平成27年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入

上記の他に、教育学部研究生2名・特別聴講学生10名，社会情報学部研究生5名・特別聴講学生5名，医学部研究生3名が受検した。

<学部学生>

			対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
				受検者数	受検率	受検者数	受検率
教 育 学 部	1年		229	229	100%	229	100%
	2年		225	219	97.3%	218	96.9%
	3年		229	227	99.1%	226	98.7%
	4年		237	222	93.7%	222	93.7%
	合計		920	897	97.5%	895	97.3%
社 会 情 報 学 部	1年		106	105	99.1%	105	99.1%
	2年		106	94	88.7%	94	88.7%
	3年		119	102	85.7%	102	85.7%
	4年		142	120	84.5%	120	84.5%
	合計		473	421	89.0%	421	89.0%
医 学 部	医学科	1年	113	112	99%	112	99%
		2年	133	124	93.2%	124	93.2%
		3年	115	85	73.9%	85	73.9%
		4年	127	94	74.0%	94	74.0%
		5年	118	107	90.7%	107	90.7%
		6年	106	92	86.8%	92	86.8%
		合計	712	614	86.2%	614	86.2%
	保健学科	1年	160	160	100%	160	100%
		2年	159	155	97%	155	97%
		3年	165	153	92.7%	153	92.7%
		4年	176	164	93.2%	164	93.2%
		合計	660	632	95.8%	632	95.8%
	合 計		1,372	1,246	90.8%	1,246	90.8%
理 工 学 部		1年	557	544	97.7%	544	97.7%
学 部 合 計			3,322	3,108	93.6%	3,106	93.5%

<大学院学生>

			対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影		
				受検者数	受検率	受検者数	受検率	
教育 学 研 究 科	修士課程	1年	28	26	92.9%	26	92.9%	
		2年	30	26	86.7%	26	86.7%	
	専門職学位課程	1年	17	14	82.4%	13	76.5%	
		2年	14	2	14.3%	2	14.3%	
教育学部特別支援教育特別専攻科			11	10	91%	9	82%	
合 計			100	78	78.0%	76	76.0%	
社会情報学研究科	修士課程	1年	9	7	77.8%	7	77.8%	
		2年	18	7	38.9%	7	38.9%	
	合 計		27	14	51.9%	14	51.9%	
医学研究科	医科学専攻	修士課程	1年	11	11	100%	11	100%
			2年	11	10	90.9%	10	90.9%
		博士課程	1年	63	23	36.5%	23	36.5%
			2年	64	14	21.9%	14	21.9%
			3年	57	6	10.5%	6	10.5%
			4年	95	9	9.5%	9	9.5%
		合 計		301	73	24.3%	73	24.3%
	保健学専攻	博士前期課程	1年	49	24	49.0%	24	49.0%
			2年	39	11	28.2%	11	28.2%
		博士後期課程	1年	10	1	10.0%	1	10.0%
			2年	11	2	18.2%	2	18.2%
			3年	27	0	0.0%	0	0.0%
		合 計		136	38	27.9%	38	27.9%
合 計		437	111	25.4%	111	25.4%		
大学 院 等 の 合 計			564	203	36.0%	201	35.6%	

平成27年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）

区 分			対象者数	内科診察・計測		胸部X線撮影・検尿	
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
理工学部・工学部	昼 間	2年	558	521	93.4	530	95.0
		3年	605	514	85.0	527	87.1
		4年	532	504	94.7	499	93.8
		昼間計	1,695	1,539	90.8	1,556	91.8
	夜間	4年	37	25	67.6	25	67.6
	学部合計		1,732	1,564	90.3	1,581	91.3
理工学府・工学研究科	修 士	1年	322	305	94.7	308	95.7
		2年	329	313	95.1	314	95.4
		修士計	651	618	94.9	622	95.5
	博 士	1年	27	14	51.9	14	51.9
		2年	20	13	65.0	14	70.0
		3年	37	18	48.6	19	51.4
		博士計	84	45	53.6	47	56.0
	大学院合計		735	663	90.2	669	91.0
合 計		2,467	2,227	90.3	2,250	91.2	

※対象者数は4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は小数点第二位を四捨五入

※対象者数は4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は小数点第二位を四捨五入

平成27年度 学生定期健康診断結果

(1) 身体測定

	受検者数	結 果							
		やせ		正 常		肥 満			
		BMI 18.6未満		BMI 18.6～24.9		BMI 25.0～29.9		BMI 30.0以上	
		人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
教 育 学 部	975	109	11.2%	768	78.8%	81	8.3%	17	1.7%
社会情報学部	435	83	19.1%	300	69.0%	37	8.5%	15	3.4%
医 学 部	1,357	169	12.5%	1,067	78.6%	104	7.7%	17	1.3%
理 工 学 部	544	99	18.2%	376	69.1%	57	10.5%	12	2.2%
合 計	3,311	460	13.9%	2,511	75.8%	279	8.4%	61	1.8%

(2) 血圧測定

1) 一次検査

	受検者数	結 果					
		正常血圧		高血圧疑い		低血圧症	
		人 数	%	人 数	%	人 数	%
教 育 学 部	975	960	98.5%	12	1.2%	3	0.3%
社会情報学部	435	429	98.6%	6	1.4%	0	0.0%
医 学 部	1,357	1,335	98.4%	20	1.5%	2	0.1%
理 工 学 部	544	538	98.9%	3	0.6%	3	0.6%
合 計	3,311	3,262	98.5%	41	1.2%	8	0.2%

2) 二次検査

	対象者数	結 果			
		正常血圧	経過観察	要精査	未受検
教 育 学 部	12	11	1	0	0
社会情報学部	6	6	0	0	0
医 学 部	20	19	0	0	1
理 工 学 部	3	2	1	0	0
合 計	41	38	2	0	1

(3) 尿検査

1) 一次検査

	受検者数	結 果		陽 性 項 目 内 訳			
		陽性者数	%	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖
教 育 学 部	975	12	1.2%	1	3	0	8
社会情報学部	435	5	1.1%	2	3	0	0
医 学 部	1,357	18	1.3%	2	12	0	4
理 工 学 部	544	7	1.3%	1	5	0	1
合 計	3,311	42	1.3%	6	23	0	13

2) 二次検査

	対象者数	結 果						医 療 機 関 紹 介 結 果				
		異常なし	蛋白陽性	潜血陽性	蛋白・潜血陽性	糖陽性	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし	備 考
教 育 学 部	12	8	0	2	0	1	1	1	2	0	0	腎性糖尿 1 名
社会情報学部	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医 学 部	18	13	0	4	0	1	0	1	2	0	2	腎性糖尿 1 名
理 工 学 部	7	4	0	3	0	0	0	0	3	0	0	
合 計	42	30	0	9	0	2	1	2	7	0	2	

(4) 胸部X線間接撮影検査

	受検者数	要 精 検		医療機関紹介結果			備 考
				異常なし	経過観察	要治療	
		人 数	%				
教 育 学 部	971	0	0.0%	0	0	0	
社会情報学部	435	1	0.2%	0	1	0	
医 学 部	1,357	0	0.0%	0	0	0	
理 工 学 部	544	0	0.0%	0	0	0	
合 計	3,307	1	0.0%	0	1	0	

(5) 内科診察

	受検者数	要 精 検						医 療 機 関 紹 介 結 果			
		心雑音		貧血（眼瞼結膜所見）		甲状腺腫		異常なし	経過観察	要治療	備 考
		人 数	%	人 数	%	人 数	%				
教 育 学 部	975	2	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	2	0	1	鉄欠乏性貧血1名
社会情報学部	435	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	
医 学 部	1,357	4	0.3%	1	0.1%	1	0.1%	4	1	1	心房中隔欠損症1名
理 工 学 部	544	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0	0	
合 計	3,311	8	0.2%	2	0.1%	1	0.0%	8	1	2	

(6) 健康支援総合センターでの精密検査

	受検者数	結 果		
		異常なし	要教育者	要治療
血糖・脂質測定	18	11	5	2
糖 負 荷 試 験	2	2	0	0
合 計	20	13	5	2

異常なし：異常な理学的所見はあるが、精密検査の結果、放置してもよい病態と診断された者
要教育者：治療を直ちに行う程ではないが、センターで健康教育および定期的な医療機関での観察を要すると診断された者。
要 治 療：医療機関での治療が必要と判断された者

平成27年度 精神保健調査結果

(1) 新入生の精神保健調査

新入生の精神保健調査は、入学時提出のメンタルヘルス質問票(新入生版)を基に要面接者を抽出し、健康支援総合センター副センター長兼教授(精神科医)・内科医、学外臨床心理士、附属病院精神科医師(延べ10名)との面接をすすめた。
対象学生は各学部入学生の同質問票提出者とし、大学院入学生(医学部・理工学部を除く)、特別支援教育特別専攻科、編入生(社会情報学部・医学部・理工学部)を含めた。

	対象学生数	要 面 接		面接を うけた 学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中
教 育 学 部	275	10	3.6%	8	3	4	1	0	0
社会情報学部	133	9	6.8%	7	4	1	2	0	0
医 学 部	285	4	1.4%	4	3	1	0	0	0
理 工 学 部	557	21	3.8%	17	8	8	1	0	0
合 計	1,250	44	3.5%	36	18	14	4	0	0

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:37名(3.0%)

要 面 接			
H26		H25	
人数	%	人数	%
12	4.4%	10	3.5%
3	2.2%	3	2.2%
4	1.4%	6	2.1%
25(1)	4.4%	19	3.4%
44(1)	3.5%	38	3.0%

(2) 在校生の精神保健調査

本調査は、健康診断時に在校生版メンタルヘルス質問票に記入してもらい、要面接学生を抽出し、健康支援総合センター副センター長兼教授(精神科医)・内科医、学外臨床心理士が面接を行った。対象学生は健康診断時に在校生版メンタルヘルス質問票を提出した学生とした。

	対象学生数	要面接		面接を うけた 学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談 を推奨	カウンセリング 継 続	医療機関 紹介	通院中
教 育 学 部	633	31	4.9%	25	13	5	4	3	0
社会情報学部	285	5	1.8%	4	2	1	0	0	1
医 学 部	981	15	1.5%	15	5	5	2	2	1
理 工 学 部	2,117	57(5)	2.7%	25	3	7	11	1	3
合 計	4,016	108(5)	2.7%	69	23	18	17	6	5

注：() は、通院中またはカウンセリング中にて、面接除外を希望した学生数で内数

※過去1年間に精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:79名(2.0%)

要 面 接			
H26		H25	
人数	%	人数	%
11	1.7%	16(1)	2.3%
7	2.2%	13	4.0%
18(1)	1.9%	12(1)	1.1%
50(3)	2.3%	45(5)	2.1%
86(4)	2.1%	86(7)	2.0%

(3) 追記:

質問内容

平成25年度より簡素化された新入生33項目、在校生19項目を用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴等をスクリーニングした。

結果の分析

対象学生数は新入生(1,250名:前年1,254名)、在校生(4,016名:前年4,096)、ともに若干減少していた。要面接学生(スクリーニング陽性者)の割合は、新入生は昨年度と同じ3.5%(44名)であったが、在校生は2.1%(86名)から2.7%(108名)とやや増加していた。学部別では、昨年度に比べ新入生では社会情報学部で増加しており、在校生では教育学部で増加、社会情報学部で減少していた。実際に面接を受けた新入生は21名から36名、在校生は40名から69名と増加していた。ともにスクリーニング陽性者で面接の希望者が増加している。面接結果について、新入生においては「問題なし」とされた割合は昨年と同様に半分であったが、「カウンセリング継続(新規)」および「随時相談」は増えていた。在校生では「問題なし」とされた割合が増えている一方で「医療機関紹介」「通院中」の割合も増えていた。新入生についてはカウンセリング業務の拡充が、在校生についても医療機関と併行しての支援拡充の必要性が認められた。

面接実施状況について

面接施行にあたって、精神科医である副センター長兼教授が桐生キャンパスに2.5日、太田キャンパスに0.5日赴いた(それぞれ21名、2名;前年15名、3名)。学外臨床心理士は、各キャンパスの定期相談日に学生から希望があった場合面接を施行した。附属病院医師には荒牧キャンパスに2週間にわたって順次来所していただき、新入生の面接をお願いした。全般的に面接の人数が増加傾向にある。

平成27年度 外国人留学生健康診断結果

本学では、過去、感染性結核症の学生が3名発生し、すべて外国人留学生であった。
そのため、第8回健康支援総合センター運営委員会(平成21年8月3日開催)において、外国人留学生に対しクオンティフェロンTB検査(結核感染診断マーカー検査)を特別健康診断項目として行うことが決定された。

1. 受検状況

	対象者数	受検者		※未受検者内訳
		人数	%	
教育学部	14	14	100%	
社会情報学部	15	15	100%	
医学部	13	11	84.6%	来日していない1名, 出張のため不在1名
理工学部	41	37	90.2%	来日していない2名, 出國中1名, 出張のため不在1名
国際教育・研究センター	0	0		
合 計	83	77	92.8%	

対象者:学部および大学院1年生, 学部3年次編入生, 平成26年4月以後に入学した研究生・聴講生・特別研究学生・特別聴講学生
※未受検者6名は来年度の学生定期健康診断を受検するよう説明し, 来年度の留学生健康診断対象者とした。

2. クオンティフェロンTBゴールド検査結果

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		擬陽性(±)	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	14	13	92.9%	1	7%	0	0%
社会情報学部	15	15	100%	0	0%	0	0%
医学部	11	7	63.6%	2	18.2%	2	18.2%
理工学部	37	36	97.3%	0	0%	1	2.7%
国際教育・研究センター	0						
合 計	77	71	92.2%	3	3.9%	3	3.9%

※今年度 医学部1年クオンティフェロンTBゴールド陽性率 0%
陽性者は医療機関を紹介した。擬陽性者は今年度の健康診断(胸部レントゲン検査)で異常がなければ毎年健康診断をうけるよう促し, 健康診断未受検者については医療機関を紹介した。

【参考資料:過去3年間の留学生健康診断結果】

	受検者数	陰性(-)		陽性(+)		疑陽性(±)		医学部1年 クオンティフェロンTB ゴールド検査 陽性率	
		人数	%	人数	%	人数	%		
平成24年度	94	81	86.2%	9	9.6%	4	4.3%	平成24年度	0%
平成25年度	102	90	88.2%	12	11.8%	0		平成25年度	0%
平成26年度	90	81	90.0%	7	7.8%	2	2.2%	平成26年度	0%

3. 医療機関受診結果

	医療機関紹介者数	受診結果		
		正常	潜在性結核として治療	経過観察
教育学部	1	0	1	0
社会情報学部	0	0	0	0
医学部	4	1	1	2
理工学部	0	0	0	0
国際教育・研究センター	0			
合 計	5	1	2	2

4. メンタルヘルス質問票による精神保健調査

	受検者数	問題なし		要面接者数	
		人数	%	人数	%
教育学部	13	13	100%	0	0%
社会情報学部	15	15	100%	0	0%
医学部	7	7	100%	0	0%
理工学部	36	36	100%	0	0%
国際教育・研究センター	0				
合 計	71	71	100%	0	0%

平成27年度 利用人数

所属学部等		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教 育 学 部	63	53	53	39	7	17	103	64	23	33	13	12	480
	社会情報学部	22	19	30	26	8	10	22	37	20	13	19	9	235
	医 学 部	10	10	20	23	2	1	14	8	11	1	0	0	100
	理 工 学 部	73	40	34	31	8	5	21	29	23	23	13	8	308
	国際教育・研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医 学 部	19	21	20	21	4	12	13	14	10	10	8	4	156
桐生・太田キャンパス	工 学 部	9	5	11	7	7	9	9	6	10	5	7	6	91
合 計		196	148	168	147	36	54	182	158	97	85	60	39	1,370
教 職 員		11	4	8	6	4	4	5	3	9	9	6	10	79
合 計		207	152	176	153	40	58	187	161	106	94	66	49	1,449

※昭和キャンパスで実施しているカウンセリングをうけた人数も含む。

平成27年度 利用件数

【学生】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	140	89	98	75	11	14	73	78	45	47	14	2	686
こころの健康相談	54	60	68	65	23	40	45	47	52	34	45	32	565
健康診断書発行	2	2	3	7	2	0	64	34	0	4	1	5	124
合 計	196	151	169	147	36	54	182	159	97	85	60	39	1,375

【教職員】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	2	3	5	1	1	2	3	1	4	6	3	4	35
こころの健康相談	9	1	3	5	3	2	2	2	5	3	3	6	44
健康診断書発行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	11	4	8	6	4	4	5	3	9	9	6	10	79

平成27年度 からだの健康相談・こころの健康相談の対応内容

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ（助言・指導）		14	9	14	6	2	1	6	5	5	5	1	1	69
	肥 満 治 療		8	1	2	0	3	0	0	4	0	0	0	0	18
	レディースクリニック		4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	外 傷 処 置		8	5	8	5	1	3	10	6	1	8	0	0	55
	検 査		0	4	1	1	0	0	0	1	3	0	0	0	10
	投 薬		71	56	61	46	5	8	46	54	29	25	8	1	410
	休養ベッド使用		9	10	7	11	0	0	5	4	4	2	1	0	53
	健康・保健用器具貸し出し		4	4	3	0	1	0	2	1	1	0	0	0	16
	医 療 機 関 紹 介		37	12	9	10	0	3	8	8	9	6	4	0	106
救 急 転 送		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	17	15	18	13	6	9	12	20	18	11	16	9	164
		カウンセラー紹介	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8
		投 薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医 療 機 関 紹 介	1	2	4	1	0	0	0	0	0	2	0	0	10
	カウンセラー	カウンセリング	37	45	50	52	17	31	33	27	34	23	29	23	401
		精神科医（当センター）紹介	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		医 療 機 関 紹 介	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
合 計		211	169	181	147	35	55	125	130	104	82	60	34	1,333	

※「こころの健康相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ（助言・指導）	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	5	
	肥 満 治 療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レディースクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外 傷 処 置	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	検 査	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4	
	投 薬	1	0	3	1	0	2	3	0	0	1	0	1	12	
	休養ベッド使用	1	0	2	0	0	0	0	0	3	1	0	1	8	
	健康・保健用器具貸し出し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医 療 機 関 紹 介	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	0	7	
	救 急 転 送	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	7	1	2	5	3	2	2	2	5	2	1	5	37
		カウンセラー紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		投 薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医 療 機 関 紹 介	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	カウンセラー	カウンセリング	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	7
		精神科医（当センター）紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医 療 機 関 紹 介	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
		合 計		11	4	12	6	4	5	5	3	11	8	6	10

※「こころの健康相談」の「カウンセラー」部分は、荒牧・昭和キャンパスで実施した結果を集計。

平成27年度 こころの健康相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教 育 学 部	17	24	16	16	5	11	12	4	9	7	9	6	136
	社会情報学部	7	6	15	12	6	6	10	19	14	7	12	9	123
	医 学 部	2	2	3	1	0	0	0	2	2	0	0	0	12
	理 工 学 部	12	7	7	10	6	3	3	5	7	6	11	7	84
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医 学 部	14	16	16	23	2	11	12	12	10	9	6	4	135
桐生キャンパス	工 学 部	2	5	11	3	4	9	8	5	10	5	7	6	75
合 計		54	60	68	65	23	40	45	47	52	34	45	32	565
教 職 員		9	1	3	5	3	2	2	2	5	3	3	6	44
合 計		63	61	71	70	26	42	47	49	57	37	48	38	609

平成27年度 こころの健康相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	18	14	13	16	12	13	11	16	14	12	17	15	171
対人関係	13	15	14	9	3	8	10	10	22	8	8	7	127
心体の不調	27	29	37	40	7	17	21	20	21	15	16	11	261
修学	3	2	6	5	2	2	2	1	0	1	4	3	31
その他	2	1	1	0	2	2	3	2	1	1	3	2	20
合 計	63	61	71	70	26	42	47	49	58	37	48	38	610

1回の相談につき、相談内容が複数の場合があります。

平成27年度 臨床心理士によるカウンセリング報告

【学生】

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数
荒牧地区	17	5	17	0	20	2	19	0	10	0	11	1	15	3	15	0	17	1	13	1	12	0	8	0	174	13
昭和地区	4	2	7	1	10	1	11	0	2	0	9	1	8	1	6	0	5	0	6	2	4	0	4	0	76	8
桐生地区	13	3	15	4	20	10	21	3	17	5	13	4	18	2	18	1	17	3	18	4	20	4	15	4	205	47
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合 計	34	10	39	5	50	13	51	3	29	5	34	7	41	6	39	1	39	4	37	7	36	4	27	4	456	69

新規受付者数は内数

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	30	31	35	36	15	20	23	20	29	16	25	19	299
荒牧地区	7	14	15	16	2	11	10	7	5	7	4	4	102
昭和地区	22	21	34	27	24	19	27	28	26	25	26	25	304
桐生地区	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
太田地区	59	66	84	79	41	51	60	55	60	48	55	48	706

カウンセリング動機内訳

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数	人数	新規 受付者数
心理性格	22	3	21	1	22	2	21	2	13	1	13	1	9	0	15	0	16	0	14	0	19	3	18	2	203	15
対人関係	18	0	15	0	15	2	13	0	9	2	16	3	18	0	16	0	24	1	14	2	17	0	16	1	191	11
心体の不調	12	5	24	3	31	6	32	1	9	2	16	2	18	3	11	1	7	0	8	2	9	0	6	0	183	25
修学影響心理等	7	2	5	1	15	2	12	0	8	0	4	0	11	1	8	0	9	2	9	3	10	1	8	1	106	13
その他	0	0	1	0	1	1	1	0	2	0	2	1	4	2	5	0	4	1	3	0	0	0	0	0	23	5
合 計	59	10	66	5	84	13	79	3	41	5	51	7	60	6	55	1	60	4	48	7	55	4	48	4	706	69

新規受付者数は内数

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

【職員】

カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	5
荒牧地区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
昭和地区	1	0	4	1	2	1	2	1	1	1	2	3	19
桐生地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田地区	3	0	5	1	2	1	2	1	1	2	4	4	26

カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	5
荒牧地区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
昭和地区	1	0	5	1	2	1	2	1	1	1	2	3	20
桐生地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太田地区	3	0	6	1	2	1	2	1	1	2	4	4	27

カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
心体の不調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
修学影響心理等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	6	1	2	1	2	1	1	1	4	4	25
合 計	3	0	6	1	2	1	2	1	1	2	4	4	27

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

平成27年度 疾病領域別利用者数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	呼吸器系	49	24	26	32	3	4	25	30	22	19	8	1	243
	消化器系	11	11	12	3	0	1	2	4	1	2	2	0	49
	腎臓系	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	内分泌・代謝系	11	3	2	0	1	0	0	4	0	0	0	0	21
	その他	13	16	13	18	2	4	9	4	6	5	2	0	92
精神科		54	60	68	65	23	40	45	47	52	34	45	32	565
外科・整形外科		24	20	19	8	1	3	22	17	9	4	0	1	128
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
耳鼻咽喉科		4	2	5	1	0	0	1	1	1	0	1	0	16
眼科		1	1	1	2	0	1	2	3	2	0	1	0	14
皮膚科		14	6	16	11	4	1	11	13	3	17	0	0	96
歯科・口腔外科		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
産婦人科		13	5	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	23
合計		194	149	166	140	34	54	118	125	97	81	59	34	1,251

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	呼吸器系	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	5
	消化器系	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	その他	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	1	8
精神科		9	1	3	5	3	2	2	2	5	3	3	6	44
外科・整形外科		0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	7
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
眼科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
皮膚科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		11	4	8	6	4	4	5	3	6	9	6	10	76

平成27年度 診療科別医療機関紹介件数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	2	0	8
	消化器系	3	3	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	11
	腎臓系	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	4	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	9
精神科		1	2	4	1	0	0	2	0	0	2	0	0	12
外科・整形外科		10	4	4	3	0	2	2	1	1	1	0	0	28
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		4	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	9
眼科		1	0	1	1	0	0	1	1	2	0	1	0	8
皮膚科		6	0	1	4	0	0	3	4	2	2	0	0	22
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
合計		38	14	13	11	0	3	10	8	9	8	4	0	118

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
精神科		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
外科・整形外科		0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
泌尿器科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
皮膚科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科・口腔外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	1	0	1	1	0	1	3	1	1	0	9

平成27年度 薬剤別処方日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
抗 生 剤	2	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	8
解熱・消炎・鎮痛剤	12	7	9	9	0	0	10	2	4	3	3	0	59
感 冒 剤	60	31	18	44	3	12	60	42	30	25	13	3	341
鎮 咳 剤	16	19	28	12	0	3	11	15	15	6	0	0	125
去 痰 剤	16	15	26	8	0	0	11	15	15	6	0	0	112
漢 方 剤	22	10	26	28	3	10	21	20	15	15	3	0	173
鎮 痙 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健胃剤・抗潰瘍剤	20	11	9	2	0	3	0	10	0	4	3	1	63
整 腸 剤	7	7	8	7	0	3	5	6	0	0	0	0	43
止 瀉 剤	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
鎮 吐 剤	9	12	7	3	0	3	0	6	0	3	0	0	43
抗アレルギー剤	2	3	13	2	0	0	12	4	0	4	0	0	40
※含 嗽 剤	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
※口腔内塗布剤	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	5
※外用副腎皮質ホルモン剤	4	2	5	2	1	0	3	5	0	2	0	0	24
※外 用 抗 生 剤	2	2	3	2	0	1	1	0	2	1	0	0	14
※外用抗ウイルス剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
※外 用 保 湿 剤	3	1	5	2	2	0	4	3	2	2	0	0	24
※外 用 消 炎 剤	4	11	5	3	0	1	5	7	5	3	0	0	44
※点 眼 薬	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	179	132	163	130	11	36	143	141	89	74	23	4	1,125

※の薬剤については、処方日数ではなく、個装単位とした。